

青森県埋蔵文化財調査報告書 第213集

# 石焼沢・西張(3)遺跡

— 東北新幹線建設事業に伴う遺跡発掘調査報告 —

1997年3月

青森県教育委員会





口絵1 石焼沢・西張(3)遺跡遠景(北から)



口絵2 西張(3)遺跡第1号(左)・2号(右)濠跡(北西から)





口絵3 西張(3)遺跡第1号濠跡(南東から)



口絵4 西張(3)遺跡第1号濠跡セクション(AD~AEライン間-西から)



# 序

馬淵川の流域には、多くの埋蔵文化財包蔵地が分布しています。

この報告書は、東北新幹線建設事業に伴い、福地村の石焼沢・西張(3)遺跡を発掘調査した記録をまとめたものです。

今回の調査によって、縄文時代の土坑群や遺物、古代以降に掘られたとみられる濠跡などの様子が明らかになりました。

この成果が、今後、文化財の保護と活用、とりわけ郷土史の研究資料などになれば幸いです。

ここに、調査の実施から報告書の刊行まで種々のご指導、ご協力をいただいた調査指導員をはじめ、関係各位に対して厚くお礼申し上げます。

平成9年3月

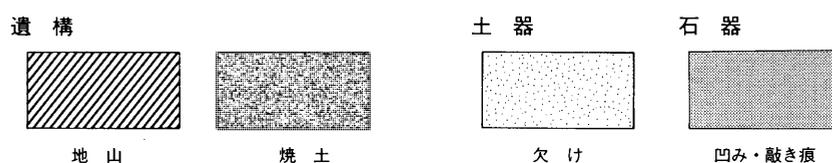
青森県教育委員会

教育長 松 森 永 祐



## 例 言

- 1 本報告書は、平成7年度に発掘調査を実施した、三戸郡福地村にある石焼沢・西張(3)遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 石焼沢遺跡は、平成6年3月に青森県教育委員会が発行した『青森県遺跡詳細分布報告書IV』に遺跡番号64035として、西張(3)遺跡は、平成4年3月に同じく青森県教育委員会が発行した『青森県遺跡地図』に遺跡番号64034として登録されている。
- 3 本報告書の執筆は主として編著者が当たったが、第2章「遺跡周辺の地形と地質」については、本遺跡に隣接し平成6年度に発掘調査が行われた西張(3)遺跡の調査報告書(県埋文報第197集)の第III章第1節「遺跡周辺の地形と地質」の執筆者の許可を得て、土層の記載の一部を変更・付加して掲載した。
- 4 石器の石質鑑定については、八戸市文化財審議委員松山力氏に依頼した。
- 5 本書に掲載した本遺跡の位置図は、建設省国土地理院発行の5万分の1地形図「三戸」を76%で複写したものである。また、本遺跡付近の地形図は、日本鉄道建設公団による2千5百分の1線路平面図を複写したものである。
- 6 挿図の縮尺は、図ごとにスケールを付した。なお、遺物写真の縮尺は、不統一である。
- 7 方位はすべて真北で統一した。なお、磁針方位は西偏7°30′である。
- 8 遺構・遺物の文・図中での表現は、原則として次の様式・基準によった。
  - (1) 遺構内外の堆積土の注記には、「新版標準土色帖」(小山・竹原, 1993)を用いた。なお、「ごろた」・「アワズナ」は、それぞれ「南部浮石」・「中振浮石」の俗称である。
  - (2) 遺物には観察表を付し、出土位置・層位・器形・部位及び諸特徴等を一覧できるようにした。
  - (3) 図中で使用したスクリーン・トーンの表示は下の通りである。



- 9 引用・参考文献については本文末に収めた。文中に引用した文献については、著者名・編集機関と西暦年で示した。ただし、報告書についてはそのシリーズ番号を記載した。
- 10 発掘調査における出土遺物・実測図・写真等は、現在、青森県埋蔵文化財調査センターで保管している。
- 11 発掘調査及び報告書作成に当り、下記の機関、諸氏から御教示・御指導を頂いた(順不同、敬称略)。  
八戸市教育委員会、(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、永澤秀夫、秋山瑞夫、小山内誠、半沢紀、工藤清泰、鈴木徹、宇部則保、齋藤淳、斎藤岳、花岡正光、東濱秀昭

# 目 次

口絵	
序	
例言	
目次、挿図・表目次	
第1章 調査に至る経過と調査概要	1
第1節 調査に至る経過	1
第2節 調査要項	1
第3節 調査の方法	2
第4節 調査の経過	4
第2章 遺跡周辺の地形と地質	6
第1節 地理的位置と周辺の地形	6
第2節 周辺の地質と遺跡の土層	7
第3章 石焼沢遺跡の出土遺物	11
第1節 発掘終了状況	11
第2節 出土遺物	13
(1) 土器	13
(2) 石器	16
第4章 西張(3)遺跡の検出遺構と出土遺物	18
第1節 遺構の配置	18
第2節 縄文時代の遺構	18
(1) 配石遺構	18
(2) 土坑	21
(3) 溝状ピット	29
第3節 縄文時代以外の遺構	34
(1) 土坑	34
(2) 濠跡	34
(3) 捨て焼土遺構	41
(4) 溝跡	41
第4節 遺構外出土遺物	44
(1) 縄文土器	44
(2) 石器	51
(3) 弥生土器	54
第5章 まとめ	55
引用・参考文献	55
写真図版	57
報告書抄録	71

## 挿 図・表 目 次

口絵 1	石焼沢・西張(3)遺跡遠景(北から)		
口絵 2	西張(3)遺跡第 1 号(左)・2 号(右)濠跡(北西から)		
口絵 3	西張(3)遺跡第 1 号濠跡(南東から)		
口絵 4	西張(3)遺跡第 1 号濠跡セクション(A D～A E ライン間-西から)		
例言	スクリーン・トーンを表示		
図 1	石焼沢・西張(3)遺跡の位置	図30	第 1 号溝跡 …………… 42
図 2	周辺の地形 …………… 3	図31	第 2 号溝跡 …………… 42
表 1	馬渕川下流域の段丘区分表 …………… 7	図32	第 3・4 号溝跡 …………… 43
図 3	地形区分図 …………… 9	図33	出土土器分布図 …………… 45
図 4	石焼沢・西張(3)遺跡基本層序実測図 …… 9	図34	遺構外出土遺物 (1) …………… 46
図 5	発掘終了状況 …………… 11	図35	遺構外出土遺物 (2) …………… 47
図 6	出土土器分布図 …………… 11	図36	遺構外出土遺物 (3) …………… 48
図 7	石焼沢遺跡11ライン土層実測図 …… 12	図37	遺構外出土遺物 (4) …………… 49
図 8	石焼沢遺跡出土遺物 (1) …………… 14	図38	遺構外出土遺物 (5) …………… 50
図 9	石焼沢遺跡出土遺物 (2) …………… 15	図39	遺構外出土遺物 (6) …………… 51
図10	石焼沢遺跡出土遺物 (3) …………… 16	図40	遺構外出土遺物 (7) …………… 52
図11	石焼沢遺跡出土遺物 (4) …………… 17	図41	遺構外出土遺物 (8) …………… 53
図12	遺構配置図 …………… 19	図42	遺構外出土遺物 (9) …………… 54
図13	第 1 号配石遺構 …………… 20	図43	遺構外出土遺物 (10) …………… 54
図14	第 1・2 号土坑 …………… 21	写真 1	石焼沢遺跡作業風景、基本層序・土層 …… 57
図15	第 3～5 号土坑 …………… 23	写真 2	石焼沢遺跡遺物出土状況、西張(3)遺跡作業風景 …… 58
図16	第 6～9 号土坑 …………… 25	写真 3	西張(3)遺跡検出遺構 (1) …………… 59
図17	第10・11号土坑 …………… 26	写真 4	西張(3)遺跡検出遺構 (2) …………… 60
図18	第12号土坑 …………… 27	写真 5	西張(3)遺跡検出遺構 (3) …………… 61
図19	第13・15号土坑 …………… 28	写真 6	西張(3)遺跡検出遺構 (4) …………… 62
図20	第15号土坑出土遺物 …………… 29	写真 7	西張(3)遺跡検出遺構 (5) …………… 63
図21	第 1・2 号溝状ピット …………… 30	写真 8	西張(3)遺跡検出遺構 (6) …………… 64
図22	第 3・4 号溝状ピット …………… 32	写真 9	西張(3)遺跡検出遺構 (7) …………… 65
図23	第 5 号溝状ピット …………… 33	写真10	石焼沢遺跡出土遺物 (1) …………… 66
図24	第14号土坑 …………… 34	写真11	石焼沢遺跡出土遺物 (2) …………… 67
図25	第 1・2 号濠跡 …………… 35・36	写真12	西張(3)遺跡出土遺物 (1) …………… 68
図26	第 1・2 号濠跡セクション …………… 37	写真13	西張(3)遺跡出土遺物 (2) …………… 69
図27	第 1 号濠跡出土遺物 …………… 38	写真14	西張(3)遺跡出土遺物 (3) …………… 70
図28	第 1・2 号濠跡セクション …… 39・40		
図29	第 1 号捨て焼土遺構 …………… 41	報告書抄録(表) ……………	71

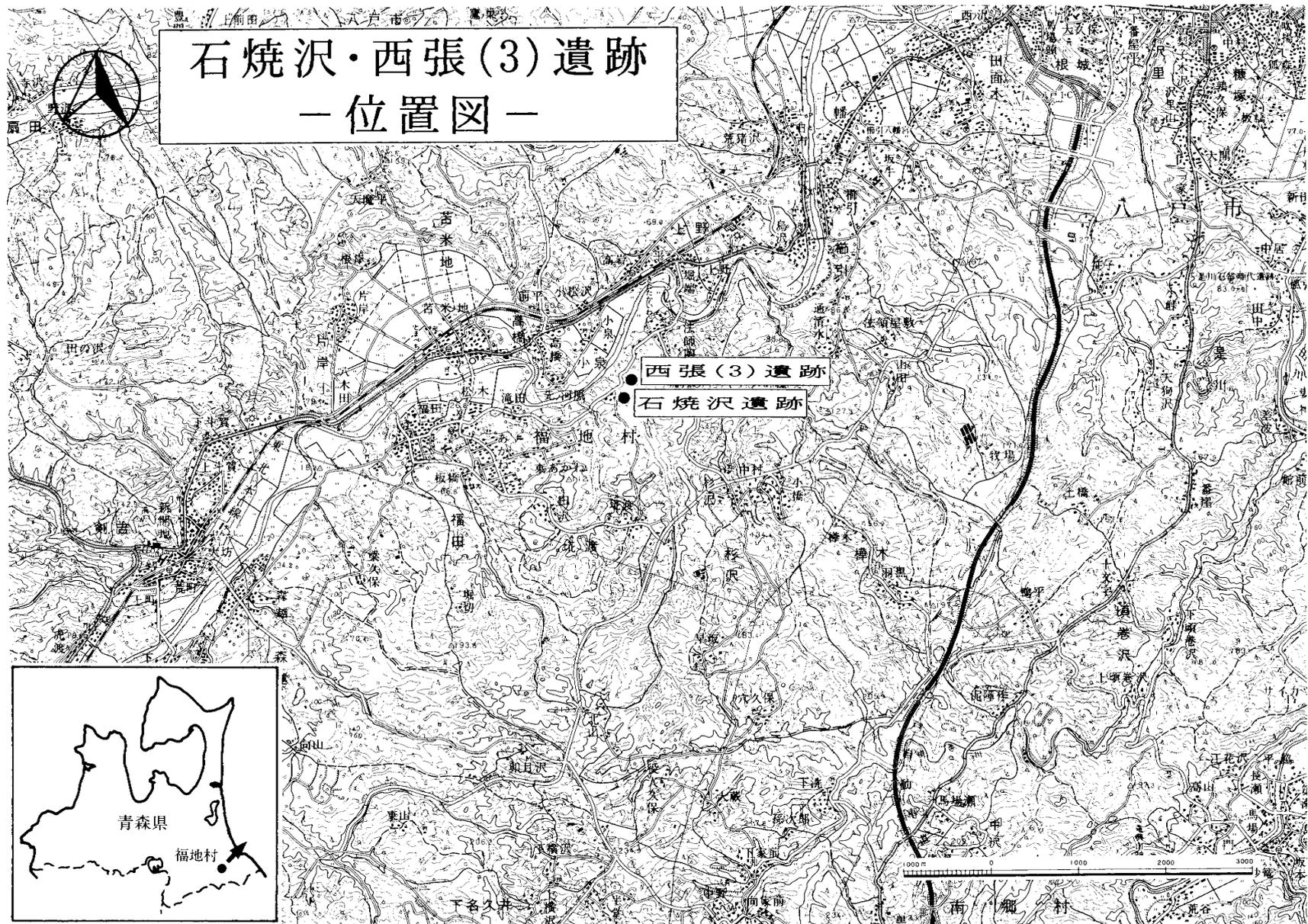


図1 石焼沢・西張(3)遺跡の位置

# 第1章 調査に至る経過と調査概要

## 第1節 調査に至る経過

東北新幹線盛岡以北の工事に伴う県内の埋蔵文化財発掘調査は、三戸郡名川町の日渡遺跡から始まり、同遺跡の発掘調査は、平成5年4月12日から同年6月25日まで実施された（県埋文報第162集）。続いて、西張(3)遺跡の発掘調査が、平成6年8月22日から同年11月18日まで実施された（県埋文報第197集）。

本遺跡と関係が深い西張(1)・(2)遺跡は、「県埋蔵文化財包蔵地カード」（遺跡台帳）によると、昭和39（1964）年にその一部が発見された遺跡である。また、昭和48年と49年に、現在県埋蔵文化財調査員に委嘱されている橋本正信氏らによって確認されている。

日本鉄道建設公団の東北新幹線建設計画に伴い、県教育委員会では、平成3年度に計画区域の遺跡分布調査を実施し、これまでの遺跡台帳では、不明確であった西張(1)・(2)遺跡の位置関係を明確にするとともに、新たに西張(3)遺跡を確認し、平成4年度に作成した「青森県遺跡地図」に現在のように整理して登録したものである。また、平成5年度の遺跡分布調査で、西張(3)遺跡の南に新たに石焼沢遺跡が登録された。

平成6年8月には、県教育庁文化課によって、西張(2)・(3)遺跡の試掘調査及び石焼沢遺跡の分布調査が実施され、本遺跡の調査対象範囲がほぼ確定した。このうち、平成6年は、西張(3)遺跡のうち変電所に係る3,900平方メートルを発掘調査した。平成7年は、路線に係る石焼沢遺跡2,500平方メートル、路線・村道及び林地に係る西張(3)遺跡2,300平方メートルを発掘調査することになった。

## 第2節 調査要項

- |   |          |  |
|---|----------|--|
| 1 | 調査目的     | 東北新幹線建設事業に先立ち、当該地区に所在する石焼沢・西張(3)遺跡の埋蔵文化財発掘調査を行い、その記録保存を図り、地域社会の文化財の活用に資する。                     |
| 2 | 発掘調査期間   | 平成7年7月3日から同年11月2日まで  |
| 3 | 遺跡名及び所在地 | 石焼沢遺跡（青森県遺跡番号64035）<br>三戸郡福地村大字坵渡字下外窪5-10、外<br>西張(3)遺跡（青森県遺跡番号64034）<br>三戸郡福地村大字法師岡字大道ノ下27-4、外 |
| 4 | 調査面積     | 石焼沢遺跡 2,500平方メートル<br>西張(3)遺跡 2,300平方メートル   |
| 5 | 調査委託者    | 日本鉄道建設公団   |
| 6 | 調査受託者    | 青森県教育委員会   |
| 7 | 調査担当機関   | 青森県埋蔵文化財調査センター   |

8 調査協力機関 福地村教育委員会、三八教育事務所

9 調査員等

調査指導員	村越 潔	青森大学教授（考古学）
調査協力員	玉川 勝義	福地村教育委員会教育長
調査員	滝沢 幸長	八戸市文化財審議委員（考古学）
〃	七崎 修	元青森県立八戸北高等学校教諭（地質学）
〃	橋本 正信	青森県立田子高等学校教頭（考古学）
〃	小林 和彦	八戸市縄文学習館（八戸市博物館分館）主査兼学芸員（動物考古学）
調査担当者	青森県埋蔵文化財調査センター	
	調査第二課 総括主幹	
	課長	鈴木 克彦
	主査	伊藤 昭雄（現、総括主査）
	主事	中村 哲也
	調査補助員	高橋 昌也、山田 尚美、田中 美鈴、 内藤 一将

### 第3節 調査の方法

調査開始に当って、石焼沢遺跡では、日本鉄道建設公団が設置した新幹線建設用の中心杭「587k300」を基準点（F-6）とし、それぞれの中心杭を結ぶ南北方向の基準線をFラインとした。そして、中心杭「587k300」でFラインに直交する東西方向の基準線を6ラインとして4m×4mのグリッドを設定した。アルファベットの順は東から西へ、算用数字の順は北から南へとし、この組合せによって、F-12、H-15というようにグリッドを呼んだ。各グリッドは、その北東隅のグリッド杭の記号により表示することとした。

測量原点（ベンチマーク）は、日本鉄道建設公団が本遺跡南端西隅に設置したBM.1（標高29.974m）からレベル移動を行い、調査区域内に数箇所設置した。

南北軸線は、磁北・真北からそれぞれ25度・17.5度東へ偏っている。

土層観察用として11ラインをベルト状に残し、自然堆積の各土層に上位よりローマ数字のI～IXを付して、遺跡内の普遍的なものとした。この外に、基本層序観察用としてA-16及びA・B-6グリッドを一部深く掘った。前者は、先のIX層以下はXI層まで分層・観察している。

西張(3)遺跡では、平成6年度の調査区域南側にそのまま残っていた数本のグリッド杭のうち、AK-50を基準点（同）とし、AP-50と結ぶ東西方向の基準線を同じく50ラインとした。そして、AK-50で50ラインに直交する南北方向の基準線を同じくAKラインとして4m×4mのグリッドを調査区域内に設定した。アルファベットの順は西から東へ、算用数字の順は南から北へとし、この組合せによって、AG-38、AK-36というようにグリッドを呼んだ。このグリッド設定は平成6年度のそれをそのまま踏襲したものである。



図2 周辺の地形

平成6年度の調査では、新幹線建設用の中心杭「587k500」を基準点(AA-50)としており、それぞれの中心杭を結ぶ南北方向の基準線をAAラインとしている。そして、中心杭「587k500」でAAラインに直交する東西方向の基準線を50ラインとして4m四方のグリッドを設定している。なお平成7年度は、調査区域がAAラインより西へも延びているため、この方については、アルファベットの順を逆にし、西へ行くにつれ、ZZ、ZY、……とした。

測量原点は、日本鉄道建設公団が本遺跡南100m弱の水路そばに設置したBM.2(標高15.722m)からレベル移動を行い、調査区域内に数箇所設置した。

南北軸線は、石焼沢遺跡同様、磁北・真北からそれぞれ25度・17.5度東へ偏っている。

土層観察用として、AD～AEラインの間に、本遺跡を南北に横断するベルトを残した。自然堆積の各土層には上位よりローマ数字のI～Vを付して、遺跡内の普遍的なものとした。この外に、基本層序観察用としてZV-39グリッドを一部深く掘り、先のV層以下はVII層まで分層・観察している。

遺構は西張(3)遺跡のみから検出され、各種類ごとに確認順に番号を付した。調査は原則として二分法で行い、堆積土の状態を観察しながら進めた。遺構内の土層には算用数字を付して呼んだ。

遺構の実測は、基本的には遣り方と平板測量で行ったが、濠跡については、ラジコンヘリコプターによる空中ステレオ撮影を行い、これをもとにした等高線入りの平面図作成を(株)シン技術コンサルに委託した。実測における縮尺は、基本的には20分の1とし、遺物の出土状態や規模の大小によって10分の1及びその他とした。

遺物は、遺構及び層位ごとに取上げることを原則とした。遺物の出土地点を記録し、層位・標高を図に記入した。遺構外出土遺物は、層位及びグリッドごとに取上げた。

記録保存のために、適宜写真撮影を行った。遺構については、土層断面・遺物の出土状況・完掘等を撮った。その他必要に応じて標準土層・調査状況等についても撮った。写真は、モノクローム、カラーリヴァーサルフィルムを使い、貴重な遺構・遺物等についてはカラープリントも使用した。

## 第4節 調査の経過

平成7年7月3日、調査器材等を石焼沢遺跡近くの借地に搬入し、プレハブ小屋内清掃、器材収納及び同小屋作り等いわゆる環境整備を行うとともに、発掘現場の草刈りや枝拾い、一部は10ライン以北の粗掘りにとりかかった。

翌4日から併行してグリッド設定のための杭打ちを始めた。南端部西には取壊された民家の土台が残っており、重機でこれを取壊しにかかった。6日には、調査区域内に測量原点を設置するため、レベル移動を行った。北側は、八戸火山灰～一部は高館火山灰層まで削平されており、その上の盛土等は薄く、粗掘りははかどった。重機で先の土台を除去し、さらにその下の盛土も剥ぐと、この付近はもとは小さな沢であることがわかった。土台や排土は、昨年度調査した西張(3)遺跡内へ運んだ。12日には、もとの地表の現れたこの沢に幅2×6mほどのトレンチを重機で2本掘ったが、遺物等は見られなかった。

14日には、福地村中央公民館3階集会室にて調査打合せ会議を催し、調査の万全を期するために、調査員や調査委託者等10数名が参集して、調査実施計画、方針等を打合せした。この日から粗掘りは

11ラインより南にも入ったが、こちらはすぐに南東付近II層より、縄文時代後期(十腰内I式)土器のまとまった破片が出土した。

19日に先のトレンチ2本の土層セクションを実測し終えたが、遺構・遺物が認められないことから、未買収の南端東半も含めた調査区南端の、もとの沢の発掘調査は不要と判断した。また、北端の急な斜面(崖)及びその下の谷底平野(もと水田)についても、遺物の表採はなく同様の判断をした。

20日にはC-12グリッド杭付近の黒色土(II層)下限付近に白頭山苦小牧火山灰(B-Tm)とみられる細粒火山灰を確認した。11ラインより南は表土が厚く、粗掘りはアワズナの確認できるV層で一旦止め、その後ごろたを多量に混入する暗褐色土(VII層)が現れるまで掘るといった形をとった。

8月8日、基本層序観察のため、A-16グリッドの一部を深く掘った。ここでは、地表下240cmまで掘り、XI層まで確認した。併行して本遺跡中央を東西に横断する11ラインのベルトについて、連続した土層観察を行い、盛土の下にIX層まで確認した。10・11日、このセクションを詳細に実測した。

25日には、一部西張(3)遺跡の方の粗掘りを開始した。

石焼沢遺跡の粗掘りは順調に進んだが、遺構は検出されず、土器片・石器がまばらに出土するのみであった。28日に、器材小屋を取壊し、翌日西張(3)遺跡のプレハブへ器材等を運んだ。30日、遺跡全体を写真に撮るため、ジョレンで丁寧に表面を剥ぎ、等高線の測量のみを残して調査を終えた。

8月31日、作業員は全員西張(3)遺跡へ移り、東西両端から中央に進む形で粗掘りにとりかかった。

9月5日より重機を入れ、笹の根が密集する35ライン以南の、三角形の張出し部分から表土を剥ぎ始めた。翌6日には、重機を使ってZHライン以西の盛土・表土を除去した。7日、東端で濠跡2条を合流する形で確認した。重機はZHライン以東に入り、ABライン付近までの盛土の除去にとりかかった。大量の排土は、北東の、昨年度調査した西張(3)遺跡の方へ運んだ。11日からは、ZOライン以西の粗掘り・精査にも着手した。13日、濠跡の覆土(上半分は盛土)が多量で人力でははかどらないため、中位以上は慎重に重機を使って除去した。下位は人力で粗掘り・精査をやっていったが、覆土には残念ながら遺物は見られなかった。18日、ZHライン以西の遺物包含層(II層)の掘進で、縄文時代後期主体の土器が出土し始めた。粗掘りはIV層上限まで慎重に行った。27日、AD~AEラインの間の、本遺跡を南北に横断するベルトのセクションを実測した。28日、(株)シン技術コンサルの中川氏が来現され、空中撮影による濠跡の実測について打合せを行った。

10月4日より土坑の精査に着手した。11日、福地村教育委員会主催の婦人学級の方20名ほどが見学され、調査区域内を一巡し、規模の大きな濠跡や遺構の確認方法等について熱心な質問を受けた。濠跡の粗掘り・精査は12日までに終了し、13日10時より(株)シン技術コンサルの技術者等数名が空中撮影にとりかかった。17日よりZJライン以東の包含層(III層)を掘進し、遺構の確認及び精査に努めた。24日以降、検出中の土坑・溝状ピット・捨て焼土遺構及び溝跡の精査に全力を投入した。26日から、ZXライン以東の濠跡両側をIV層下限まで掘り進んだが、ZZ-37グリッドIII層から縄文時代早期(白浜・小舟渡平式)の深鉢片が出土した。30日以降、保安のため濠跡の埋め戻しを行った。

11月1日、調査器材の水洗いやプレハブ内の清掃を行い、器材・出土遺物をトラックで搬出し、無事現地調査を終了した。

## 第2章 遺跡周辺の地形と地質

### 第1節 地理的位置と周辺の地形

石焼沢・西張(3)遺跡は、馬淵川の右岸にあって、背後（南東）から張り出す丘陵・段丘群の末端の、洪積低位段丘（田面木段丘）～一部は谷底平野に展開している。

馬淵川は、岩手県葛巻町袖山に源を発する幹川流路延長142m（理科年表）の一級河川である。県境の三戸町からおよそ北東に下り、遺跡の西南西約4kmの福地村八木田付近で進路を東北東に変え、遺跡に接する付近から東北東1km余りの烏沢付近までの区間では、兩岸の台地の間をくねるように屈曲を繰り返し、八戸市櫛引付近から3kmほど北に流れたあと、幅広く開けた沖積地に入って北東に向かい、遺跡の北東およそ13kmの八戸湾に注いでいる。

石焼沢遺跡の背後は、坵渡東付近の丘陵地帯（海拔高度100m前後、天狗岱段丘面）から遺跡まで次第に高度を下げる段丘群の斜面となっている。西張(3)遺跡の背後は、樺木周辺の丘陵地帯（海拔高度130～150m余、蒼前平段丘面）から杉沢付近（天狗岱段丘面）をへて、遺跡まで次第に高度を下げる段丘群の斜面となっている。一般に、周辺地域の馬淵川の南東側には、馬淵川に並行するように幾段もの段丘が配列するが、平均的には馬淵川に向かって比較的緩く傾斜する丘陵地域になっていて、それを刻むように、幾条もの中小河川が、馬淵川に向かって直線的に、あるいは複雑に屈曲しながら流れ下っている。石焼沢遺跡と西張(3)遺跡は、このような小河川の一つによって隔てられている。

遺跡の前面に当る馬淵川の北西側では、高度60～100m以上の丘陵地（おおむね天狗岱段丘面）から、沿岸の沖積地やより低位の洪積段丘面に向かって、落差の大きい急崖を落すところが多い。

遺跡周辺地域の丘陵・段丘群は、従来、中川、大池、松山などによる八戸付近の区分に従って、高位から低位に、蒼前平段丘、天狗岱段丘、高館段丘、根城段丘、田面木段丘、尻内段丘、名久井段丘などに区分されてきたが、最近、大和伸友は表1に示したように区分している（1988）。図3は、遺跡を中心においた東西5km、南北3.5kmの範囲を、中川、大池、松山などの区分を基本にしなが、一部を大和の区分に従って変更補足し、作成した地形区分図である。

蒼前平段丘は、小橋の南方に見られる面高度130m以上の起伏に富む丘陵地である。

天狗岱段丘は、この地域に分布する全ての褐色火山灰（ローム）層を載せる段丘で、段丘面高度が80～110mの起伏に富む丘陵を形成している。なだらかに起伏する南方の坵渡や杉沢付近の丘陵地、苦米地北方の天魔平から高岩北方へかけての丘陵地が該当する。

あかね段丘（大和、1988）は、遺跡の南西方1～2km付近に造成された住宅団地の新地名に由来した名称で、北に緩やかに傾く高度70～90mのあかね南半部を標式地としている。この段丘は南側の天狗岱段丘の裾に沿って、主に遺跡の南から西南西方向に幅を広げながら続き、あかね、福田付近で広がりが大きくなる。天狗岱段丘との間には、比較的明瞭な落差10～20m前後の段丘崖が連続するところが多い。

高館段丘は、高館火山灰層とその上位の火山灰層を載せる段丘で、この地域での面高度は40～60mである。あかね段丘との間に明瞭な段丘崖を持つ部分は少なく、その段丘面はあかね段丘面から漸移

表1 馬淵川下流域の段丘区分表

中川 (1972)	中川・大地・松山	大和伸友 (1988)		
洪積	最高位段丘	蒼前平・九戸段丘	九戸段丘	
	高位段丘	天狗岱段丘	出会坂段丘面	
			杉沢段丘面	天狗岱高位面
			通清水段丘面	
		荒猪沢段丘面	天狗岱低位面	
積	中位段丘	高館段丘	あかね段丘面	
			鳥沢段丘面	高館段丘面
世	低位段丘	根城段丘	根城段丘面	
		長七谷地段丘	上野段丘面	
		田面木段丘	五日市段丘面	
			三本木段丘面	
沖積	平野	名久井段丘	名久井段丘面	
		尻内段丘	尻内段丘面	
		海岸・河岸平野	低位面	

※ 中川・大地・松山は、それぞれの著作と共著作物を松山が編集

的に移行して、あかね段丘面と同様に、馬淵川の流路方向に向かって緩やかに傾斜するところが多い。

田面木段丘は、高館火山灰層の上半以上の火山灰層をのせる（大和、1988）段丘である。面高度は20～40mで、高館段丘の外縁に沿って分布する。本来、中川、大池、松山などが田面木段丘と呼んだものは、高館火山灰層の最上部と八戸火山灰層以上で構成される段丘であるが、ここでは大和の区分にしたがうことにした。

名久井段丘は沖積地を構成する上位の段丘で、一般に小河川に沿うものを除いて傾斜はごく小さく、ほぼ水平な平坦面をつくっていることが多い。水分に富む砂礫・砂・シルト・粘土などが段丘構成層で、南部浮石層の分布域ではこの浮石

層をのせている。沖積低位面とは落差数～10mの明瞭な段丘崖で接しているところが多い。

名久井段丘を含む沖積低地帯（谷底平野）は、馬淵川両岸にほぼ連続して分布する、ところどころで、丘陵をえぐって弧状に入り込む急崖（段丘崖）と、流路とに囲まれた半月形に広がる盆地状の低地となって広がっている。名川町の馬淵川右岸の広場（地名）の北側や左岸の斗賀の沖積地はその例で、遺跡に近い左岸の苔米地付近も同形の開けた沖積地であるが、ここには縄文時代の一時期に湖沼が存在したようである。

遺跡の主体は前述したように田面木段丘（大和の上野段丘）上にあるが、その先端部はやや傾斜を増して、遺跡の発掘部から350m程度で馬淵川に達している。石焼沢遺跡の東縁及び西張(3)遺跡の西縁は、4kmほど南方に谷頭を持つ小谷(段丘面との高度差数m以内)で画される。石焼沢遺跡西方500mには、2.5kmほど南方に谷頭を持つ小谷がある。西張(3)遺跡東部は浅く凹んだ程度の目立たない小谷で、湿地帯となっている。その東には、遺跡の北東300m付近まで北北西に下り西に向かうもう一つの小谷があり、遺跡の北方で、遺跡東部の浅く凹む小谷と合して馬淵川に達する。西張(3)遺跡の南東方はゆるやかに高さを増して高館段丘面に漸移し、遺跡の500m先で天狗岱段丘崖に接する。

## 第2節 周辺の地質と遺跡の土層

遺跡周辺の基盤は第三紀中新世の安山岩や、安山岩礫を構成礫とする角礫擬灰岩などの堆積岩類である。安山岩は、東方の新井田川沿いや南西方の名川町平に流れ下る如来堂川上流域の先第三系堆積岩類とともに、縄文時代の礫石器や炉跡を囲む炉石、石組みなどによく用いられている。石焼沢遺跡東縁及び西張(3)遺跡西縁の谷壁には、第三紀の凝灰岩が露出している。

基盤の上には、砂礫・砂・シルト・粘土層などの段丘堆積物がのり、これらを褐色火山灰層とその上の黒色土層群が覆っている。

図4の左は、石焼沢遺跡の調査区域南の、黒褐色～黒色土層の厚いA-16グリッド東壁の断面である。これを基本層序とし、ここでは、最下位の八戸火山灰層まで、上から下へ、第I層から第XI層までの11層に区分できた。土層の詳細は下の通りである。なお、北東の段丘面縁のA・B-6グリッドも一部深く掘ったが、ここでは八戸火山灰の下に黄褐色(10YR5/8)の高館火山灰を確認した。

- 第I層 黒褐色土(10YR3/1) 粘性ややあり。湿性・しまりあり。十和田b降下火山灰(To-b)の浮石少量含む。
- 第II層 黒色土(10YR1.7/1) 粘性なし。湿性ややあり。しまりあり。To-bの浮石少量含む(第I層よりは少ない)。
- 第III層 黒色土(10YR1.7/1) 粘性・しまりややあり。湿性あり。アワズナ微量混入。
- 第IV層 黒色土(10YR2/1) 粘性・しまりややあり。湿性あり。アワズナ少量混入。漸移層。
- 第V層 黄褐色火山灰(10YR5/6) しまりややあり。アワズナ(レンズ状に堆積)。黒褐色土がところどころに混入。
- 第VI層 黒褐色土(10YR3/1) 粘性あり。湿性・しまりややあり。ごろた(径1cmの明黄褐色浮石)中量混入。
- 第VII層 暗褐色土(10YR3/3) 粘性・湿性・しまりあり。ごろた(径1cmの明黄褐色浮石)多量混入(部分的に密集)。
- 第VIII層 鈍い黄褐色ローム(10YR4/3) 粘性・湿性・しまりあり。ごろた(径1cmの明黄褐色浮石)中量混入。
- 第IX層 褐色ローム(10YR4/4) 粘性ややあり。湿性・しまりあり。径1cmの浮石少量散在。
- 第X層 鈍い黄褐色浮石(10YR6/4) 粘性なし。湿性・しまりあり。径1cmの浮石多量(上ほど細粒)。八戸火山灰。
- 第XI層 灰白色細粒火山灰(10YR7/1) 粘性・湿性あり。しまりややあり。八戸火山灰。

西張(3)遺跡の基本層序については、調査区域のほぼ中央ZV-39グリッドを一部深く掘り、南壁の土層を採った。その詳細は下の通りである。図4の右は、その実測図である。

- 第I層 黒褐色土(10YR2/3) しまりややあり。
- 第II層 黒色土(10YR2/1) To-bの浮石少量含む。
- 第III層 黒褐色土(10YR2/3) アワズナ・ごろた少量含む。
- 第IV層 暗褐色土(10YR3/3) しまりややあり。ごろた中量含む。色調に濃淡あり。
- 第V層 黄褐色ローム(10YR5/6) しまりあり。ごろたをとところによって少量、ところによって多量含む。上半は黒褐色土を含み、第IV層に漸移する。
- 第VI層 黄褐色ローム(10YR5/6) しまりあり。浮石中量混入。
- 第VII層 鈍い黄色火山灰(2.5Y6/4) 上半25cmは浮石。それ以下は細粒。八戸火山灰。

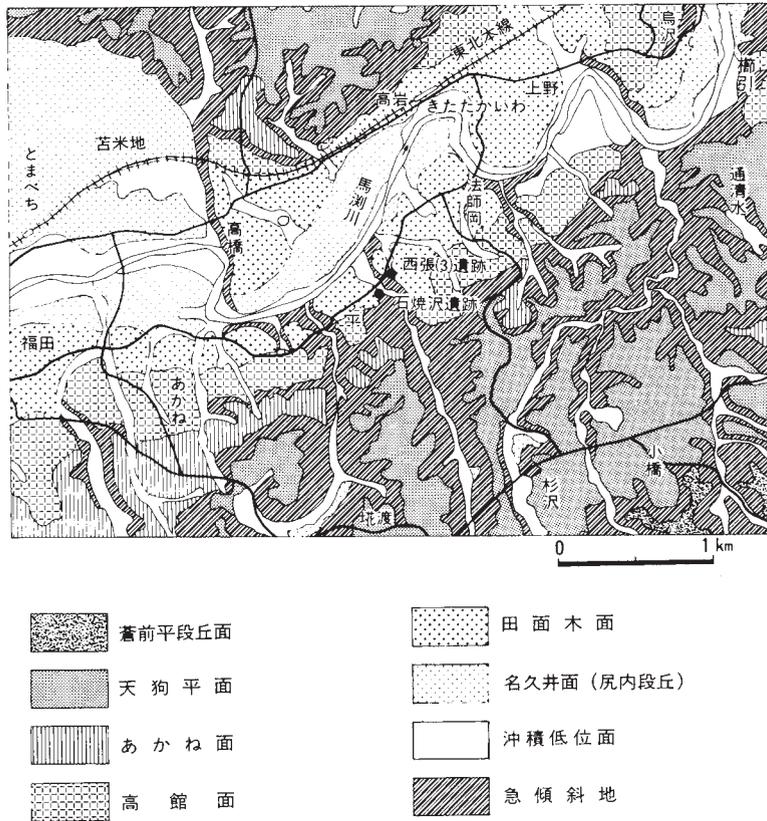


図3 地形区分図

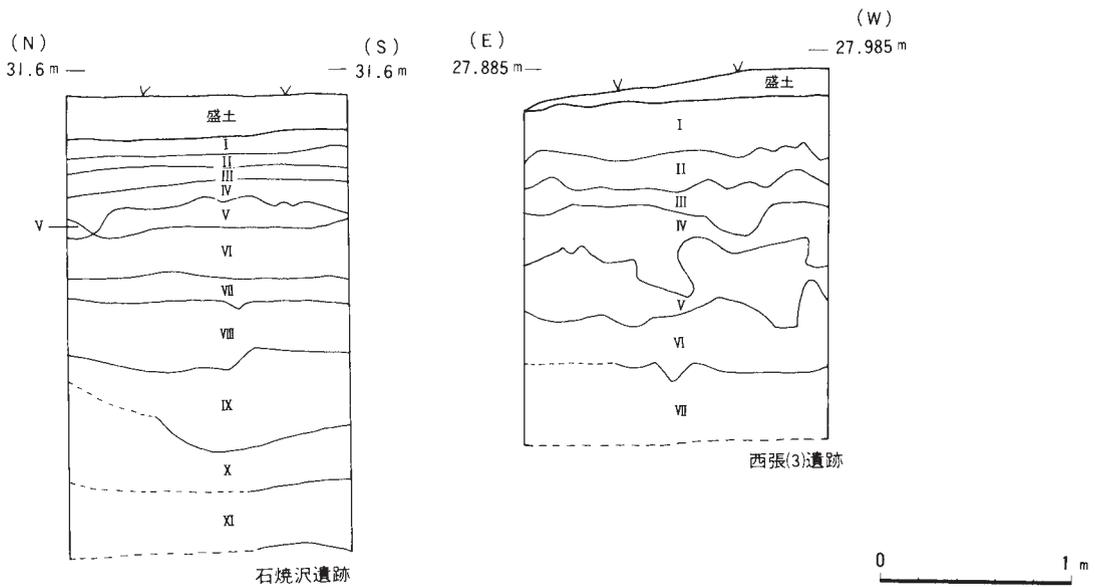


図4 石焼沢・西張(3)遺跡基本層序実測図

両遺跡で観察できるTo-bの浮石は堅く、粒径2～10mm、灰白色(10YR8/1～8/2)を呈しており、弥生時代初頭頃に降下堆積したとみられる十和田b降下火山灰層の浮石が、土層中に散乱したものである。

また、アワズナは、縄文時代前期に降下した中礫浮石である。南郷村畑内遺跡では、この浮石の直上に円筒下層a式土器が密集して出土する包含層があり、岩手県中曽根遺跡では大木1式相当土器や大木2式土器をとまなう遺構(竪穴住居跡など)を覆っていることが明らかにされている。

さらに、ごろたは、縄文時代早期に降下した南部浮石である。その降下年代については $8600 \pm 250$ 年 B.P.という測定例(1970、大池ら)がある。

最下位の八戸火山灰の噴出時期は、12000～13000年前である。八戸火山灰層の降下相部は火山灰と粗粒浮石の互層で、下から上へ、[I層]から[VI層]までの6層に分層されている。奇数記号を付した部分は火山灰層に、偶数部は粗粒浮石層に当る。

(松山力・七崎修・伊藤昭雄)

[引用・参考文献]

中川久夫 1972：青森県の第四系 青森県の地質 青森県

大池昭二・高橋 一 1970：南部浮石の $^{14}\text{C}$ 年代－日本の第四紀層の $^{14}\text{C}$ 年代 (62)－地球科学24

大和伸友 1988：馬淵川下流域の段丘地形 駒沢地理24

井上克弘 1982：東北地方北部の火山灰 考古風土記7

鎌田耕太郎・秦 光男・久保和也・坂本 亨 1991：20万分の1地質図「八戸」 地質調査所

## 第3章 石焼沢遺跡の出土遺物

### 第1節 発掘終了状況

調査の結果、図5にあるように、10ライン付近より北の西半は第Ⅶ層（南部浮石層）途中まで、東半は第Ⅹ層（八戸火山灰層）途中まで削平されていた。なお、東半の一部は八戸火山灰層直下の高館火山灰層途中まで削平されていた。A・B-6グリッドのトレンチ西壁では、写真1にあるように、八戸火山灰層と高館火山灰層との間に厚さ1mmほどの暗灰黄色土(2.5Y4/2)が挟在し、北の急斜面側に22°前後で傾いていた。この極めて薄い層は、八戸火山灰層堆積前の古い土壌とみられているものである。6～3ライン付近より1ラインにかけては傾斜角43°前後の急斜面で、土砂の崩落も見られる。

16ライン付近より南側は、幅2×6mのトレンチを2本掘った結果、遺構の検出及び遺物の出土はなく、もとは小さな沢であることがわかった。このトレンチの土層断面図は掲載していないが、実測から東で1.4m以上、西で1.6m以上地山（第Ⅶ層）が低くなる。地山の上には粘性のある厚い黒褐色～黒色土が堆積していた。湧水のため沢底面まで土層を観察することはできなかった。

このように、粗掘りは4ライン付近より18ライン付近まで第Ⅶ層の暗褐色土が現れるまで掘った。

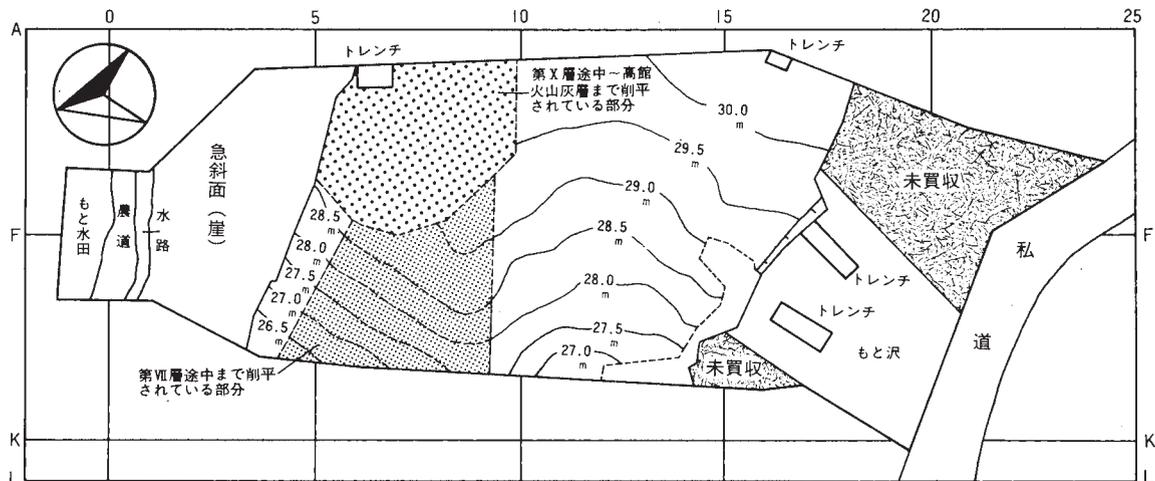


図5 発掘終了状況

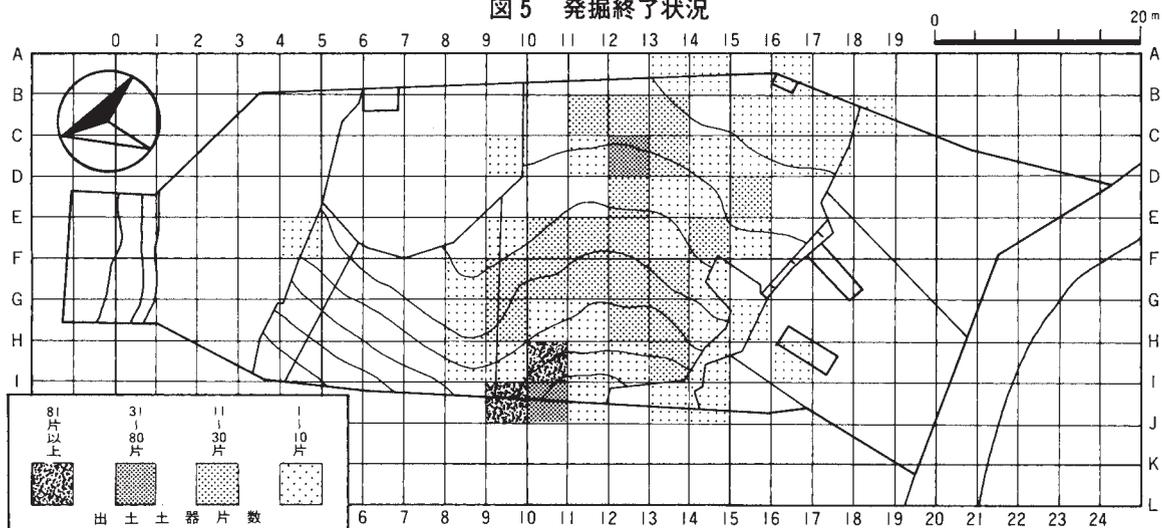


図6 出土土器分布図

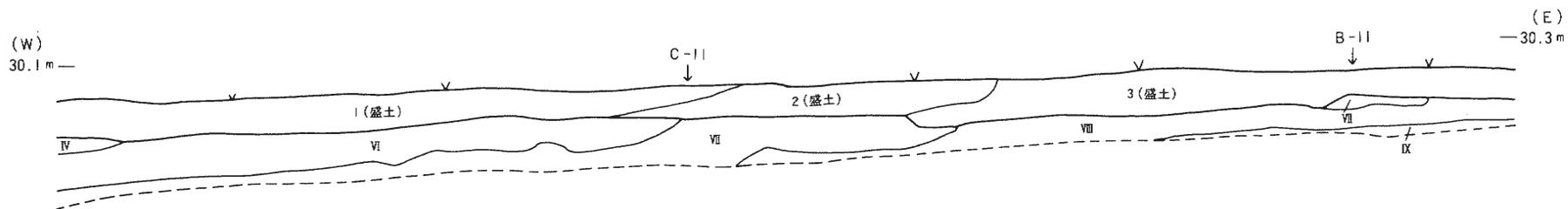
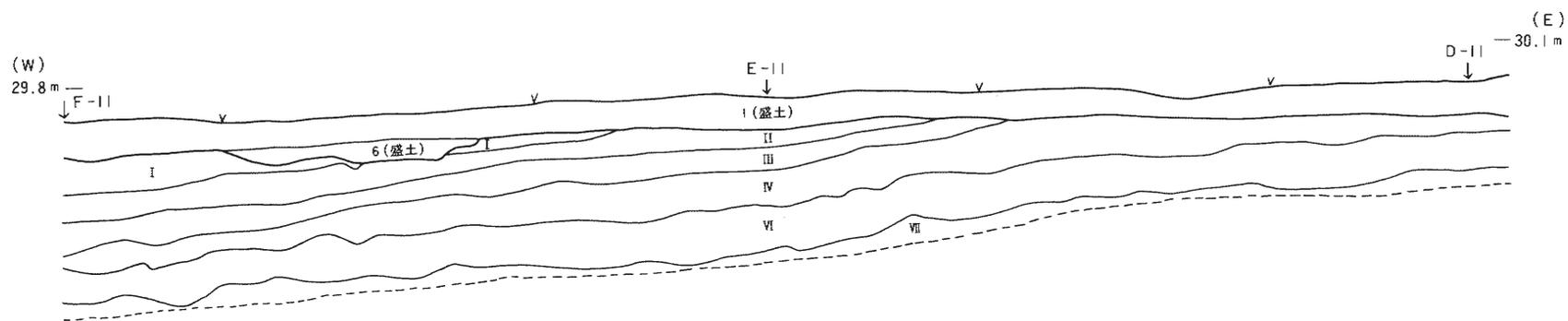
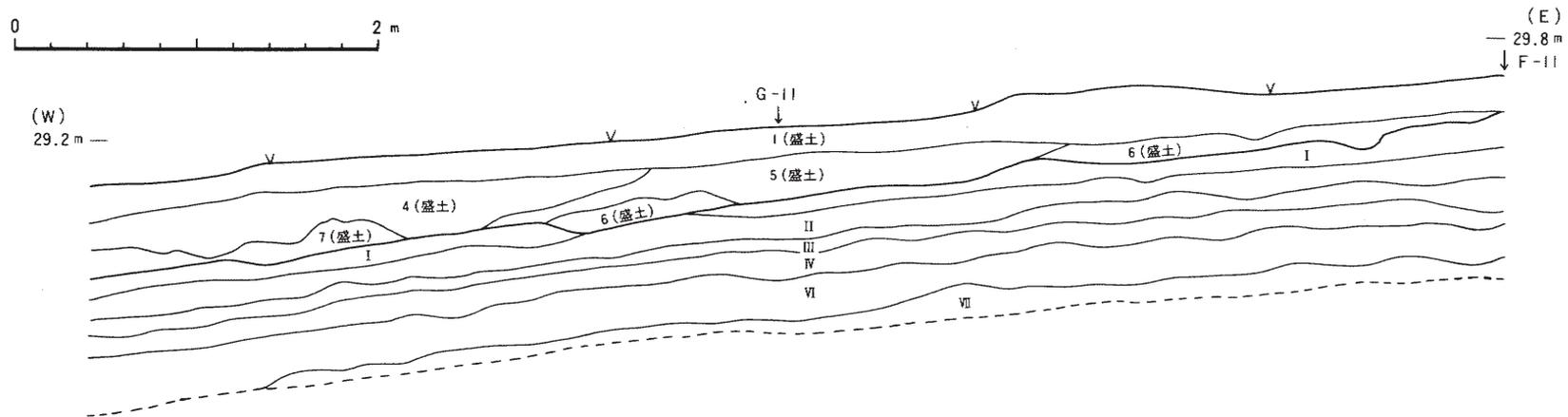


図7 石焼沢遺跡11ライン土層実測図

## 第2節 出土遺物

### (1) 土器 (図6・8・9)

出土した土器片は全部で約860点で、トコ函(横36cm×縦58.5cm×深さ16.5cm)で2箱である。このうち報告書に収録したのは20点で、出土総数の2%強にすぎない。完形品、口縁部片及び底部片は優先的に実測・掲載し、小さな胴部片や拓本の採れないような外面摩耗の激しいものは実測から外した。なお、器形の全体像を把握できる完形品は1点もないが、略完形品は5点ある。

出土頻度(図6)を見ると、調査区域中央10ライン西端の2グリッドに81片以上の土器片がまとまっている。ここ以外で目を引くのは、C-12グリッドの31~80片であろう。調査区域北側の削平及び同南側のもと沢を考慮に入れると、土器の出土に特別大きな特徴はないと言える。

土器は時期及び文様により、大まかにⅢ群に分けた。以下にそれぞれの土器について、その特徴を記述する。

#### 第Ⅰ群土器 (図8-1・2)

層位より、縄文時代早期後半から前期前半に属するとみられる土器で、深鉢の胴部(～口縁部)片2点の出土である。両者は同一個体で、胴部にはRLRの斜縄文が施文されている。胎土には不明瞭な植物繊維が含まれている。

#### 第Ⅱ群土器 (図8-3~12、図9-13~18)

縄文時代後期の土器で、16点あり、出土土器の80%を占めている。

##### 1類 (図8-3・4)

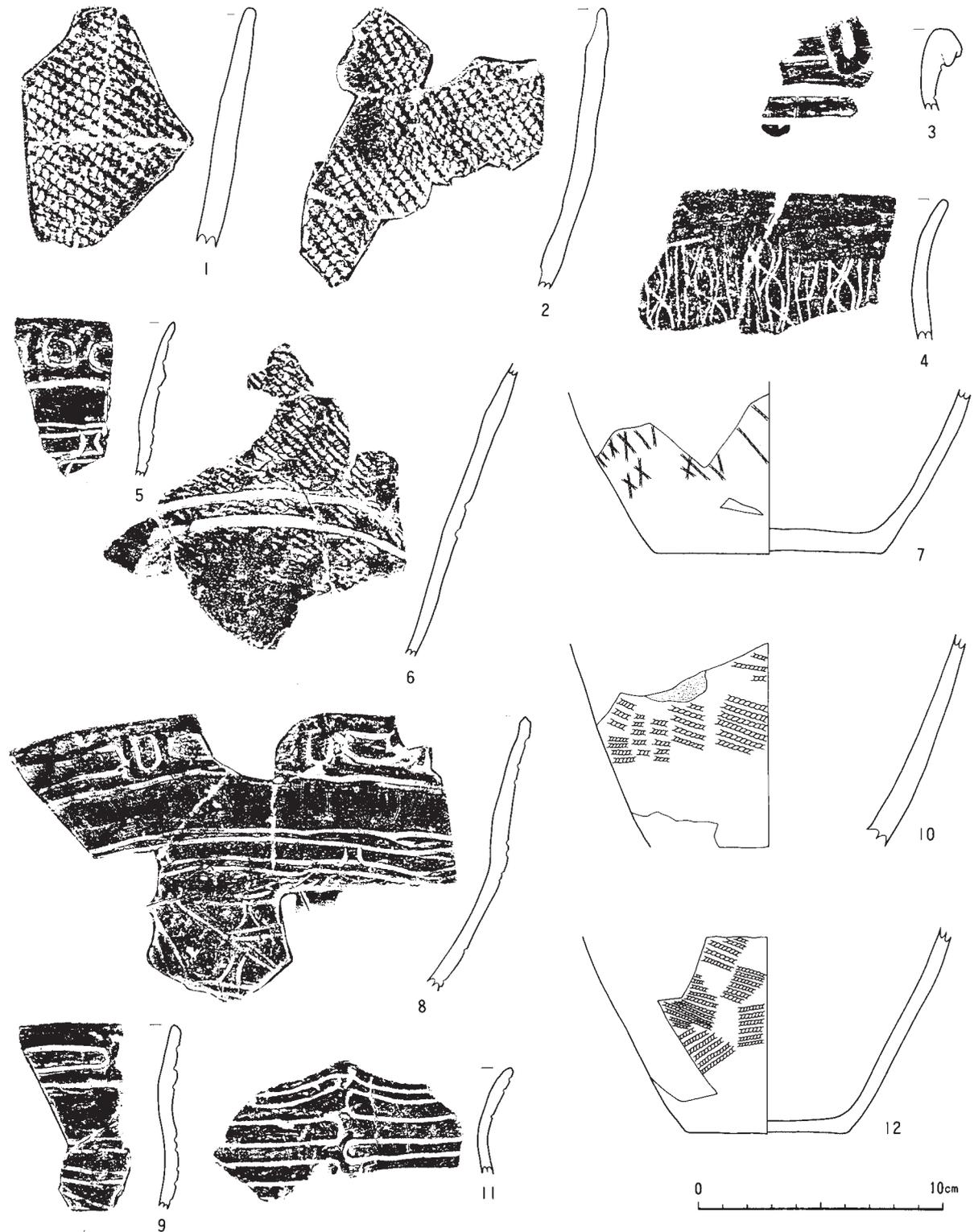
縄文時代後期の土器で、口縁部片2点の出土である。このうちNo.3は内外面とも黒褐色を呈し、口唇部に粘土紐がU字状に貼り付けられている。内面はナデ調整、胎土は、どちらも砂粒・浮石を混入している。

##### 2類 (図8-5~12、図9-13~18)

縄文時代後期十腰内Ⅰ式期の土器で14点の出土である。器形は浅鉢がNo.5・6・16の3点、深鉢がNo.7・10~15・17・18の9点、鉢がNo.8・9の2点である。No.5・8・9、No.17・18の2組は、組内での同一個体である。No.5・8・9の口縁部(平縁)は、沈線で縁どりされた2条の隆帯がめぐり、その間を縦の隆帯が区切っている。隆帯間は長方形文の大小2つの繰り返しで構成されている。内面は磨きがかけられている。No.17・18は磨消縄文(RL)が施文される比較的大きな深鉢で、内面も丁寧に磨かれている。No.16はNo.17・18と酷似するものの、斜めに走る沈線に共通性が今一つ欠ける。No.15は、No.16~18と外観上よく似ているが、沈線間はRL斜縄文である。No.11は小波状口縁を有する小型の深鉢で頸部がすぼまっている。文様は十腰内Ⅰ式に特徴的な長方形文が規則的に施文されている。No.14は深鉢の胴部片で、篋による沈線文様が描かれているものの、雑然としていて文様の構成は不明である。No.6・13~15の4点には内面若しくは外面に炭化物が付着している。

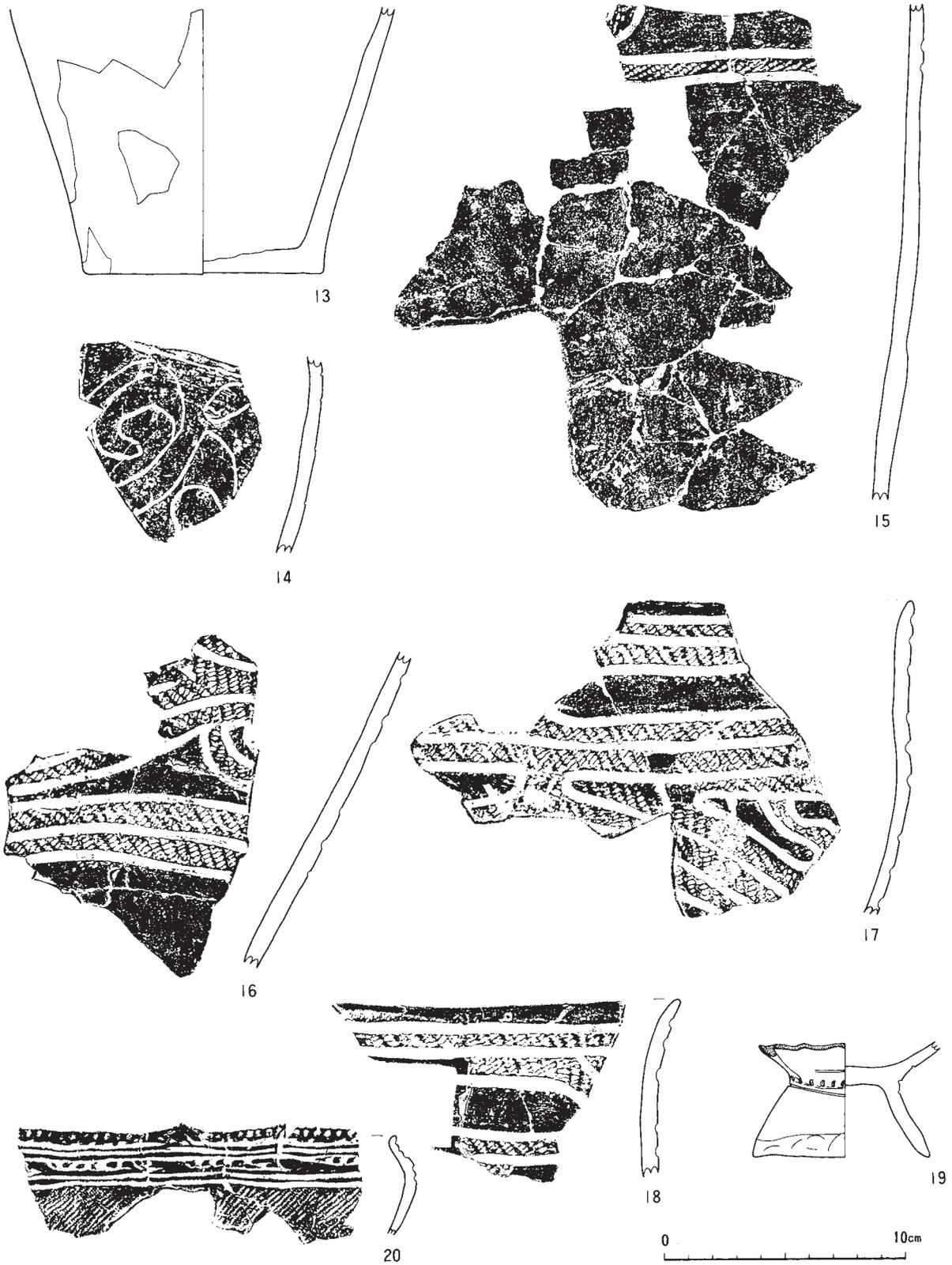
#### 第Ⅲ群土器 (図9-19・20)

縄文時代晩期大洞BC式期の台付浅鉢形土器で同一個体2点の出土である。胴部には細かいLR斜縄文が施文されており、口縁部とは2本の平行沈線で区画される。口縁部には大洞BC式の主体文様である羊歯状文(変形)が施文されている。台部の高さは約3cmある。



図番号	出土グリッド	層位	器形	部位	施文文様	内面	胎土	分類	備考	整理番号
1	B-15	VI	深鉢	胴部~口縁部	R L R 斜縄文(横回転)		繊維混入	I	複節縄文、No. 2 との同一個体	4
2	B-15、C-16	VI	深鉢	胴部	R L R 斜縄文(横回転)		繊維混入	I	複節縄文、内面炭化物付着、No. 1 との同一個体	5
3	F-10	I	深鉢	口縁部	折り返し口縁、口唇部粘土紐貼り付け、沈線文	ナデ	砂粒・浮石混入	II-1	内外面黒褐色	10
4	H-10	I	深鉢	口縁部	平縁、L 燃糸圧痕	ナデ	砂粒・浮石混入	II-1		12
5	A-14	II・III	浅鉢	口縁部~胴部	平縁、陸帯、沈線文	ミガキ	砂粒・浮石混入	II-2	No. 8・9 との同一個体	3
6	C・D-12	II・III	浅鉢	胴部	磨消縄文、沈線文	ナデ	砂粒混入	II-2	外面炭化物付着	6
7	C-11	II・III	深鉢	底部~胴部	底部無文、胴部網目状燃糸文	ナデ	砂粒混入	II-2		2
8	C-14	II・III	鉢	口縁部~胴部	平縁、陸帯、沈線文	ミガキ	砂粒・浮石混入	II-2	No. 5・9 との同一個体	7
9	C-14	II・III	鉢	口縁部~胴部	平縁、陸帯、沈線文	ミガキ	砂粒・浮石混入	II-2	No. 5・8 との同一個体	8
10	D-12	II	深鉢	胴部	L R 斜縄文(縦・左斜め回転)	ナデ	砂粒混入	II-2		1
11	F-10	I	深鉢	口縁部	小波状口縁、沈線文	ナデ	砂粒混入	II-2		9
12	F-10	II・III	深鉢	底部~胴部	底部無文、胴部 L R 斜縄文(横・縦回転)	ナデ	砂粒混入	II-2		11

図8 石焼沢遺跡出土遺物(1)



図番号	出土グリッド	層位	器形	部位	施文文様	内面	胎土	分類	備考	整理番号
13	H・I-10	II・III	深鉢	胴部~底部	無文	ミガキ		II・2	内面炭化物付着	17
14	H-12	II	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	砂粒・浮石混入	II・2	外面炭化物付着	19
15	I-10	II	深鉢	胴部	沈線文、磨消縄文	ミガキ		II・2	内面炭化物付着	16
16	I-9	II・III	浅鉢	胴部	沈線文、磨消縄文	ナデ	砂粒・浮石混入	II・2	内外面一部黒色	14
17	I-9	II・III	深鉢	口縁部	沈線文、磨消縄文	ミガキ	砂粒・浮石混入	II・2	外面剥離、No.18との同一個体	15
18	I-9	II・III	深鉢	口縁部	小波状口縁、沈線文、磨消縄文	ミガキ	浮石混入	II・2	No.17との同一個体	20
19	H-10・13、I-13	II・III	台付浅鉢	台部~胴部	台部無文、底辺部刻み目、胴部斜縄文	ミガキ	砂粒混入	III	台部底辺部剥離、No.20との同一個体	13
20	H-13	II・III	台付浅鉢	口縁部	口縁部小突起刻み目、口縁部平行沈線文、底辺部斜縄文、胴部斜縄文(縦目配)	ミガキ	砂粒混入	III	内外面炭化物付着、No.19との同一個体	18

図9 石焼沢遺跡出土遺物(2)

(2) 石器 (図 10・11)

出土した石器は全部で16点で、このうち剥片石器が13点、礫石器が3点である。これらは全て報告書に収録した。なお、自然石はトロ函 (横 36cm×縦 58.5cm×深さ 16.5cm) で 1 箱出土している。

出土頻度は図示していないが、調査区域 7 ラインから 18 ラインまでの緩やかな谷部分から出土しており、C-13 グリッドからの 3 点が最多で、ほかは 1 点ずつである。C-13 グリッドの北 C-12 グリッドからは、縄文土器片が周囲より倍以上出土しており、何かしらの関連性があるとみられる。これら分布は土器のそれと基本的には同じで、調査区域北側の削平及び同南側のもと沢を考慮に入れると、石器の出土にも特筆するような特徴はないと言える。

石器は、石鏃・石匙・コア・不定形石器 (スクレイパー・フレイク類)・磨製石斧・打製石斧の 6 種類である。以下にそれぞれの石器について概略を記述する。

[石鏃] No. 2・3・10の 3 点出土した。近くの同層位から出土する土器から後期のものと思われる。

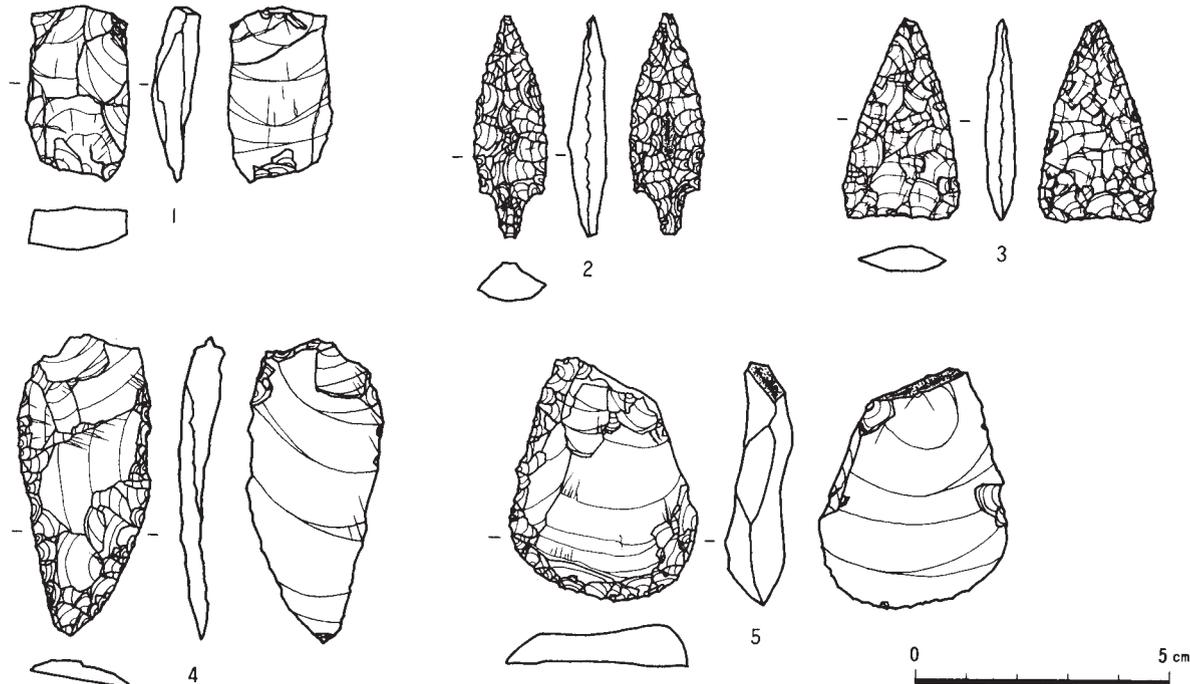
[石匙] No. 13のみ 1 点の出土で、長さ 6 cm 余りの縦型石匙である。

[コア] No. 6のみ 1 点の出土で、石質は珪質頁岩である。

[不定形石器] No. 1・4・5・7~9・11・12の 8 点出土した。定型的な刃部を有するスクレイパー (No. 5) 1 点と、一部に調整痕の見られるフレイク類に分けられる。層位等に基づき、No. 1・4・7・8・11は早期~前期、No. 9・12は後期に属するものとみられる。

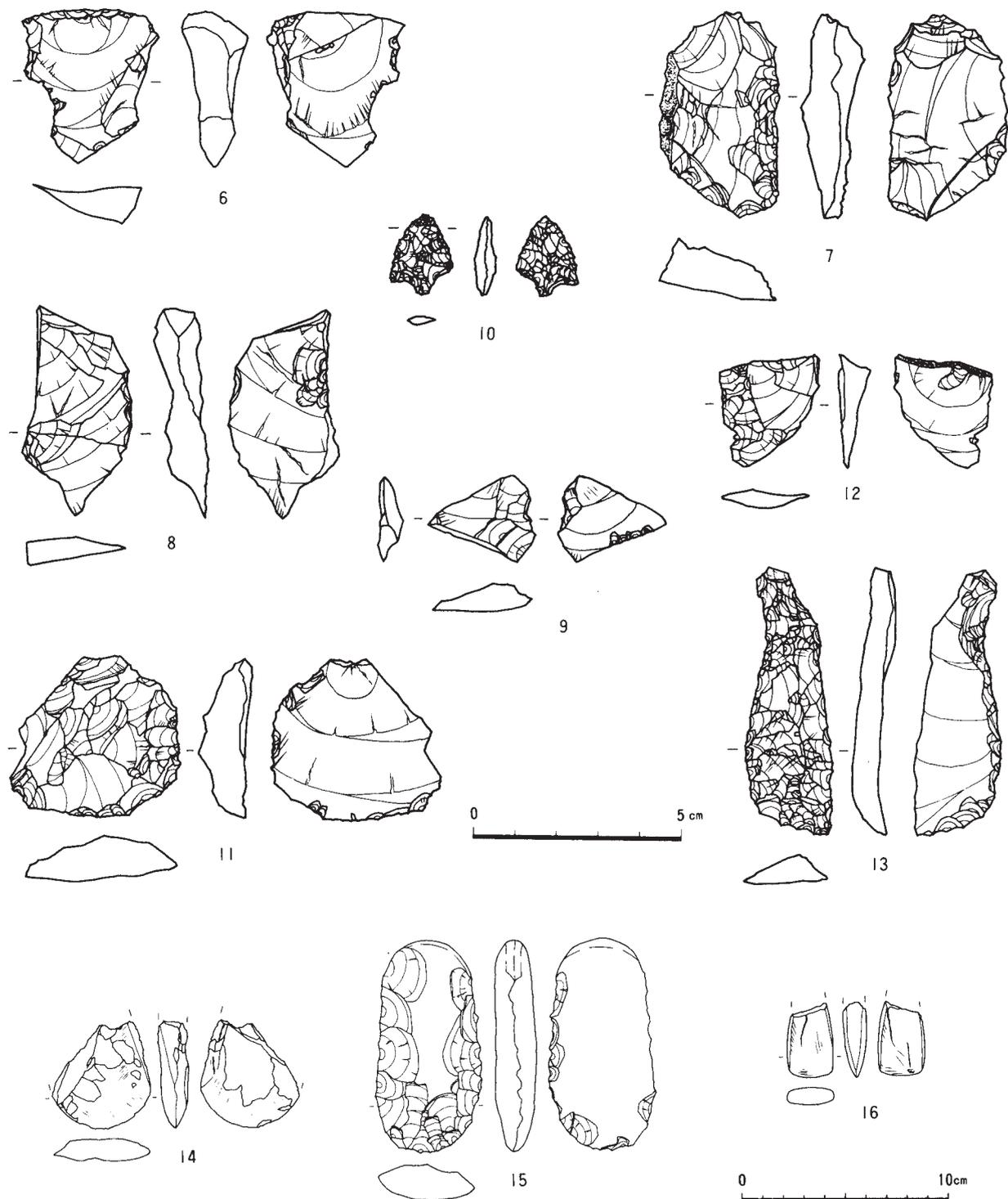
[磨製石斧] 2 点出土したが、基部の大半若しくは基端付近が欠損している。No. 14は刃部両面に多数の擦痕が見られる。No. 16は近くの同層位から出土する土器から後期に属するものとみられる。

[打製石斧] No. 15のみの 1 点で、片面の加工は基部の半分強に及んでいる。



図番号	出土グリッド	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	整理番号	備考
1	G-9	VI	34	20.5	9.5	3.8	珪質頁岩	不定形(フレイク)	S-2	刃こぼれあり
2	I-10	II	43.5	14.5	8	3.4	珪質頁岩	石鏃	S-3	凸基有茎
3	H-11	II・III	39.5	23	6	3.9	珪質頁岩	石鏃	S-4	平基無茎
4	G-12	VI	59	26.5	8.5	7.5	珪質頁岩	不定形(フレイク)	S-5	R-フレイク
5	C-13	I	46.5	36.5	18	16.8	珪質頁岩	不定形(スクレイパー)	S-7	

図10 石焼沢遺跡出土遺物 (3)



図番号	出土グリッド	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	整理番号	備考
6	C-13	I	37	33	16	9.8	珧質頁岩	コア	S-8	
7	C-13	VI	49	29	15	17	チャート	不定形(フレイク)	S-9	R-フレイク
8	D-13	VI	50	26	13	10.6	珧質頁岩	不定形(フレイク)	S-10	
9	E-13	II・III	20.5	26	6	2.1	珧質頁岩	不定形(フレイク)	S-11	
10	E-14	II・III	18.5	15	5.5	0.8	玉髄質珧質頁岩	石鏃	S-13	有茎
11	G-14	VI	38	40.5	12.5	13.4	珧質頁岩	不定形(フレイク)	S-14	R-フレイク
12	C-15	III	27	24	7.5	2.2	珧質頁岩	不定形(フレイク)	S-15	
13	B-17	IV	64	21	10.5	8.8	珧質頁岩	石匙	S-16	縦型
14	I-7	I	(52)	(48)	(14.5)	(38.8)	緑色細粒凝灰岩	磨製石斧	S-1	刃部に擦痕あり、基部欠損
15	H-12	I	130	52	21	140.6	砂岩	打製石斧	S-6	
16	B-14	II・III	(36)	(22)	(11.5)	(14.8)	緑色細粒凝灰岩	磨製石斧	S-12	基部欠損

図11 石焼沢遺跡出土遺物(4)

## 第4章 西張(3)遺跡の検出遺構と出土遺物

### 第1節 遺構の配置

西張(3)遺跡からは、縄文時代の遺構として、配石遺構1基、土坑14基及び溝状ピット5基が検出されている。これらの配置にはそれぞれ特徴があり、配石遺構は、段丘面と段丘崖の境界付近に位置している。同様の遺構は、昨年度の調査でも、本遺構の東北東20mAE-41グリッドで1基検出されているが、こちらの方は縄文時代早期につくられたと考えられ、本遺構との関連は薄いとみられる。

土坑12基についてはZJラインからZQラインにかけて群をなしており、うち重複しているものが5基もある。これらは標高27m前後の平地（段丘面）に構築されており、互いに関連性を有するものと思われる。残る2基の土坑は、調査区域東側にそれぞれ離れて位置している。このうち、第9号土坑については、35m北東に位置する、昨年度調査した第3号土坑（落し穴か）との関連が考えられる。両者は、前者に逆茂木の痕跡を確認できなかったことを除けば、平面形・規模は酷似する。

溝状ピットは、ZGラインに集中するものが3基あり、標高26.2m前後の平地に構築されている。長軸方向に共通性は見られない。残る2基は、調査区域東側にそれぞれ離れて位置している。

縄文時代以外の遺構として、土坑1基、濠跡2条、捨て焼土遺構1基及び溝跡4条が検出されている。土坑及び溝跡2条は北の平地に見られ、後者は互いに繋がる可能性もある。残る溝跡2条は調査区域東側の平地に並んで構築されている。昨年度調査した第4号溝跡が北4m前後のところに位置するが、延びる方向が80°ほど異なっており、関連性は薄い。濠跡は田面木段丘の段丘面から段丘崖にかけて概ね東西に構築されており、調査区域外西側に至っては段丘崖そのものが濠跡の南斜面に続く。捨て焼土遺構は中央付近の平地（第1号濠跡確認面か）に小規模に見られた。

### 第2節 縄文時代の遺構

本遺跡で検出された縄文時代の遺構は、配石遺構1基、土坑14基および溝状ピット5基である。以下にその概要を記載する。

#### (1) 配石遺構 (図13)

##### 第1号配石遺構 (図13)

〔位置〕 AA・AB-37グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 東西140cm、南北70cmの範囲に安山岩の角礫が10個検出された。このうち、9個は、長軸106cm、短軸68cmの不整な楕円形の掘り込みの中に、東西65cm、南北73cmの範囲で、残り1個は、掘り込みの東端から15cmほど北東に離れたところに見られた。大きいもの5個は長径30~40cm、残り5個は長径5~10cmと小さい。大きいものになると大人一人で持ち上げることはできない。これらの礫には明確な使用痕は認められない。

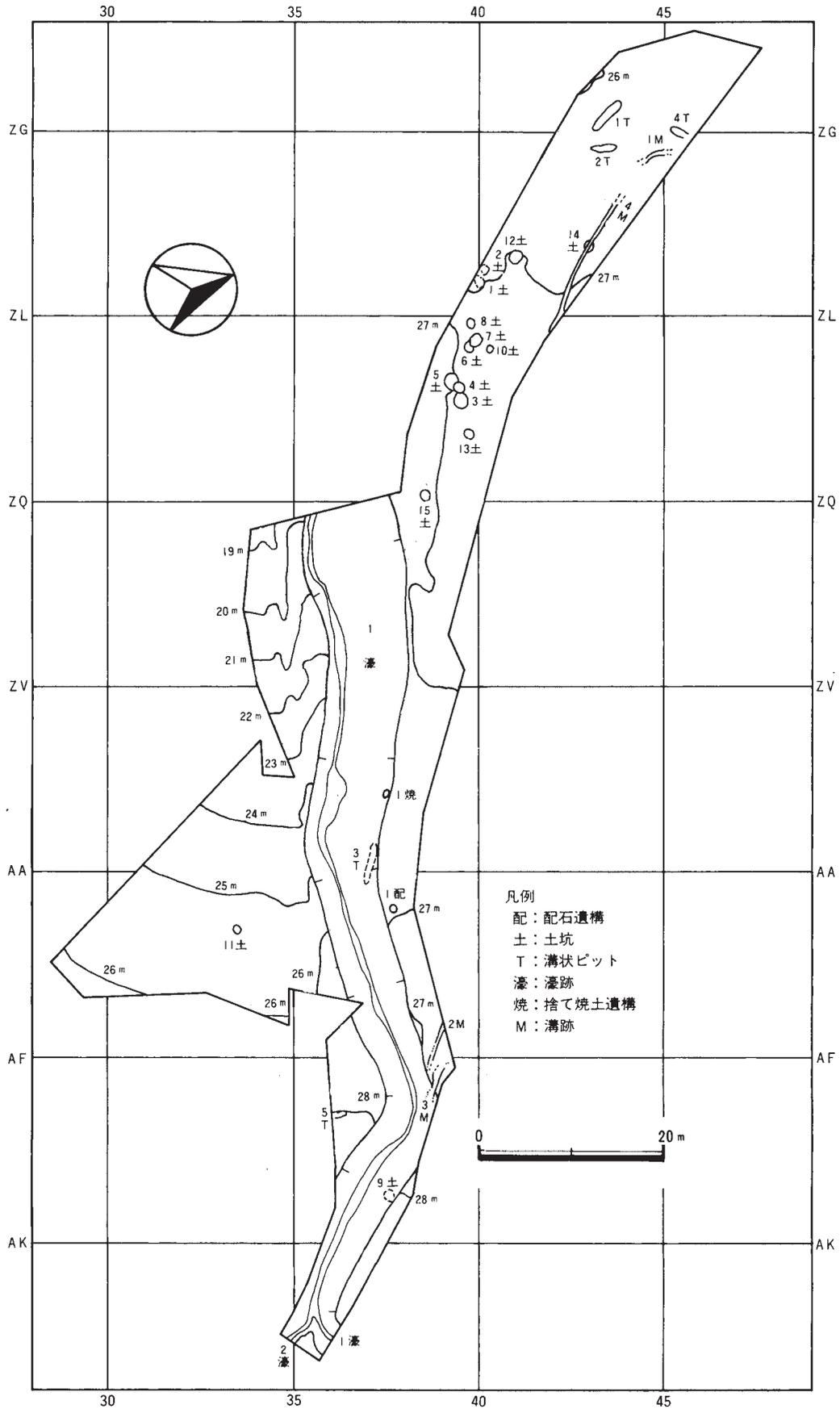


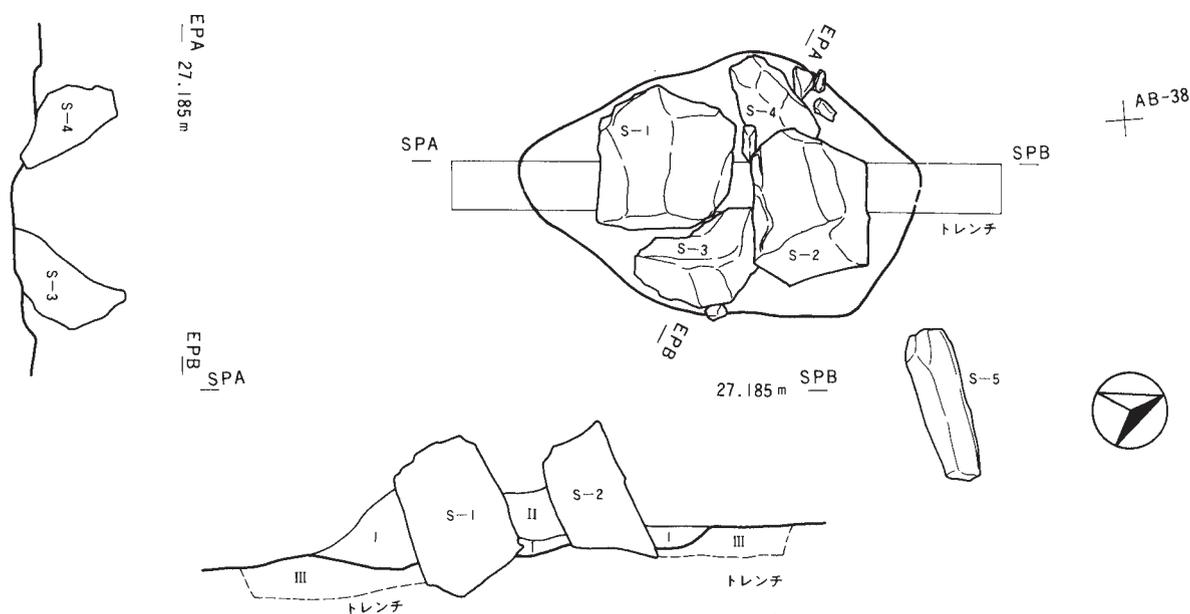
図12 遺構配置図

[壁・底面] 壁・底面は第Ⅲ層途中まで掘り込んで構築している。

[堆積土] 1層のみの確認で、自然堆積の様相を呈する。ごろた・アワズナを極微量混入する黒色土で、石を固定するために埋めた土とみられる。南北セクションのS-1・2の下にも、この土がかなり薄く入っているようである。本層の上に第Ⅱ層が載っている。

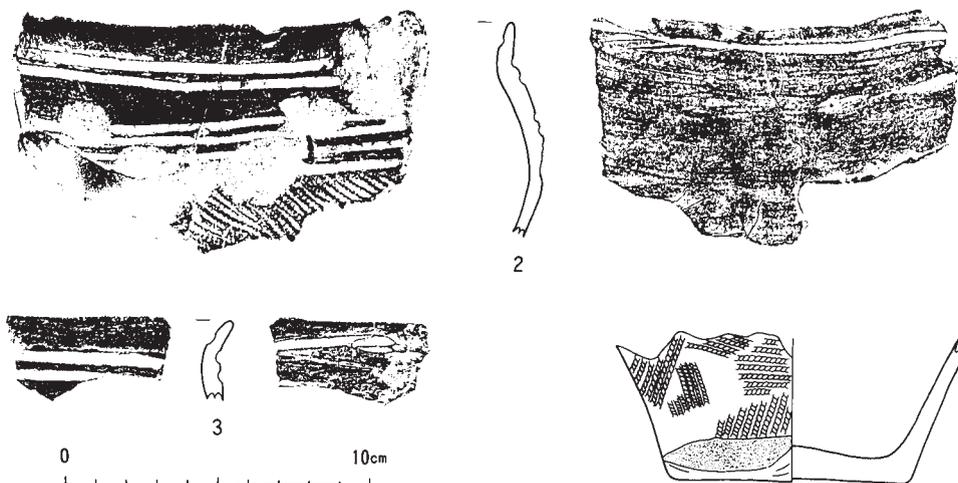
[出土遺物] 配石遺構と同じグリッド第Ⅱ層から、縄文時代後期の土器1片、同晩期大洞A<sup>1</sup>式の土器2片が出土している。No.2・3は晩期の浅鉢（同一個体）であり、口唇部には一對の小突起を3単位有し、各突起間の中には押圧が施されている。また、内面もミガキ調整がなされている。

[小結] 堆積土がT o - bの浮石を含む第Ⅱ層に覆われ、アワズナ・ごろたを含む第Ⅲ層を一部掘っていること及び付近の出土遺物から、後期～晩期につくられたものと思われる。掘り込みの様相から、土坑であった可能性もあるが、何れも用途ははっきりしない。



第1号配石遺構土層注記

第1層 黒色土 10YR2/1 ごろた・アワズナ極微量混入。しまりややあり。



図番号	出土グリッド	層位	器形	部位	施文文様	内面	胎土	分類	備考	整理番号
1	A A - 37	II	深鉢	底部～胴部	底部無文、胴部L R縄文	ナデ	砂粒混入	III-1	内面黒色	104
2	A B - 37	II	浅鉢	口縁部～胴部	口唇部一対の小突起3単位、口縁部沈線文、胴部充填縄文	ミガキ	砂粒混入		外面刺彫、内面…口唇部沈線、No. 3との同一個体	105
3	A B - 37	II	浅鉢	口縁部	沈線文		砂粒混入		内面…口唇部沈線、No. 2との同一個体	106

図13 第1号配石遺構

(2) 土 坑 (図14~20)

土坑14基のうち、第1~13号の13基の構築時期は、遺物が出土していないため明確でないが、第Ⅲ層(アワズナ混入)中に落ち込みを確認していることから、中期~後期と考えられる。第15号土坑は、小結の通り後期に構築されたものとみられる。

第1号土坑 (図14)

[位置] ZK-40グリッドに位置する。50cmほど北西には第2号土坑がある。

[重複] なし。

[平面形・規模] 南西3分の1ほどが調査区域外のため全体の形は不明だが、残り3分の2から短軸82cmのほぼ楕円形を呈するものとみられ、深さは30cmである。

[壁・底面] 壁・底面は第Ⅳ~Ⅵ層を掘り込んで構築している。壁の立ち上がりは急で、底面には幾分凹凸が見られる。

[堆積土] 自然堆積の様相を呈し、3層に区分できた。主体は黒褐色土で、粘性・しまりがややある。全層にロームを10~50%、ごろたを微量~少量混入する。

[出土遺物] なし。

第2号土坑 (図14)

[位置] ZJ-40グリッドに位置する。50cmほど南東には第1号土坑がある。

[重複] なし。

[平面形・規模] 南南西5分の3ほどが調査区域外のため全体の形は不明だが、残り5分の2からほぼ楕円形を呈するものとみられ、深さは71cmである。

[壁・底面] 壁・底面は第Ⅳ~Ⅶ層を掘り込んで構築している。壁の立ち上がりは、西北西側が底面より若干内傾気味、外は急で、底面は平坦である。

[堆積土] 自然堆積の様相を呈し、6層に区分できた。主体は黒褐色土で、しまりがある。全体的にごろたを少量混入する。

[出土遺物] なし。

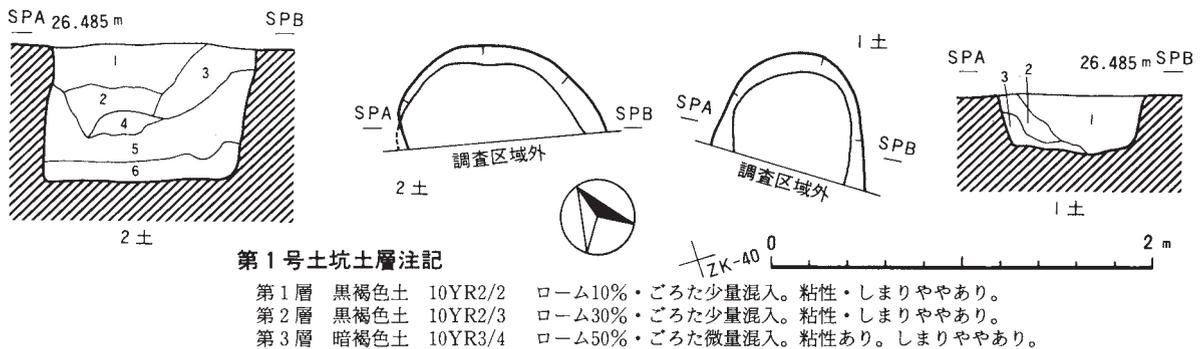


図14 第1・2号土坑

### 第3号土坑 (図15)

[位置] ZN-39グリッドに位置する。

[重複] 第4号土坑と重複し、本遺構の方が古い。

[平面形・規模] 直径155cmのほぼ円形を呈する。深さは66cmである。

[壁・底面] 壁・底面は第IV～VII層を掘り込んで構築している。壁の立ち上がりは急で、底面はほぼ平坦である。

[堆積土] 自然堆積の様相を呈し、20層に区分できた。主体は黒褐色～暗褐色土で、ごろたを微量～少量混入する。第6・16・18・20層は、壁面または上端の崩落したロームとみられる。上半はしまりがややあるも、下半はしまりが無い。

[出土遺物] なし。

### 第4号土坑 (図15)

[位置] ZM・ZN-39グリッドに位置する。

[重複] 第3号及び第5号土坑と重複し、本遺構の方が新しい。

[平面形・規模] 長軸140cm、短軸121cmの不整な円形を呈し、深さは58cmある。

[壁・底面] 壁・底面は第IV～VII層を掘り込んで構築している。壁の立ち上がりは急で、底面はほぼ平坦である。

[堆積土] 自然堆積の様相を呈し、14層に区分できた。主体はごろたを微量～少量含む黒褐色土である。第9・13層は、壁面または上端の崩落したロームとみられる。

[出土遺物] なし。

### 第5号土坑 (図15)

[位置] ZM・ZN-39グリッドに位置する。

[重複] 第4号土坑と重複し、本遺構の方が古い。

[平面形・規模] 全体の形状は不明だが、調査部分から推定して平面形はほぼ円形とみられる。規模は、直径165cm、深さは54cmである。

[壁・底面] 壁・底面は第IV～VII層を掘り込んで構築している。壁の立ち上がりはほぼ垂直～急で、底面はほぼ平坦である。

[堆積土] 自然堆積の様相を呈し、10層に区分できた。主体は黒褐色～暗褐色土で、ごろた・ローム粒を微量～中量混入する。

[出土遺物] なし。

#### 第5号土坑土層注記

第1層	褐色土	10YR4/4	ごろた・暗褐色土少量混入。粘性・しまりなし。湿性ややあり。
第2層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒少量・ごろた微量混入。粘性・しまりなし。湿性ややあり。
第3層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒微量・ごろた少量混入。粘性なし。湿性・しまりややあり。
第4層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒・ごろた中量混入。粘性なし。湿性・しまりややあり。
第5層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒少量・ごろた微量混入。粘性・しまりなし。湿性ややあり。
第6層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒・ごろた少量混入。粘性・しまりなし。湿性ややあり。
第7層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒微量・ごろた少量混入。粘性なし。湿性・しまりややあり。
第8層	褐色土	10YR4/4	ごろた微量・暗褐色土少量混入。粘性・しまりなし。湿性ややあり。
第9層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒少量・ごろた微量混入。粘性なし。湿性・しまりややあり。
第10層	褐色土	10YR4/4	ごろた微量・暗褐色土少量混入。粘性なし。湿性・しまりややあり。

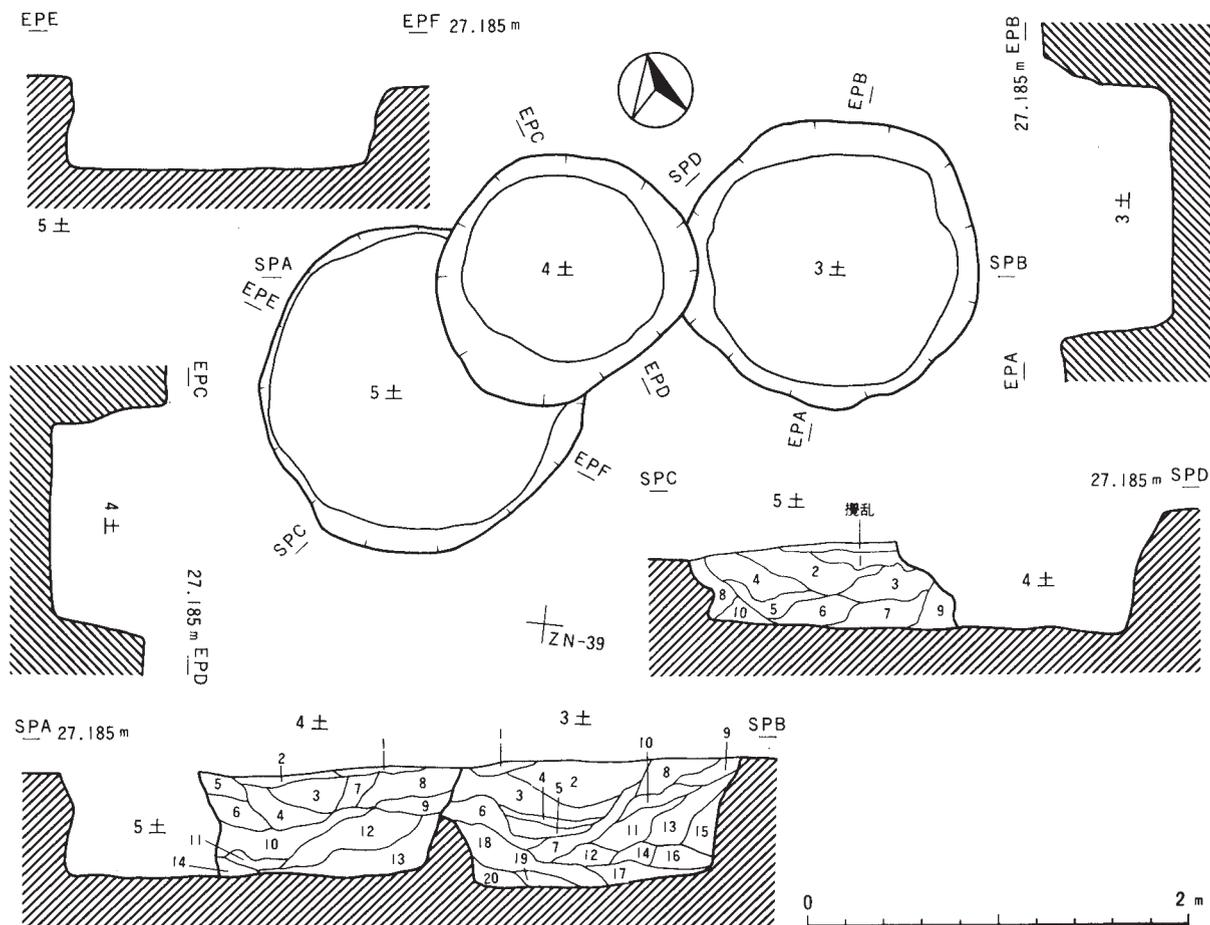


図15 第3～5号土坑

第3号土坑土層注記

第1層	暗褐色土	10YR3/4	ごろた微量・攪乱による黒色土少量混入。粘性・湿性なし。しまりややあり。
第2層	黒褐色土	10YR2/3	ごろた少量・ローム微量混入。粘性・湿性なし。しまりあり。
第3層	黒褐色土	10YR2/2	ごろた・ローム微量混入。粘性・湿性なし。しまりややあり。
第4層	黒褐色土	10YR2/3	ごろた微量・ローム少量混入。粘性・湿性・しまりややあり。
第5層	黒褐色土	10YR2/2	ごろた・ローム微量混入。粘性・湿性ややあり。しまりなし。
第6層	暗褐色ローム	10YR3/4	ごろた微量・攪乱による黒色土少量混入。粘性・しまりあり。湿性ややあり。
第7層	黒褐色土	10YR2/2	ごろた微量混入。粘性・しまりなし。湿性ややあり。
第8層	黒褐色土	10YR2/2	ごろた微量混入。粘性・湿性・しまりなし。
第9層	黒褐色土	10YR2/3	ごろた微量混入。粘性なし。湿性・しまりややあり。
第10層	黒褐色土	10YR2/2	ごろた微量混入。粘性・湿性ややあり。しまりなし。
第11層	黒褐色土	10YR3/2	ごろた少量・ローム微量混入。粘性・湿性ややあり。しまりなし。
第12層	黒褐色土	10YR2/2	ごろた微量混入。粘性あり。湿性ややあり。しまりなし。
第13層	暗褐色土	10YR3/3	ごろた・ローム少量混入。粘性あり。湿性ややあり。しまりなし。
第14層	黒褐色土	10YR2/2	ごろた微量混入。粘性あり。湿性ややあり。しまりなし。
第15層	暗褐色土	10YR3/4	ローム中量混入。粘性ややあり。湿性・しまりなし。
第16層	褐色ローム	10YR4/4	ごろた微量混入。粘性・湿性・しまりなし。
第17層	暗褐色土	10YR3/3	ごろた微量・ローム少量混入。粘性・湿性あり。しまりなし。
第18層	暗褐色ローム	10YR3/4	ごろた微量・攪乱による黒褐色土少量混入。粘性・湿性・しまりなし。
第19層	暗褐色土	10YR3/3	ごろた微量・ローム中量混入。粘性あり。湿性ややあり。しまりなし。
第20層	暗褐色ローム	10YR3/4	八戸火山灰少量混入。粘性ややあり。湿性・しまりなし。

第4号土坑土層注記

第1層	黒褐色土	10YR2/3	ローム・ごろた微量混入。粘性なし。湿性・しまりややあり。
第2層	黒褐色土	10YR2/2	粘性ややあり。湿性・しまりなし。
第3層	黒褐色土	10YR2/2	ごろた少量混入。粘性・湿性・しまりなし。
第4層	黒褐色土	10YR2/2	ごろた微量混入。粘性あり。湿性ややあり。しまりなし。
第5層	黒褐色土	10YR2/2	ごろた微量混入。粘性・湿性・しまりなし。
第6層	黒褐色土	10YR2/2	ごろた微量混入。粘性・湿性なし。しまりややあり。
第7層	暗褐色ローム	10YR3/3	ローム微量・ごろた少量混入。粘性なし。湿性・しまりややあり。
第8層	黒褐色土	10YR2/2	ローム少量・ごろた微量混入。粘性ややあり。湿性・しまりなし。
第9層	暗褐色ローム	10YR3/4	ごろた微量・黒褐色土少量混入。粘性あり。湿性ややあり。しまりなし。
第10層	黒褐色土	10YR2/3	ローム・ごろた微量、暗褐色土中量混入。粘性なし。湿性・しまりややあり。
第11層	黒褐色土	10YR2/2	ローム・ごろた微量混入。粘性・湿性・しまりなし。
第12層	黒褐色土	10YR3/2	ローム中量・ごろた微量混入。粘性・しまりなし。湿性ややあり。
第13層	褐色ローム	10YR4/4	ごろた微量・黒褐色土少量混入。粘性・湿性・しまりややあり。
第14層	暗褐色土	10YR3/3	ローム少量、ごろた・八戸火山灰微量混入。粘性あり。湿性・しまりなし。

### 第6号土坑 (図16)

[位置] ZL-39グリッドに位置する。

[重複] 第7号土坑と重複し、本遺構の方が古い。

[平面形・規模] 直径117cmの不整な円形を呈し、深さは53cmである。

[壁・底面] 壁・底面は第IV～VII層を掘り込んで構築している。壁の立ち上がりは北東壁はほぼ垂直、それ以外の壁は急で、底面はほぼ平坦である。

[堆積土] 自然堆積の様相を呈し、8層に区分できた。主体は暗褐色～黒褐色土で、ごろたを微量～中量混入する。

[出土遺物] なし。

### 第7号土坑 (図16)

[位置] ZL-39・40グリッドに位置する。1mほど西及び北東には、それぞれ、第8号土坑及び第10号土坑がある。

[重複] 第6号土坑と重複し、本遺構の方が新しい。

[平面形・規模] 長軸127cm、短軸120cmの不整な円形を呈し、深さは40cmである。

[壁・底面] 壁・底面は第IV～VII層を掘り込んで構築している。壁の立ち上がりは西南・北東壁は急、それ以外の壁はやや緩やかである。底面はほぼ平坦であるが、西北西側が若干低い。

[堆積土] 自然堆積の様相を呈し、5層に区分できた。主体は黒褐色土で、ごろたを少量～中量混入する。第5層は、壁面の崩落したロームとみられる。

[出土遺物] なし。

### 第8号土坑 (図16)

[位置] ZL-39グリッドに位置する。1mほど東には第7号土坑がある。

[重複] なし。

[平面形・規模] 直径100cmの円形を呈し、深さは23cmである。

[壁・底面] 壁・底面は第IV～VI層を掘り込んで構築している。壁の立ち上がりはやや急で、底面はほぼ平坦である。

[堆積土] 自然堆積の様相を呈し、3層に区分できた。主体は暗褐色土で、ごろたを少量混入する。3層とも粘性・しまりがある。南南西側約半分は攪乱を受けている。

[出土遺物] なし。

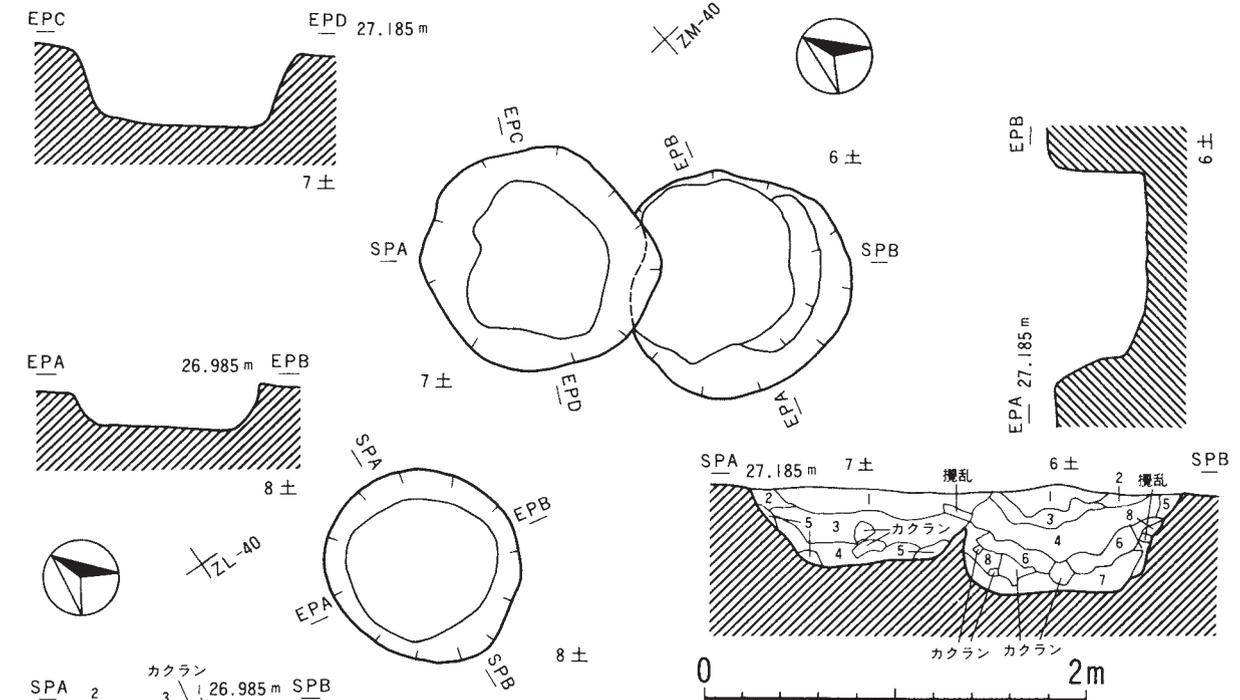
### 第9号土坑 (図16)

[位置] AI・AJ-37グリッドに位置する。

[重複] 第1号濠跡と重複し、本遺構の方が古い。

[平面形・規模] 長軸150cm、短軸138cmの不整な円形を呈し、深さは110cmである。

[壁・底面] 壁・底面は第IV～VII層を掘り込んで構築している。壁の立ち上がりは急で、底面はほぼ平坦であるが、南東側が若干高い。



第6号土坑土層注記

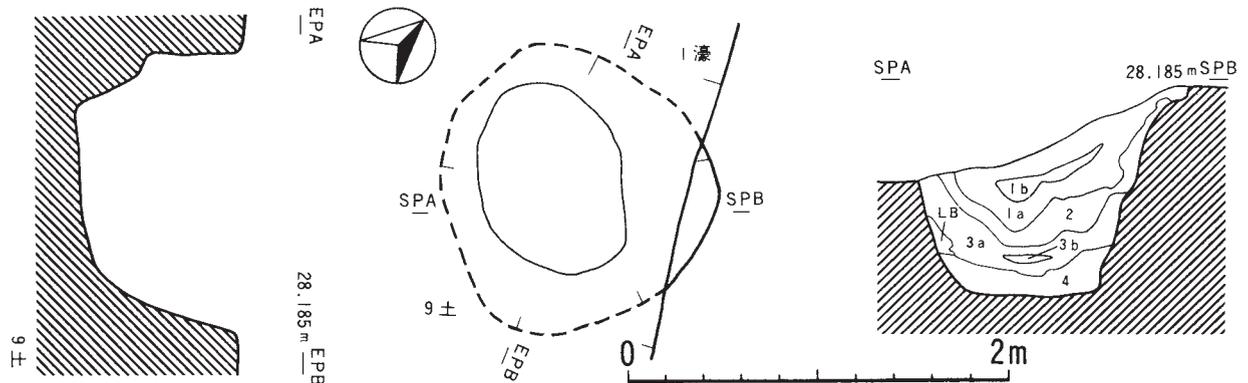
- |     |        |         |                             |
|-----|--------|---------|-----------------------------|
| 第1層 | 暗褐色土   | 10YR3/4 | ごろた少量・炭化物1個混入。粘性ややあり。しまりなし。 |
| 第2層 | 黒褐色土   | 10YR2/3 | ごろた微量混入。粘性・しまりなし。           |
| 第3層 | 暗褐色土   | 10YR3/3 | ごろた少量混入。粘性・しまりややあり。         |
| 第4層 | 黒褐色土   | 10YR2/3 | ごろた中量・炭化物微量混入。粘性・しまりややあり。   |
| 第5層 | 褐色土    | 10YR4/4 | ごろた微量混入。粘性ややあり。しまりなし。       |
| 第6層 | 暗褐色土   | 10YR3/3 | ごろた少量・炭化物1個混入。粘性・しまりややあり。   |
| 第7層 | 黒褐色土   | 10YR2/3 | ごろた少量混入。粘性あり。しまりややあり。       |
| 第8層 | 黄褐色ローム | 10YR5/6 |                             |

第7号土坑土層注記

- |     |        |         |                       |
|-----|--------|---------|-----------------------|
| 第1層 | 黒褐色土   | 10YR2/3 | ごろた少量混入。粘性なし。しまりややあり。 |
| 第2層 | 暗褐色土   | 10YR3/3 | ごろた少量混入。粘性ややあり。しまりなし。 |
| 第3層 | 黒褐色土   | 10YR2/3 | ごろた中量混入。粘性・しまりややあり。   |
| 第4層 | 暗褐色土   | 10YR3/3 | ごろた少量混入。粘性・しまりややあり。   |
| 第5層 | 黄褐色ローム | 10YR5/6 |                       |

第8号土坑土層注記

- |     |      |         |                       |
|-----|------|---------|-----------------------|
| 第1層 | 暗褐色土 | 10YR3/3 | ごろた少量混入。粘性ややあり。しまりあり。 |
| 第2層 | 褐色土  | 10YR4/4 | ごろた微量混入。粘性・しまりあり。     |
| 第3層 | 褐色土  | 10YR4/6 | ごろた微量混入。粘性・しまりあり。     |



第9号土坑土層注記

- |      |      |         |   |
|------|------|---------|---|
| 第1a層 | 黒色土  | 10YR2/1 | ごろた多量混入。粘性・湿性・しまりなし。                    |
| 第1b層 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | ごろた中量混入。粘性・湿性・しまりなし。                    |
| 第2層  | 黒褐色土 | 10YR2/2 | ごろた中量混入。粘性・湿性・しまりなし。                    |
| 第3a層 | 暗褐色土 | 10YR3/3 | ごろた微量・黒褐色土(10YR3/2)中量混入。粘性・湿性・しまりややあり。  |
| 第3b層 | 黒色土  | 10YR2/1 | ごろた少量混入。粘性・湿性・しまりなし。                    |
| 第4層  | 黒褐色土 | 10YR2/2 | ごろた多量・黒色土(10YR2/1)少量混入。粘性・湿性ややあり。しまりなし。 |

図16 第6～9号土坑

〔堆積土〕自然堆積の様相を呈し、6層に区分できた。第1・3層については、中央付近に若干異なる堆積土をレンズ状に確認したので、a・b層という形で分けた。主体は黒色～黒褐色土で、ごろたを少量～多量混入する。全体的にしまりがない。

〔出土遺物〕なし。

### 第10号土坑 (図17)

〔位置〕ZL・ZM-40グリッドに位置する。1mほど南西には第7号土坑がある。

〔重複〕なし。

〔平面形・規模〕直径93cmのほぼ円形を呈し、深さは35cmである。

〔壁・底面〕壁・底面は第IV～VII層を掘り込んで構築している。壁の立ち上がりは北北東側はほぼ垂直、その外はやや急～急で、底面はほぼ平坦である。

〔堆積土〕自然堆積の様相を呈し、4層に区分できた。黒褐色～暗褐色土で、ごろたを少量～中量混入する。中位はしまりがない。

〔出土遺物〕なし。

### 第11号土坑 (図17)

〔位置〕AB-33グリッドに位置する。

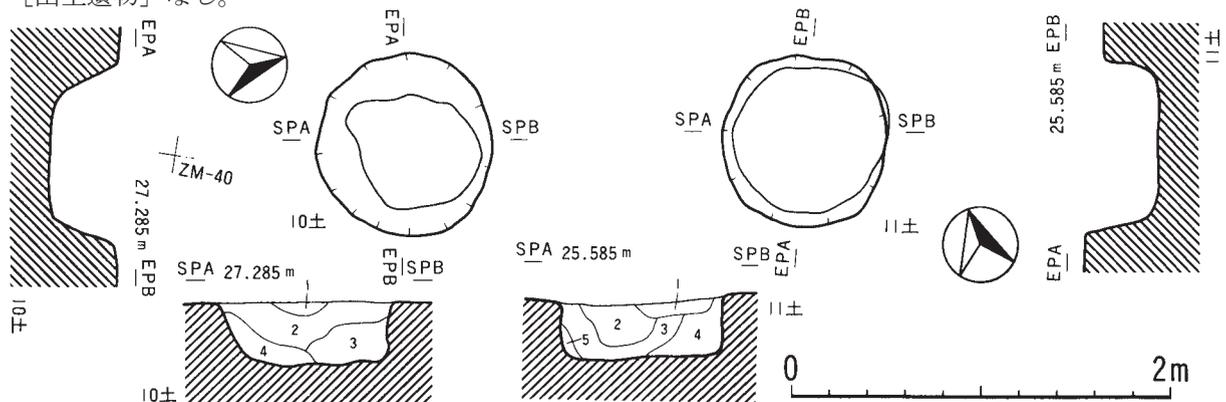
〔重複〕なし。

〔平面形・規模〕直径90cmのほぼ円形を呈し、深さは36cmである。

〔壁・底面〕壁・底面は第IV～VI層を掘り込んで構築している。壁の立ち上がりは東北東側はほぼ垂直、その外は急で、底面はほぼ平坦である。

〔堆積土〕自然堆積の様相を呈し、5層に区分できた。主体は黒褐色～黒色土で、ローム粒を少量、ごろたを中量～多量混入する。全層とも粘性・湿性がない。

〔出土遺物〕なし。



#### 第10号土坑土層注記

- |     |      |         |                                  |
|-----|------|---------|----------------------------------|
| 第1層 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | ごろた少量混入。粘性・湿性なし。しまりややあり。         |
| 第2層 | 暗褐色土 | 10YR3/3 | ごろた中量混入。粘性・湿性ややあり。しまりなし。         |
| 第3層 | 暗褐色土 | 10YR3/4 | 褐色ローム・ごろた少量混入。粘性なし。湿性あり。しまりややあり。 |
| 第4層 | 黒褐色土 | 10YR3/2 | 褐色ローム・ごろた少量混入。粘性なし。湿性あり。しまりややあり。 |

#### 第11号土坑土層注記

- |     |      |         |   |
|-----|------|---------|---|
| 第1層 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | ローム粒少量・ごろた中量混入。粘性・湿性・しまりなし。                   |
| 第2層 | 黒色土  | 10YR2/1 | ローム粒・黒褐色土(10YR2/2)少量、ごろた多量混入。粘性・湿性なし。しまりややあり。 |
| 第3層 | 黒褐色土 | 10YR2/3 | ローム粒・黒褐色土(10YR2/2)少量、ごろた多量混入。粘性・湿性なし。しまりややあり。 |
| 第4層 | 暗褐色土 | 10YR3/3 | ローム粒・暗褐色土(10YR3/4)少量、ごろた中量混入。粘性・湿性なし。しまりややあり。 |
| 第5層 | 暗褐色土 | 10YR3/4 | ごろた中量・黒褐色土(10YR2/2)多量混入。粘性・湿性・しまりなし。          |

図17 第10・11号土坑

第12号土坑 (図18)

[位置] ZJ-40・41グリッドに位置する。

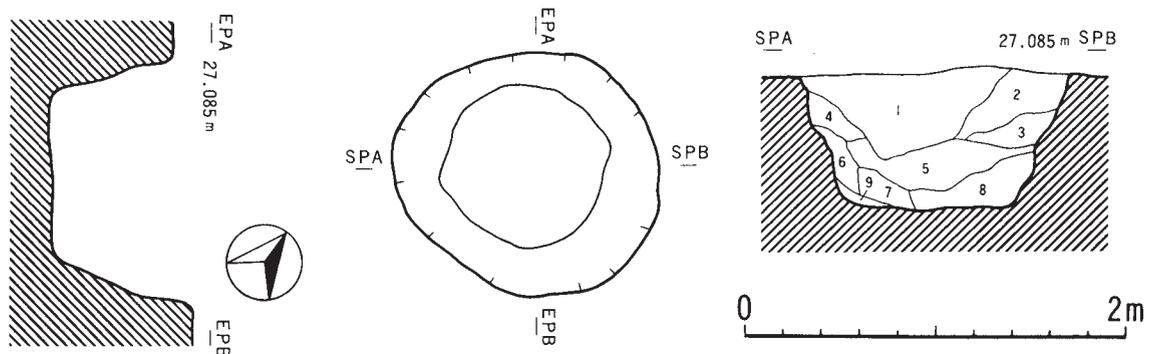
[重複] なし。

[平面形・規模] 長軸14cm、短軸127cmのほぼ円形を呈し、深さは70cmである。

[壁・底面] 壁・底面は第IV～VI層を掘り込んで構築している。壁は若干の凹凸を有しながら急に立ち上がり、底面には幾分凹凸が見られる。

[堆積土] 自然堆積の様相を呈し、9層に区分できた。暗褐色～黒褐色土で、ロームを微量～少量、ごろたを微量～中量混入する。全層とも粘性がややある。

[出土遺物] なし。



第12号土坑土層注記

第1層	暗褐色土	10YR3/3	左半分に攪乱による黒褐色土(10YR2/2)、右半分にローム混入。ごろた中量混入。粘性ややあり。
第2層	黒褐色土	10YR2/3	壁際にローム10%・ごろた少量混入。粘性ややあり。
第3層	暗褐色土	10YR3/3	ローム20%・ごろた少量混入。粘性ややあり。
第4層	暗褐色土	10YR3/4	ローム30%・ごろた微量混入。粘性あり。
第5層	黒褐色土	10YR2/3	ローム5%・ごろた少量混入。粘性ややあり。
第6層	暗褐色土	10YR3/4	ローム10%・ごろた微量混入。粘性ややあり。
第7層	黒褐色土	10YR2/3	ローム3%・ごろた微量混入。粘性ややあり。
第8層	黒褐色土	10YR2/3	ローム5%・ごろた少量混入。粘性あり。
第9層	暗褐色土	10YR3/3	ごろた微量混入。粘性あり。

図18 第12号土坑

第13号土坑 (図19)

[位置] ZO-39グリッドに位置する。

[重複] なし。

[平面形・規模] 長軸106cm、短軸90cmの不整な円形を呈し、深さは52cmである。

[壁・底面] 壁・底面は第IV～VI層を掘り込んで構築している。壁の立ち上がりは急で、底面は北西側に緩く傾いている。

[堆積土] 自然堆積の様相を呈し、9層に区分できた。上半はごろたを少量含む黒褐色土、下半の主体はごろたを微量～少量含む暗褐色土である。全体的にロームを少量～中量含む。第9層は、壁面の崩落したロームとみられる。

[出土遺物] なし。

第15号土坑 (図19・20)

[位置] ZP・ZQ-38グリッドに位置する。

[重複] なし。

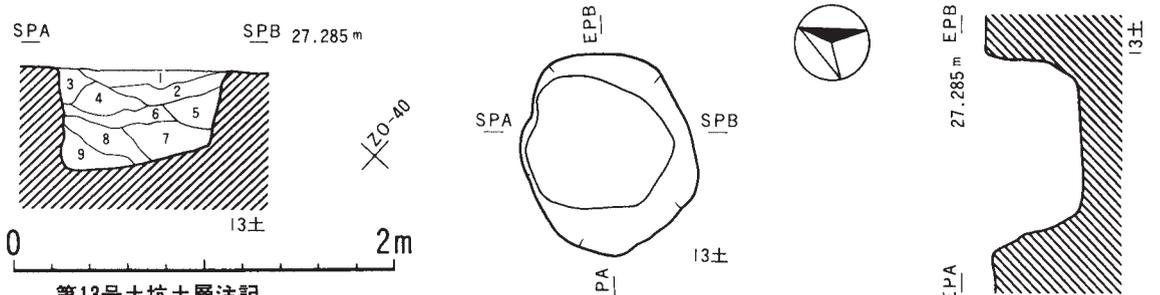
[平面形・規模] 長軸120cm、短軸115cmのほぼ円形を呈し、深さは35cmである。

[壁・底面] 壁・底面は第Ⅳ～Ⅵ層を掘り込んで構築している。壁の立ち上がりは急で、底面は南西側に緩く傾く。

[堆積土] 自然堆積の様相を呈し、6層に区分できた。ほとんど黒褐色土で、ごろたを少量～中量含む。

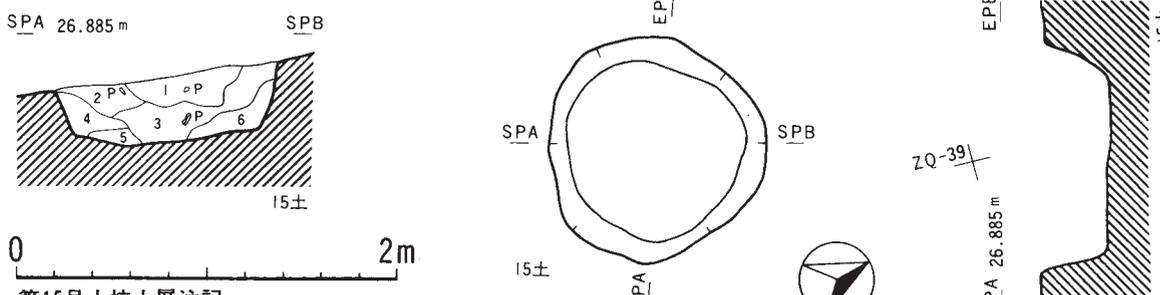
[出土遺物] 覆土から、縄文時代後期の土器2片、弥生時代の土器3片が出土している。

[小結] 出土遺物及び第Ⅲ層（アワズナ混入）中に落ち込みを確認していることから後期に構築されたものとみられる。弥生時代の土器片は後で入ったものであろう。



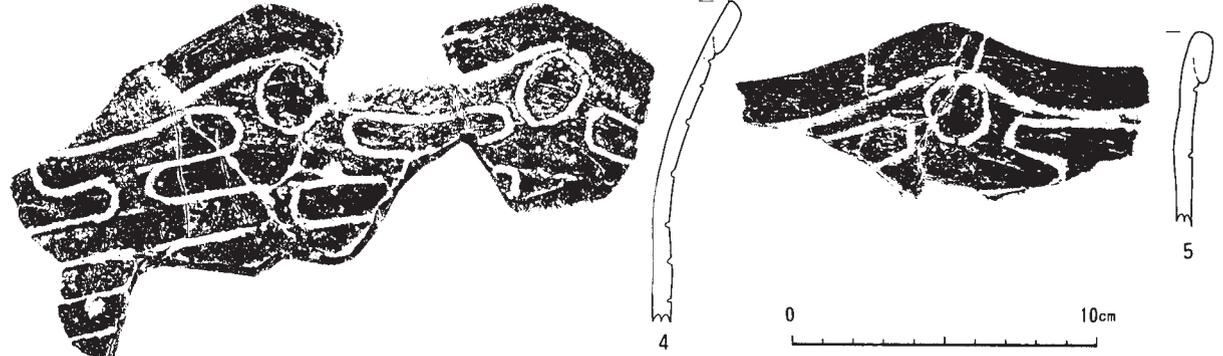
第13号土坑土層注記

- 第1層 黒褐色土 10YR3/1 ごろた少量混入。粘性・しまりなし。
- 第2層 黒褐色土 10YR2/2 ローム10%・ごろた少量混入。粘性ややあり。しまりなし。
- 第3層 黒褐色土 10YR3/1 ローム20%・ごろた少量混入。粘性・しまりややあり。
- 第4層 黒褐色土 10YR2/2 ごろた少量混入。粘性なし。しまりややあり。
- 第5層 黒褐色土 10YR3/2 ローム20%・ごろた少量混入。粘性ややあり。しまりなし。
- 第6層 暗褐色土 10YR3/3 ローム50%・ごろた微量混入。粘性あり。しまりなし。
- 第7層 暗褐色土 10YR3/3 ローム50%・ごろた少量混入。粘性あり。しまりややあり。
- 第8層 暗褐色土 10YR3/3 ローム40%・ごろた微量混入。粘性あり。しまりややあり。
- 第9層 黄褐色ローム 10YR5/6 ごろた微量・黒褐色土(10YR3/2)10%混入。粘性あり。しまりなし。



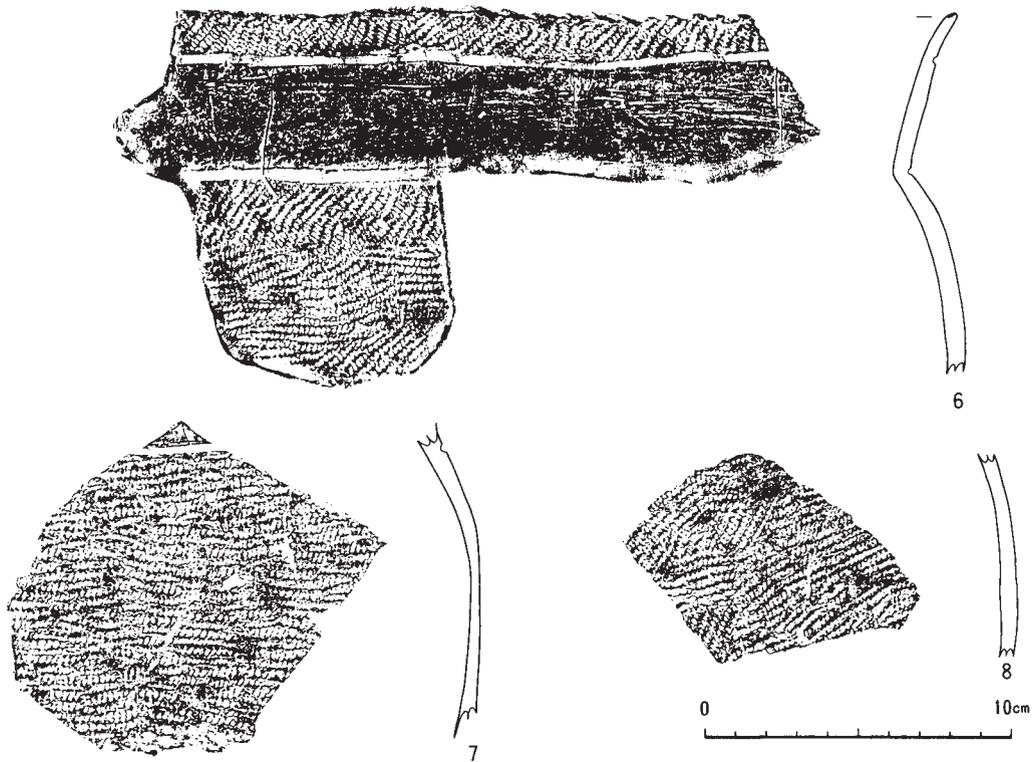
第15号土坑土層注記

- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 ごろた少量混入。粘性・しまりなし。
- 第2層 黒褐色土 10YR2/2 ごろた少量混入。粘性なし。しまりややあり。
- 第3層 黒褐色土 10YR2/3 ローム20%・ごろた中量混入。粘性・しまりややあり。
- 第4層 黒褐色土 10YR2/3 ローム10%・ごろた少量混入。粘性ややあり。しまりなし。
- 第5層 黒褐色土 10YR2/3 ごろた少量混入。粘性・しまりややあり。
- 第6層 暗褐色土 10YR3/3 ローム40%・ごろた少量混入。粘性・しまりあり。



図番号	出土遺構	層位	器形	部位	施文文様	内面	胎土	分類	備考	整理番号
4	15土	覆土	深鉢	口縁部~胴部	波状口縁、折り返し口縁、沈線文	ナデ	浮石・砂粒混入	III-2	外面炭化物付着、No. 5との同一個体	2
5	15土	覆土	深鉢	口縁部	波状口縁、折り返し口縁、沈線文	ナデ	浮石・砂粒混入	III-2	外面炭化物付着、No. 4との同一個体	5

図19 第13・15号土坑



図番号	出土遺構	層位	器形	部位	施文文様	内面	胎土	分類	備考	整理番号
6	15土	覆土	甕	口縁部~胴部	平縁、口唇部刻み目、口縁部磨消縄文・沈線文、胴部LR縄文	ミガキ	砂粒・浮石混入		外面一部黒色、No. 8との同一個体	1
7	15土	覆土	深鉢	胴部	沈線文、LR縄文(左斜め回転)	ナデ	砂粒混入			3
8	15土	覆土	深鉢	胴部	LR斜縄文(横回転)	ナデ	砂粒混入		No. 6との同一個体	4

図20 第15号土坑出土遺物

(3) 溝状ピット (図21~23)

第1号溝状ピット (図21)

[位置] ZF・ZG-43グリッドに位置する。2mほど東南東には第2号溝状ピットがある。

[重複] なし。

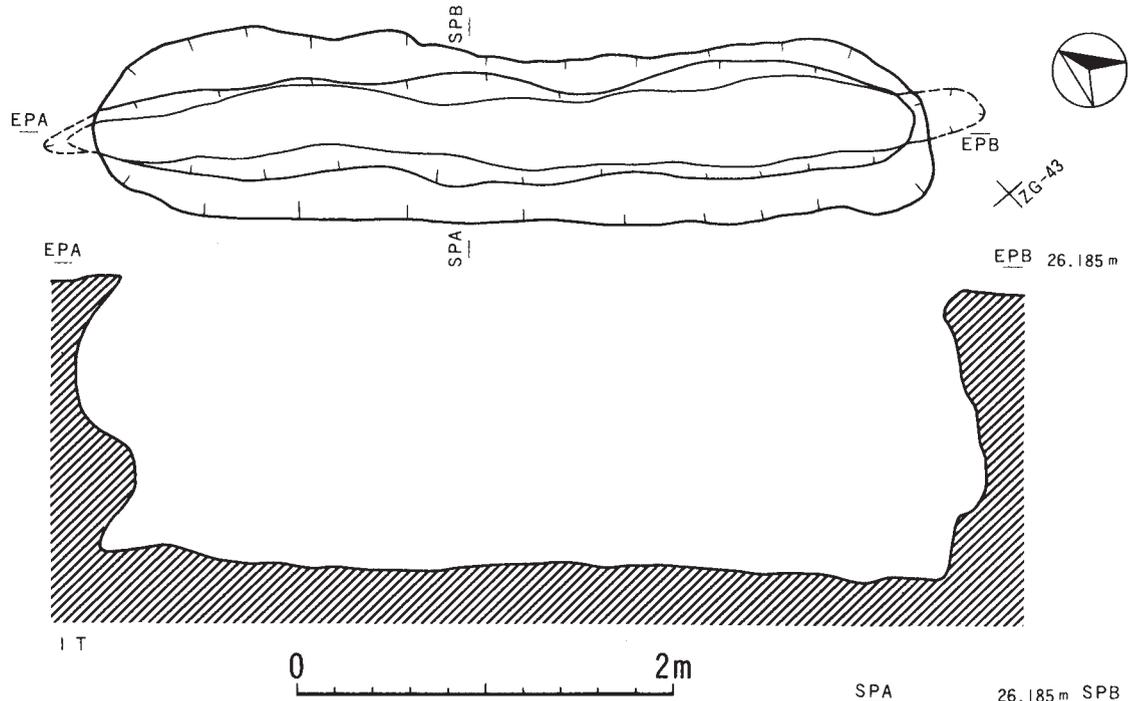
[平面形・規模] 開口部では、長軸440cm、短軸85cmで、やや幅が広く、両端が丸みを帯びた溝状を呈する。坑底部では、長軸448cm、短軸20~45cmで、やや蛇行気味の細長い溝状を示し、深さは、最深部で154cm、浅い部分で141cmある。開口部の長軸方向はN-31°-Wである。

[壁・底面] 壁・底面は第IV~VII層を掘り込んで構築している。長軸方向の北西断面は、中端が20~30cmほど上下の壁より膨らんでおり、中端以外の壁は内傾して立ち上がる。南東断面は、底面から中端までは外傾して立ち上がる。中位は外側へ30cmほど膨らみ、内傾して立ち上がる。短軸方向の断面は、かなり急な立ち上がりを呈する。底面は、若干の凹凸を有し、北西側が反対側より15cmほど高い。

[堆積土] 上半は自然堆積、下半は人為堆積の様相を呈し、7層に区分できた。主体は、ごろた~アワズナを少量~中量含む黒褐色~黒色土である。第6層は壁の崩落によるものだが、第7層は人為的に埋められたものと考えられる。

[出土遺物] なし。

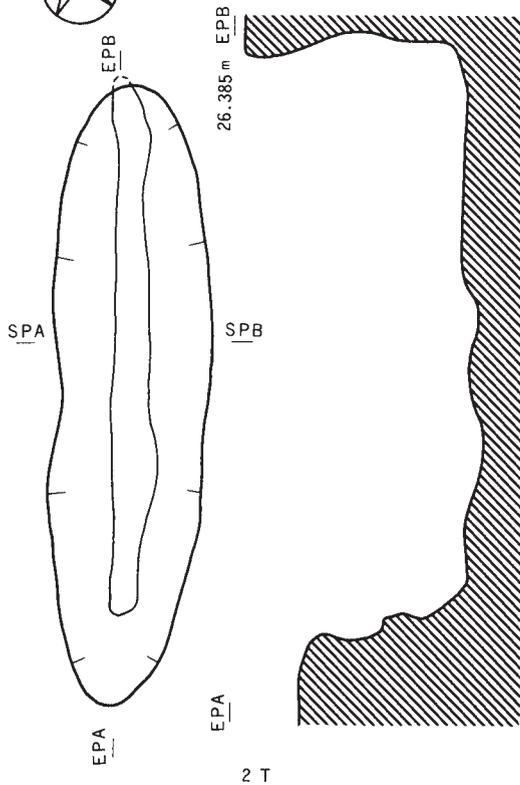
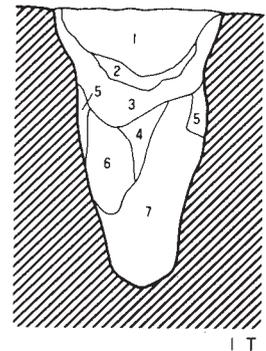
[小結] 遺物が出土していないため時期は明確でないが、第III層(アワズナ混入)中に落ち込みを確認していることから、中期~後期に構築されたものと思われる。



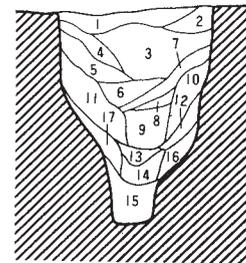
第1号溝状ピット土層注記

第1層	黒褐色土	10YR2/2	ごろた・アワズナ中量・To.b少量混入。湿性・しまりややあり。
第2層	黒色土	10YR2/1	ごろた・アワズナ少量混入。湿性・しまりあり。
第3層	黒褐色土	10YR3/1	ごろた・アワズナ少量混入。粘性・しまりややあり。湿性あり。
第4層	黒褐色土	10YR3/2	ごろた・アワズナ少量混入。粘性・湿性ややあり。しまりなし。
第5層	黒褐色土	10YR2/3	ごろた少量混入。粘性・湿性・しまりあり。
第6層	褐色ローム	10YR4/4	ごろた少量混入。粘性・湿性ややあり。しまりあり。
第7層	褐色ローム	10YR4/6	ごろた少量混入。粘性ややあり。湿性・しまりあり。

SPA 26.185 m SPB



SPA 26.385 m SPB



第2号溝状ピット土層注記

第1層	黒褐色土	10YR2/2	ごろたの微量混入。しまりあり。
第2層	黒褐色土	10YR3/2	ごろたの微量混入。粘性弱。しまりあり。
第3層	黒褐色土	10YR2/2	しまりあり。
第4層	黒褐色土	10YR3/2	ごろたの微量混入。粘性弱。しまりあり。
第5層	黒褐色土	10YR2/3	ごろたの微量混入。粘性・しまり弱。
第6層	暗褐色土	10YR3/4	中央部に火山灰のブロックあり。
第7層	暗褐色土	10YR3/3	ごろたの微量混入。粘性弱。しまりあり。
第8層	黒褐色土	10YR3/2	ごろた少量混入。粘性弱。しまりあり。
第9層	黒褐色土	10YR2/3	ごろた少量混入。粘性弱。しまりなし。
第10層	にぶ黄褐色土	10YR4/3	ごろた少量混入。粘性・しまり弱。
第11層	黄褐色ローム	10YR5/6	粘性・しまり弱。
第12層	褐色ローム	10YR4/6	粘性・しまり弱。
第13層	暗褐色土	10YR3/3	ごろたの微量混入。粘性弱。しまりなし。
第14層	にぶ黄褐色土	10YR4/3	粘性弱。しまりなし。
第15層	暗褐色土	10YR3/3	ごろたの微量混入。粘性弱。しまりなし。
第16層	褐色ローム	7.5YR4/4	ごろたの微量混入。粘性・しまり弱。
第17層	褐色ローム	7.5YR4/4	ごろたの微量混入。粘性・しまり弱。

図21 第1・2号溝状ピット

## 第2号溝状ピット (図21)

[位置] ZG-42・43グリッドに位置する。2mほど西北西には第1号溝状ピットがある。

[重複] なし。

[平面形・規模] 開口部では、長軸327cm、短軸80cmで、両端が丸みを帯びた溝状を呈する。坑底部では、長軸284cm、短軸14~23cmで、細長い溝状を示す。深さは、最深部で128cm、浅い部分で93cmある。開口部の長軸方向はN-14°-Eである。

[壁・底面] 壁・底面は第IV~VII層を掘り込んで構築している。長軸方向の南端の断面は、中位が10cmほど膨らむものの、底面から急に立ち上がる。北端は若干内傾して立ち上がる。短軸方向の断面は、坑底部から20~40cm上まではほぼ垂直に立ち上がり、そこより開口部にかけてはU字状に開く。底面は凹凸を有し、南側に若干傾く。

[堆積土] 自然堆積の様相を呈し、17層に区分できた。主体は、ごろたを微量~少量含む黒褐色~暗褐色土である。第11・12・16・17層は壁の崩落土とみられる。

[出土遺物] なし。

[小結] 遺物が出土していないため時期は明確でないが、切り込み面は第III層(アワズナ混入)中とみられ、中期~後期に構築されたものと考えられる。

## 第3号溝状ピット (図22)

[位置] ZZ・AA-36・37グリッドに位置する。

[重複] 第1号濠跡と重複し、本遺構の方が古い。

[平面形・規模] 開口部では、長軸443cm、短軸53cmで、両端が丸みを帯びた溝状を呈する。坑底部では、長軸364cm、短軸7~12cmで、細長い溝状を示す。深さは、最深部で138cm、浅い部分で111cmある。開口部の長軸方向はN-54°-Wである。

[壁・底面] 壁・底面は第III~VII層を掘り込んで構築している。長軸方向の南東の断面は、坑底部より中位にかけては外側に弓形状に、中位から開口部にかけては急に立ち上がる。北西側は中位まではほぼ垂直、中位から開口部にかけてはやや急に立ち上がる。短軸方向の断面は、坑底部から90cm上まではほぼ垂直に立ち上がり、そこより開口部にかけてはラップ状に開く。底面は若干凹凸を有し、南東側に幾分傾く。

[堆積土] 自然堆積の様相を呈し、8層に区分できた。主体は、ごろたを微量~中量含む黒色~黒褐色土である。中・下位の土層はロームを微量~少量含み、中位はしまりが無い。

[出土遺物] なし。

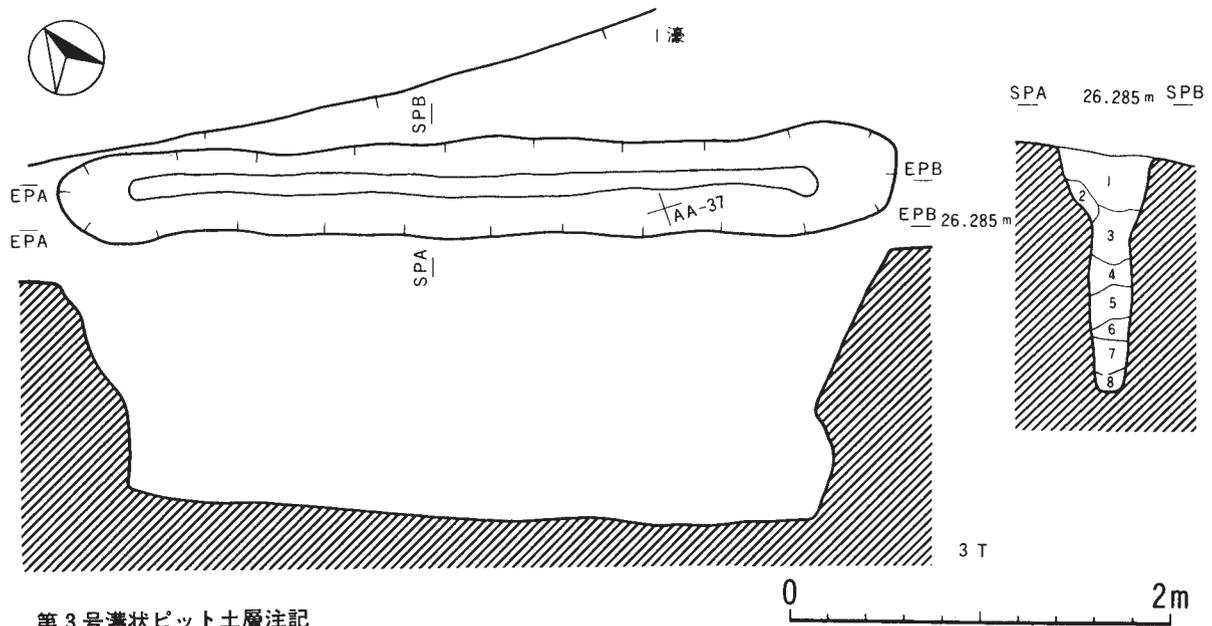
[小結] 遺物が出土していないため時期は明確でないが、掘り込み面が第III層(アワズナ混入)中であることから、中期~後期に構築されたものと考えられる。

## 第4号溝状ピット (図22)

[位置] ZF・ZG-45グリッドに位置する。

[重複] なし。

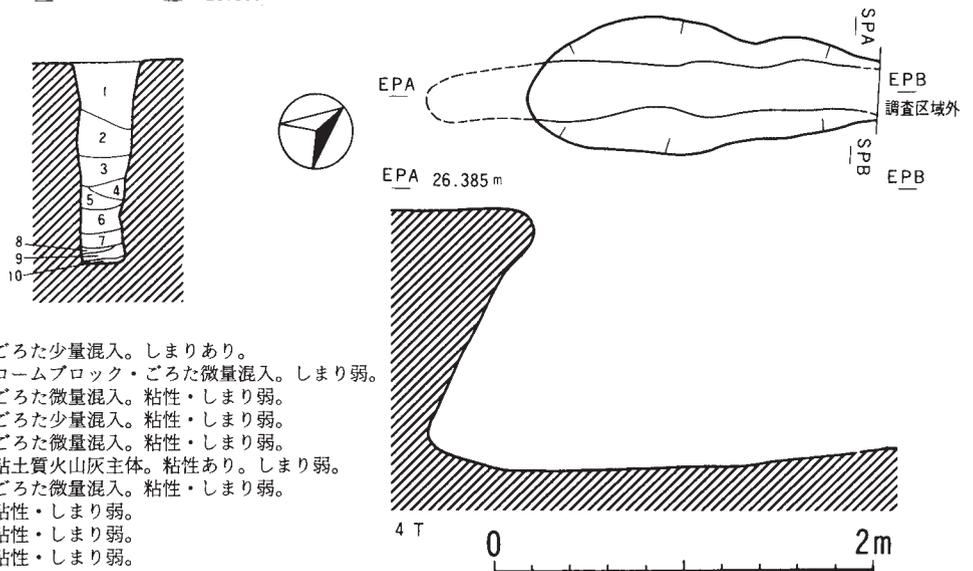
[平面形・規模] 開口部北東側が調査区域外のため、全体の平面形・規模は不明であるが、調査部分



第3号溝状ピット土層注記

- |     |      |         |                                    |
|-----|------|---------|------------------------------------|
| 第1層 | 黒色土  | 10YR2/1 | ごろた少量混入。しまりややあり。                   |
| 第2層 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | ごろた中量混入。粘性あり。しまりなし。                |
| 第3層 | 黒色土  | 10YR2/1 | ローム微量・ごろた少量混入。しまりなし。               |
| 第4層 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | ローム少量・ごろた微量混入。粘性あり。しまりなし。          |
| 第5層 | 黒色土  | 10YR2/1 | ローム・ロームブロック微量混入。粘性ややあり。しまりなし。      |
| 第6層 | 黒褐色土 | 10YR2/3 | ローム・ごろた少量混入。粘性・しまりあり。              |
| 第7層 | 暗褐色土 | 10YR3/3 | ローム少量・ごろた中量混入。粘性あり。しまりややあり。        |
| 第8層 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | ローム微量・八戸火山灰少量混入。粘性あり。湿性ややあり。しまりなし。 |

SPA SPB 26.385 m



第4号溝状ピット土層注記

- |      |      |         |                       |
|------|------|---------|-----------------------|
| 第1層  | 黒色土  | 10YR2/1 | ごろた少量混入。しまりあり。        |
| 第2層  | 黒褐色土 | 10YR2/2 | ロームブロック・ごろた微量混入。しまり弱。 |
| 第3層  | 黒褐色土 | 10YR3/2 | ごろた微量混入。粘性・しまり弱。      |
| 第4層  | 暗褐色土 | 10YR3/3 | ごろた少量混入。粘性・しまり弱。      |
| 第5層  | 黒褐色土 | 10YR3/2 | ごろた微量混入。粘性・しまり弱。      |
| 第6層  | 褐色土  | 10YR4/4 | 粘土質火山灰主体。粘性あり。しまり弱。   |
| 第7層  | 黒褐色土 | 10YR3/2 | ごろた微量混入。粘性・しまり弱。      |
| 第8層  | 褐色土  | 10YR4/4 | 粘性・しまり弱。              |
| 第9層  | 暗褐色土 | 10YR3/3 | 粘性・しまり弱。              |
| 第10層 | 黒色土  | 10YR2/1 | 粘性・しまり弱。              |

図22 第3・4号溝状ピット

から、開口部は、長軸185cm以上、短軸31~72cmで、南西端が丸みを帯び、中央が窄む溝状を呈する。坑底部は、長軸240cm以上、短軸21~31cmで、細長い溝状を示す。深さは、最深部で137cm、浅い部分で106cmある。開口部の長軸方向はN-41°-Eである。

[壁・底面] 壁・底面は第IV~VII層を掘り込んで構築している。長軸方向の南西の断面は、坑底部より約60°内傾して、ほぼ一気に立ち上がる。短軸方向の断面は、坑底部よりほぼ垂直に立ち上がる。底面は南西側に若干傾く。

[堆積土] 自然堆積の様相を呈し、10層に区分できた。主体は、ごろたを微量～少量含む黒色～黒褐色土である。最下位は厚さ約2cmの黒色土である。中・下位はしまりが無い。

[出土遺物] なし。

[小結] 遺物が出土していないため時期は明確でないが、掘り込み面が第IV層（ごろた混入）中であることから、早期～前期に構築されたものと考えられる。

第5号溝状ピット (図23)

[位置] AG-36グリッドに位置する。

[重複] なし。

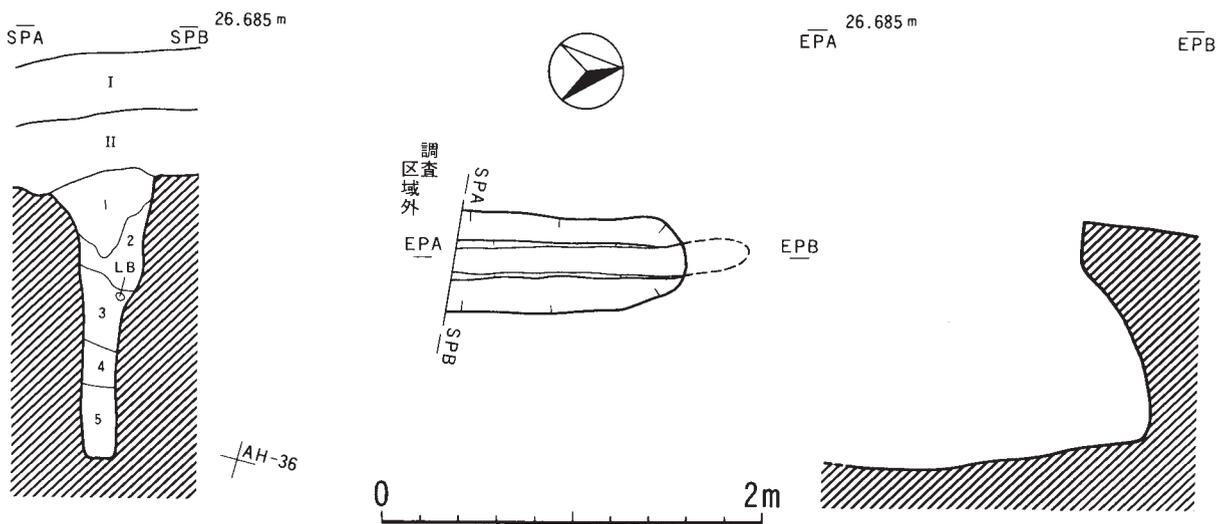
[平面形・規模] 開口部南側が調査区域外のため、全体の平面形・規模は不明であるが、調査部分から、開口部は、長軸122cm以上、短軸50cm前後で、北端が丸みを帯びる、細長い溝状を呈する。坑底部は、長軸156cm以上、短軸13cm前後で、開口部直下以北が若干西へ曲る、細長い溝状を示す。深さは、最深部で144cm、浅い部分で19cmある。開口部の長軸方向はN-3°-Eである。

[壁・底面] 壁・底面は第Ⅲ～Ⅶ層を掘り込んで構築している。長軸方向の北端の断面は、坑底部より90cmほど上までは内傾し、そこより開口部まではほぼ垂直に立ち上がる。短軸方向の断面は、坑底部より中位まではほぼ垂直に立ち上がり、中位から開口部にかけてはラップ状に開く。底面は南側に幾分傾く。

[堆積土] 自然堆積の様相を呈し、5層に区分できた。黒色土主体で、全層とも、ローム粒を微量～中量、ごろたを微量～少量含む。下位はしまりが無い。

[出土遺物] なし。

[小結] 遺物が出土していないため時期は明確でないが、掘り込み面が第Ⅲ層（アワズナ混入）上面であることから、中期～後期に構築されたものと考えられる。



第5号溝状ピット土層注記

第1層	黒色土	10YR2/1	ローム粒少量・ごろた微量混入。しまりややあり。
第2層	黒色土	10YR2/1	ローム粒中量・ごろた少量混入。しまりややあり。
第3層	黒色土	10YR2/1	ローム粒・ごろた少量混入。しまりややあり。
第4層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒・ごろた少量混入。しまりなし。
第5層	黒色土	10YR2/1	ローム粒・ごろた微量混入。しまりなし。

図23 第5号溝状ピット

### 第3節 縄文時代以外の遺構

本遺跡で検出された縄文時代以外の遺構は、土坑1基、濠跡2条、捨て焼土遺構1基及び溝跡4条である。これらの遺構は、構築時期の決め手となる遺物を出土していないが、堆積土及び確認された土層等から、縄文時代よりも新しいものと判断した。以下にそれらの概要を記述する。

#### (1) 土坑 (図24)

##### 第14号土坑 (図24)

[位置] ZJ-42・43グリッドに位置する。

[重複] 第4号溝と重複し、本遺構の方が古い。

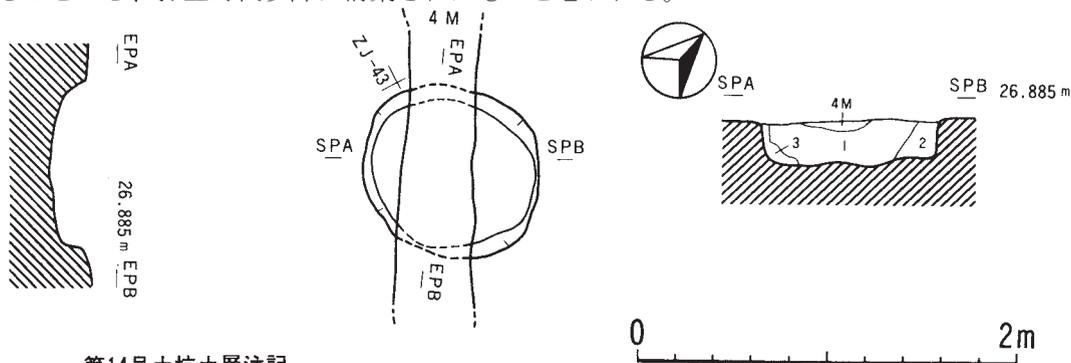
[平面形・規模] 長軸94cm、短軸87cm(推定)のほぼ円形を呈し、深さは23cmである。

[壁・底面] 壁・底面は第Ⅲ層を掘り込んで構築している。壁の立ち上がりは、北東と南西はほぼ垂直、外は急～やや急である。底面には若干の凹凸が認められる。

[堆積土] 自然堆積の様相を呈し、3層に区分できた。ほとんど黒色土で、ごろたを微量～少量含む。全体的にしまっている。

[出土遺物] なし。

[小結] 遺物が出土していないため明確でないが、第Ⅱ層(To-bの浮石混入)中に落ち込みを確認していることから、弥生時代以降に構築されたものと思われる。



第14号土坑土層注記

第1層	黒色土	10YR2/1	ごろた少量混入。粘性なし。しまりあり。
第2層	黒色土	10YR2/1	ごろた微量混入。粘性ややあり。しまりあり。
第3層	黄褐色ローム	10YR5/6	ごろた少量・黒色土(10YR2/1)10%混入。粘性あり。しまりややあり。

図24 第14号土坑

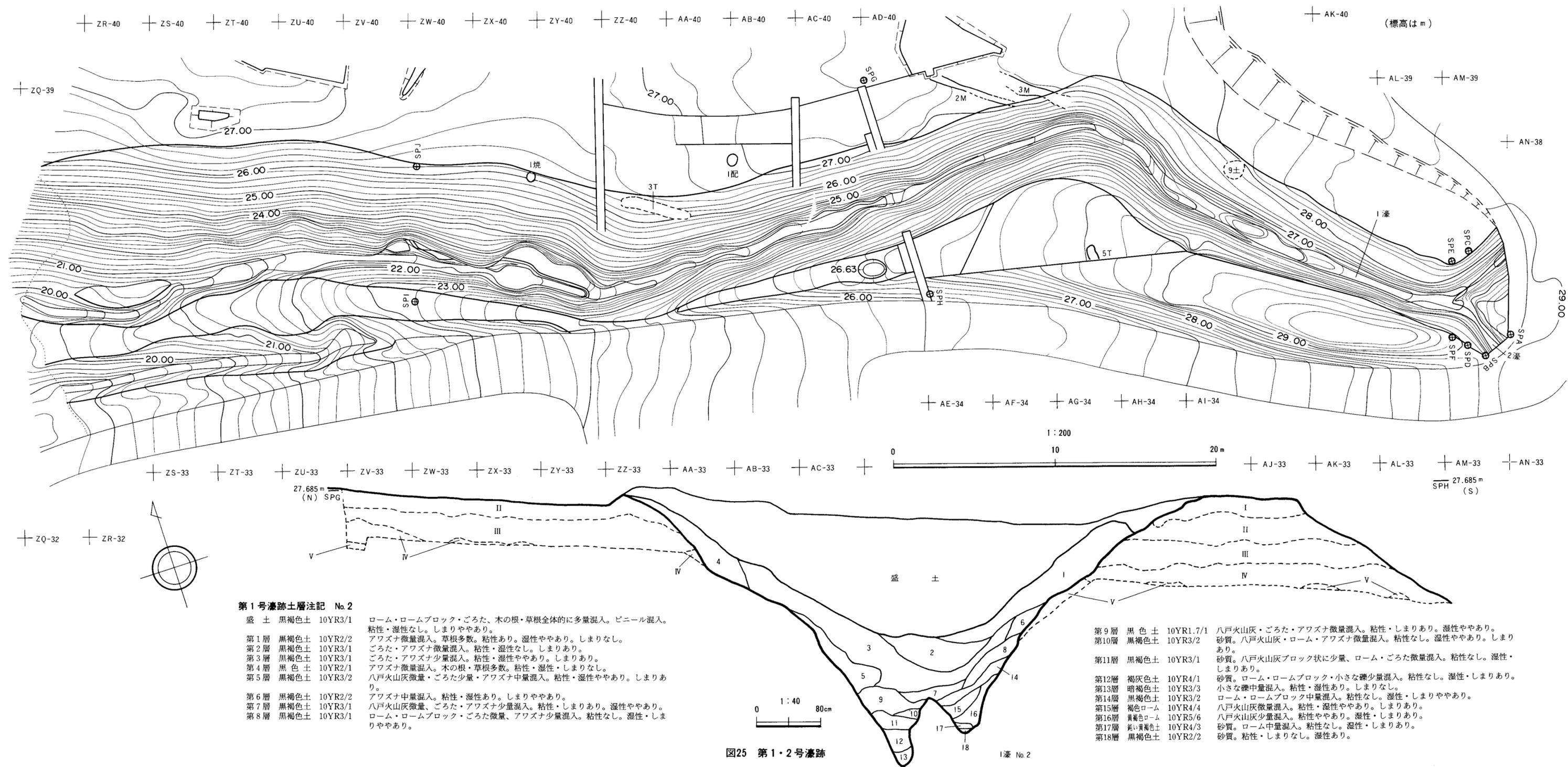
#### (2) 濠跡 (図25～28)

##### 第1号濠跡 (図25～28)

[位置] 調査区域の中央南寄りをはほぼ東西に縦断しており、南北は35～40ラインの間に、東西はZP～AOラインの間に位置する。

[重複] 西より東へ、第1号捨て焼土遺構、第3号溝状ピット、第2・3号溝跡、第9号土坑及び第2号濠跡と重複し、第3号溝状ピット・第9号土坑より新しい。また、第2・3号溝跡より新しく、第1号捨て焼土遺構より古いとみられる。第2号濠跡とは同時期とみられる。

[形態] 全長95m、幅2.8～11.1m及び確認面からの深さ1.9～6.5mである。西へ行くほど深く、幅も広がる。断面形はV字形～概ね逆台形を呈する。



第1号濠跡土層注記 No. 2

- |     |      |         |  |
|-----|------|---------|--|
| 盛土  | 黒褐色土 | 10YR3/1 | ローム・ロームブロック・ごろた、木の根・草根全体的に多量混入。ビニール混入。粘性・湿性なし。しまりややあり。 |
| 第1層 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | アワズナ微量混入。草根多数。粘性あり。湿性ややあり。しまりなし。                       |
| 第2層 | 黒褐色土 | 10YR3/1 | ごろた・アワズナ微量混入。粘性・湿性なし。しまりあり。                            |
| 第3層 | 黒褐色土 | 10YR3/1 | ごろた・アワズナ少量混入。粘性・湿性ややあり。しまりあり。                          |
| 第4層 | 黒色土  | 10YR2/1 | アワズナ微量混入。木の根・草根多数。粘性・湿性・しまりなし。                         |
| 第5層 | 黒褐色土 | 10YR3/2 | 八戸火山灰微量・ごろた少量・アワズナ中量混入。粘性・湿性ややあり。しまりあり。                |
| 第6層 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | アワズナ中量混入。粘性・湿性あり。しまりややあり。                              |
| 第7層 | 黒褐色土 | 10YR3/1 | 八戸火山灰微量、ごろた・アワズナ少量混入。粘性・しまりあり。湿性ややあり。                  |
| 第8層 | 黒褐色土 | 10YR3/1 | ローム・ロームブロック・ごろた微量、アワズナ少量混入。粘性なし。湿性・しまりややあり。            |

- |      |        |           |   |
|------|--------|-----------|---|
| 第9層  | 黒色土    | 10YR1.7/1 | 八戸火山灰・ごろた・アワズナ微量混入。粘性・しまりあり。湿性ややあり。         |
| 第10層 | 黒褐色土   | 10YR3/2   | 砂質。八戸火山灰・ローム・アワズナ微量混入。粘性なし。湿性ややあり。しまりあり。    |
| 第11層 | 黒褐色土   | 10YR3/1   | 砂質。八戸火山灰ブロック状に少量、ローム・ごろた微量混入。粘性なし。湿性・しまりあり。 |
| 第12層 | 褐灰色土   | 10YR4/1   | 砂質。ローム・ロームブロック・小さな礫少量混入。粘性なし。湿性・しまりあり。      |
| 第13層 | 暗褐色土   | 10YR3/3   | 小さな礫中量混入。粘性・湿性あり。しまりなし。                     |
| 第14層 | 黒褐色土   | 10YR3/2   | ローム・ロームブロック中量混入。粘性なし。湿性・しまりややあり。            |
| 第15層 | 褐色ローム  | 10YR4/4   | 八戸火山灰微量混入。粘性・湿性ややあり。しまりあり。                  |
| 第16層 | 黄褐色ローム | 10YR5/6   | 八戸火山灰少量混入。粘性ややあり。湿性・しまりあり。                  |
| 第17層 | 鈍い黄褐色土 | 10YR4/3   | 砂質。ローム中量混入。粘性なし。湿性・しまりあり。                   |
| 第18層 | 黒褐色土   | 10YR2/2   | 砂質。粘性・しまりなし。湿性あり。                           |

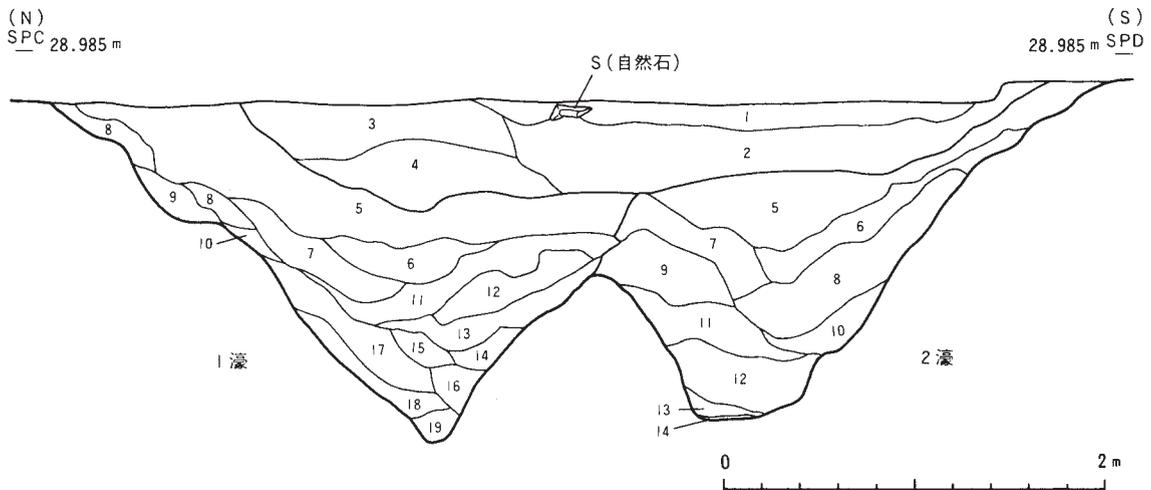
図25 第1・2号濠跡

[壁・底面] 壁・底面は第Ⅱ層～高館火山灰層（第Ⅶ層下）を掘り込んで構築している。壁は、下半では底面と45～65°と急に、上半は同じく30～40°とやや急に立ち上がる。底面は流水による侵食で凹凸が激しく、AI・AJ-36グリッドには、第Ⅶ層の八戸火山灰が島状に残存する。

[堆積土] 第2号濠跡との合流部付近では、自然堆積の様相を呈し、19～30層に区分できた。主体は黒褐色土である。AEライン以西では上半がビニール等を含む人為堆積、下半において自然堆積の様相を呈し、18～32層に区分できた。主体は同じく黒褐色土であるが、全体的にしまりがある。底面は、東端～AEライン間は砂質であり、AEライン以西では砂質に加えて細礫～中礫（円礫）を伴う。

[出土遺物] 覆土から、縄文土器片が数10点、土製品が1点出土した。

[小結] 覆土から良好な遺物が出土していないため、構築時期ははっきりしないが、濠跡の形状及び堆積土（掘り込みは第Ⅱ層途中）から、古代以降に構築された可能性が高い。なお、本遺構は、昨年度調査した第1号濠跡に繋がるものである。



第1・2号濠跡合流部土層(共通)注記

- |     |      |         |                          |
|-----|------|---------|--------------------------|
| 第1層 | 黒褐色土 | 10YR3/2 | 砂利多量混入。粘性・湿性なし。しまり非常にあり。 |
| 第2層 | 暗褐色土 | 10YR3/3 | ごろた微量混入。粘性・湿性なし。しまりややあり。 |
| 第3層 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | 粘性・湿性・しまりなし。             |
| 第4層 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | ごろた微量混入。粘性・湿性・しまりなし。     |

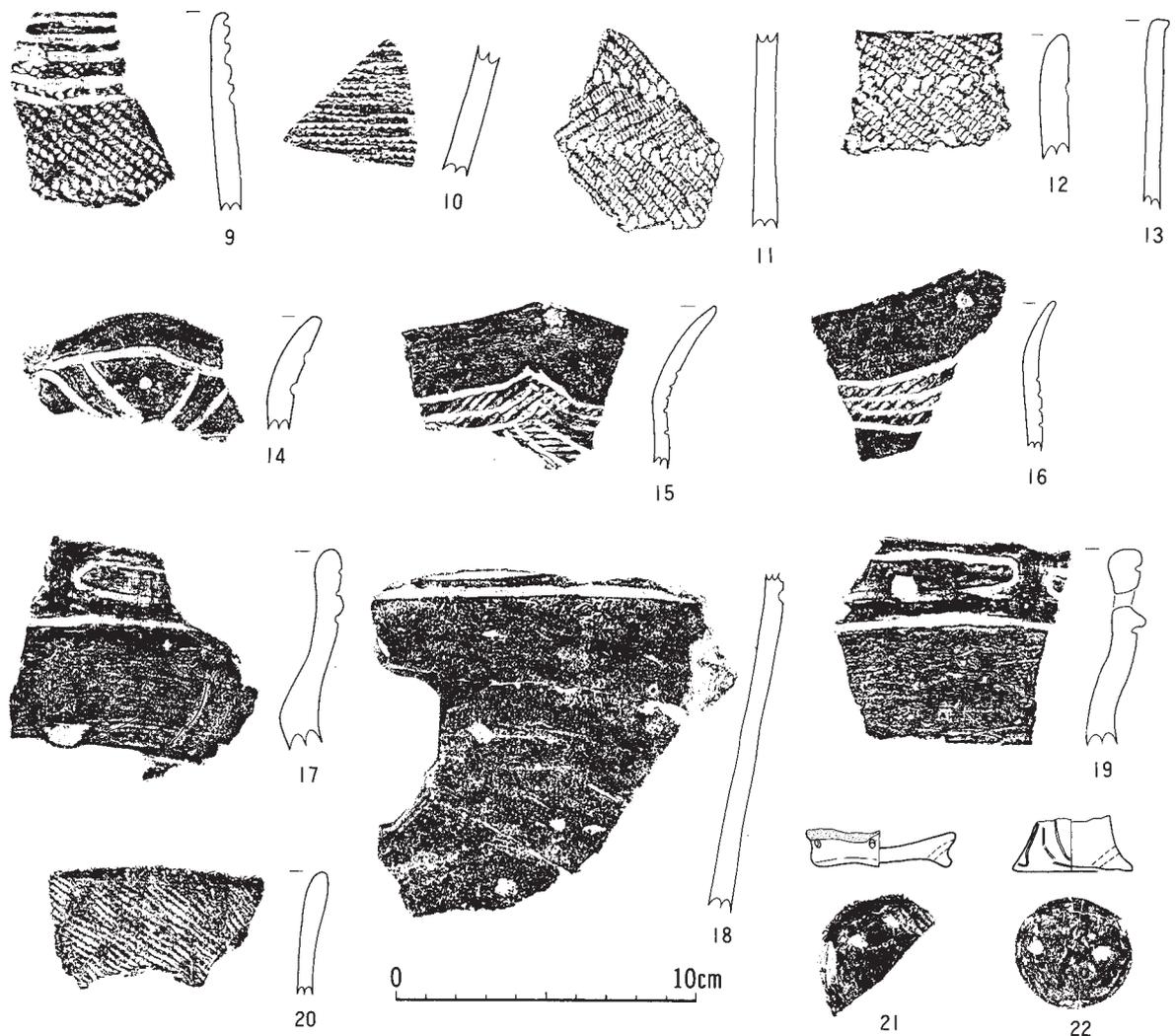
第1号濠跡土層注記

- |      |        |         |                                 |
|------|--------|---------|---------------------------------|
| 第5層  | 黒褐色土   | 10YR2/3 | ごろた少量混入。粘性なし。湿性・しまりややあり。        |
| 第6層  | 黒褐色土   | 10YR2/2 | ごろた少量混入。粘性・湿性ややあり。しまりあり。        |
| 第7層  | 黒褐色土   | 10YR2/3 | ごろた・アワズナ少量混入。粘性・しまりややあり。湿性あり。   |
| 第8層  | 暗褐色土   | 10YR3/3 | アワズナ少量混入。粘性なし。湿性あり。しまりややあり。     |
| 第9層  | 黄褐色ローム | 10YR5/6 | 黒褐色土少量混入。粘性・湿性・しまりややあり。         |
| 第10層 | 黒褐色土   | 10YR3/2 | 八戸火山灰少量混入。粘性・しまりなし。湿性ややあり。      |
| 第11層 | 黒褐色土   | 10YR3/1 | アワズナ微量混入。粘性・しまりなし。湿性ややあり。       |
| 第12層 | 黄褐色ローム | 10YR6/3 | 八戸火山灰少量・黒褐色土混入。粘性・しまりあり。湿性ややあり。 |
| 第13層 | 黒褐色土   | 10YR2/3 | ローム少量・浮石微量混入。粘性・しまりなし。湿性あり。     |
| 第14層 | 黒色土    | 10YR2/1 | 八戸火山灰・ごろた微量混入。粘性・湿性ややあり。        |
| 第15層 | 黒褐色土   | 10YR3/2 | ごろた・アワズナ微量混入。粘性ややあり。湿性・しまりあり。   |
| 第16層 | 黒褐色土   | 10YR2/3 | 粘性・湿性・しまりあり。                    |
| 第17層 | 黒褐色土   | 10YR2/2 | ごろた少量混入。粘性なし。湿性・しまりあり。          |
| 第18層 | 黒褐色土   | 10YR3/1 | 粘性なし。湿性・しまりあり。                  |
| 第19層 | 黄褐色ローム | 10YR5/6 | 黒色土中量混入。粘性ややあり。湿性・しまりあり。        |

第2号濠跡土層注記

- |      |        |         |  |
|------|--------|---------|--|
| 第5層  | 黒褐色土   | 10YR2/3 | ごろた・アワズナ少量、To-b微量混入。粘性・湿性・しまりなし。       |
| 第6層  | 黒褐色土   | 10YR2/3 | ごろた・アワズナ少量混入。粘性・しまりなし。湿性ややあり。          |
| 第7層  | 黒褐色土   | 10YR2/2 | ごろた少量混入。粘性・しまりなし。湿性ややあり。               |
| 第8層  | 黄褐色ローム | 10YR5/6 | ごろた中量・黒褐色土混入。粘性・湿性あり。しまりなし。            |
| 第9層  | 黒褐色土   | 10YR2/3 | 八戸火山灰・黄褐色ローム少量混入。粘性・湿性ややあり。しまりなし。      |
| 第10層 | 黄褐色ローム | 10YR5/6 | 八戸火山灰・黒褐色土少量混入。粘性・湿性ややあり。しまりなし。        |
| 第11層 | 黄褐色ローム | 10YR7/2 | ローム・黒褐色土少量混入。粘性・湿性あり。しまりややあり。          |
| 第12層 | 暗褐色土   | 10YR3/3 | 砂質。ローム混入。粘性・しまりなし。湿性あり。                |
| 第13層 | 黄褐色ローム | 10YR7/2 | 崩落した八戸火山灰。粘性・湿性あり。しまりなし。               |
| 第14層 | 灰黄褐色土  | 10YR5/2 | 高館火山灰・八戸火山灰・黒色土少量混入。粘性あり。湿性ややあり。しまりなし。 |

図26 第1・2号濠跡セクション



図番号	出土遺構(グリッド)	層位	器形	部位	施文文様	内面	胎土	分類	備考	整理番号
9	1濠(AM-36)	覆土	深鉢	口縁部	平縁、沈線文、R L斜縄文(横回転)	ナデ	繊維混入	I-1		8
10	1濠(ZY-37)	覆土	深鉢	胴部	貝殻腹縁文	ナデ	砂粒混入	I-3	内面黒褐色	99
11	1濠(AG-37)	底面	深鉢	胴部	結束羽状縄文	ナデ	繊維混入	II	内外面暗灰色、No.12との同一個体か?	11
12	1濠(AI-36)	底面	深鉢	口縁部	平縁、結束斜縄文	ナデ	繊維混入	II	内外面暗灰色、No.11との同一個体か?	12
13	1濠(ZZ-35)	覆土(上層)	深鉢	口縁部	平縁、無文	ナデ		III-1		6
14	1濠(AD-36)	覆土	深鉢	口縁部	小波状口縁、沈線文、円形刺突文	ナデ	砂粒混入	III-2	外面褐灰色	108
15	1濠(AD-36)	覆土(上層)	深鉢	口縁部~胴部	小波状口縁、沈線文、磨消縄文	ナデ	砂粒混入	III-2	No.16との同一個体	9
16	1濠(AD-36)	覆土(上層)	深鉢	口縁部~胴部	小波状口縁、沈線文、磨消縄文	ナデ	砂粒混入	III-2	No.15との同一個体	10
17	1濠(AK-35)	底面	甕	胴部~口縁部	平縁、隆帯、沈線文	ナデ	砂粒混入	III-2	甕橙か? No.19との同一個体	14
18	1濠(AK-36)	覆土(上層)	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	砂粒混入	III-2		15
19	1濠(AM-35)	覆土(上層)	甕	口縁部	平縁、隆帯、沈線文、穿孔	ナデ	砂粒混入	III-2	甕橙か? No.17との同一個体	7
20	1濠(AK-35)	底面	深鉢	口縁部~胴部	平縁、L R斜縄文(縦回転)	ナデ	砂粒混入	III-1		13
21	1濠(AK-36)	覆土(上層)	底部	穿孔		ミガキ	砂粒・浮石混入	IV		16
22	1濠	底面	土製品		沈線文、穿孔		砂粒・浮石混入			17

図27 第1号濠跡出土遺物

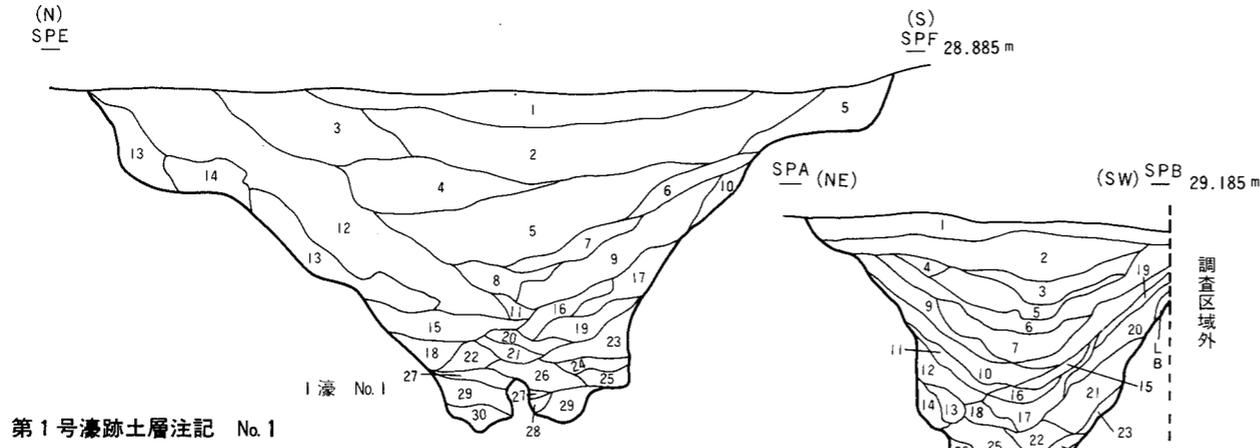
第2号濠跡 (図25・26・28)

[位置] 調査区域の東南端AM-34及びAL・AM-35グリッドに位置する。

[重複] 第1号濠跡と重複し、同時期とみられる。

[形態] 全長4.3m、幅2.5m以上及び確認面からの深さは164~174cmで、断面形は概ね逆台形を呈する。

[壁・底面] 壁は第II層~第VII層(八戸火山灰層)を掘り込んで構築しており、底面はちょうど高館火山灰層(第VII層下)に達している。第1号濠跡との合流部では、本遺構の底面が一気に14cmほど高

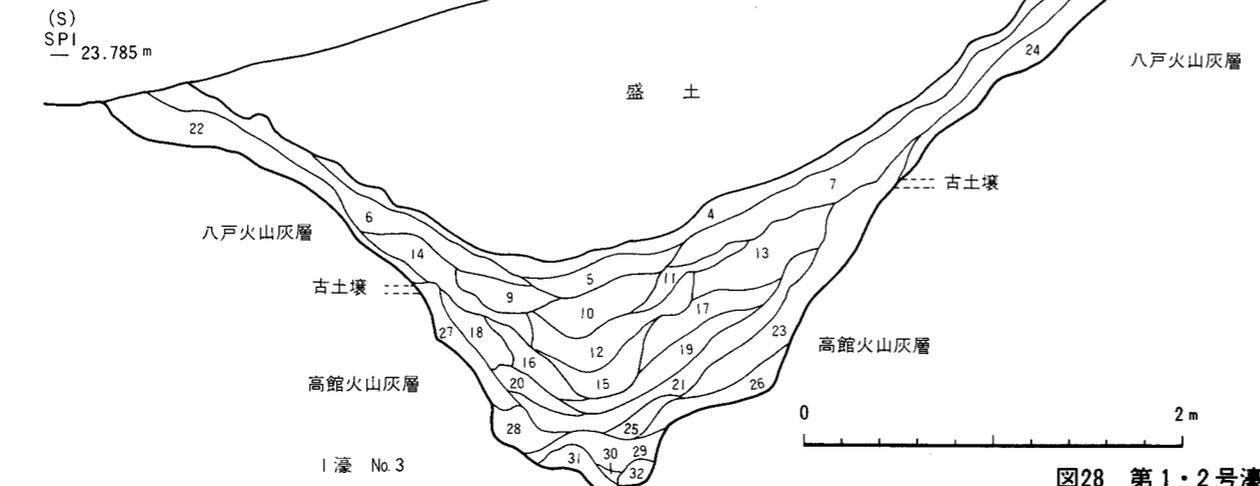


第1号濠跡土層注記 No.1

- |      |        |         |  |
|------|--------|---------|--|
| 第1層  | 黒褐色土   | 10YR3/2 | 砂利多量混入。粘性・湿性なし。しまり非常にあり。                         |
| 第2層  | 暗褐色土   | 10YR3/3 | ごろたの微量混入。粘性・湿性なし。しまりややあり。                        |
| 第3層  | 黒褐色土   | 10YR2/2 | 粘性・湿性・しまりなし。                                     |
| 第4層  | 黒褐色土   | 10YR2/2 | ごろたの微量混入。粘性・湿性・しまりなし。                            |
| 第5層  | 黒褐色土   | 10YR2/3 | ごろた・アワズナ少量混入。粘性・湿性・しまりあり。                        |
| 第6層  | 黒褐色土   | 10YR2/2 | ごろた・アワズナ少量混入。粘性・しまりなし。湿性ややあり。                    |
| 第7層  | 黒褐色土   | 10YR2/3 | ごろた・アワズナ少量混入。粘性・しまりなし。湿性ややあり。                    |
| 第8層  | 黒褐色土   | 10YR2/2 | ごろた少量混入。粘性・しまりなし。湿性ややあり。                         |
| 第9層  | 黄褐色ローム | 10YR5/6 | ごろた中量・黒褐色土混入。粘性・湿性あり。しまりなし。                      |
| 第10層 | 黄褐色ローム | 2.5Y6/4 | 八戸火山灰少量・黒褐色土(10YR2/2)中量混入。粘性なし。湿性・しまりややあり。       |
| 第11層 | 黒褐色土   | 10YR3/1 | ごろた少量混入。粘性ややあり。湿性あり。しまりなし。                       |
| 第12層 | 黒褐色土   | 10YR2/3 | ごろた少量混入。粘性なし。湿性・しまりややあり。                         |
| 第13層 | 暗褐色土   | 10YR3/3 | アワズナ少量混入。粘性なし。湿性あり。しまりややあり。                      |
| 第14層 | 黄褐色ローム | 10YR5/6 | 黒褐色土少量混入。粘性・湿性・しまりややあり。                          |
| 第15層 | 黒色土    | 10YR2/1 | 八戸火山灰・ごろた・アワズナ微量混入。粘性・湿性なし。しまりややあり。              |
| 第16層 | 黒褐色土   | 10YR3/2 | ローム・アワズナ少量混入。粘性・湿性ややあり。しまりなし。                    |
| 第17層 | 黄褐色ローム | 10YR5/6 | 八戸火山灰・黒褐色土少量混入。粘性・湿性ややあり。しまりなし。                  |
| 第18層 | 黒褐色土   | 10YR2/2 | 八戸火山灰・ローム・アワズナ微量混入。粘性なし。湿性・しまりややあり。              |
| 第19層 | 褐色ローム  | 10YR4/4 | 八戸火山灰微量・アワズナ中量、黒褐色土(10YR2/3)混入。粘性・湿性・しまりややあり。    |
| 第20層 | 黒褐色土   | 10YR2/2 | ローム・アワズナ微量混入。粘性あり。湿性ややあり。しまりなし。                  |
| 第21層 | 褐色ローム  | 10YR4/4 | 砂質。八戸火山灰微量・アワズナ中量、黒褐色土(10YR2/3)混入。粘性・湿性・しまりややあり。 |
| 第22層 | 黒褐色土   | 10YR3/2 | 砂質。ロームブロック少量・ごろたの微量混入。粘性なし。湿性あり。しまりなし。           |
| 第23層 | 黄褐色土   | 10YR7/2 | ローム、黒褐色土少量混入。粘性・湿性あり。しまりややあり。                    |
| 第24層 | 灰黄褐色土  | 10YR4/2 | 砂質。八戸火山灰・ローム微量混入。粘性・湿性あり。しまりなし。                  |
| 第25層 | 暗褐色土   | 10YR3/3 | 砂質。ローム混入。粘性・しまりなし。湿性あり。                          |
| 第26層 | 灰黄褐色土  | 10YR4/2 | 八戸火山灰・ローム微量、砂少量混入。粘性・湿性あり。しまりなし。                 |
| 第27層 | 黒褐色土   | 10YR2/2 | 砂質。ローム微量混入。粘性・しまりなし。湿性あり。                        |
| 第28層 | 灰黄褐色土  | 10YR4/2 | 砂質。ローム少量混入。粘性なし。湿性あり。しまりややあり。                    |
| 第29層 | 黒褐色土   | 10YR3/2 | 砂質。ローム・ロームブロック少量混入。粘性・しまりなし。湿性あり。                |
| 第30層 | 黒褐色土   | 10YR2/2 | 砂質。ロームブロック中量混入。粘性なし。湿性・しまりあり。                    |

第1号濠跡土層注記 No.3

- |     |      |         |  |
|-----|------|---------|--|
| 盛土  | 黒褐色土 | 10YR3/1 | ローム・ロームブロック・ごろた、木の根・草根全体的に多量混入。ピニール混入。粘性・湿性なし。しまりややあり。 |
| 第1層 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | ローム粒・アワズナ微量混入。粘性なし。湿性・しまりややあり。                         |
| 第2層 | 黒色土  | 10YR2/1 | ローム粒・アワズナ微量混入。粘性・しまりなし。湿性ややあり。                         |



第2号濠跡土層注記

- |      |        |         |  |
|------|--------|---------|--|
| 第1層  | 黒褐色土   | 10YR3/2 | 砂利多量混入。粘性・湿性なし。しまり非常にあり。                   |
| 第2層  | 黒褐色土   | 10YR2/2 | アワズナ・To-b微量混入。粘性なし。湿性ややあり。しまり非常にあり。        |
| 第3層  | 黒褐色土   | 10YR2/2 | 砂質。アワズナ少量・浮石微量混入。粘性なし。湿性・しまりややあり。          |
| 第4層  | 黒褐色土   | 10YR2/2 | アワズナ・浮石中量混入。粘性なし。湿性ややあり。しまりあり。             |
| 第5層  | 黒色土    | 10YR2/1 | アワズナ・浮石微量混入。粘性なし。湿性・しまりややあり。               |
| 第6層  | 黒褐色土   | 10YR2/2 | アワズナ・浮石中量、砂微量混入。粘性なし。湿性・しまりややあり。           |
| 第7層  | 黒色土    | 10YR2/1 | アワズナ・浮石少量、砂微量混入。粘性・しまりなし。湿性ややあり。           |
| 第8層  | 黒褐色土   | 10YR2/2 | アワズナ・浮石少量、砂微量混入。粘性・しまりなし。湿性ややあり。           |
| 第9層  | 暗褐色土   | 10YR3/3 | ローム少量・浮石微量混入。粘性・しまりなし。湿性ややあり。              |
| 第10層 | 黒褐色土   | 10YR2/2 | ロームブロック(径5cm)混入。アワズナ・浮石少量混入。粘性・湿性・しまりなし。   |
| 第11層 | 黒褐色土   | 10YR2/3 | ローム少量・浮石微量混入。粘性・しまりなし。湿性ややあり。              |
| 第12層 | 暗褐色土   | 10YR3/3 | 八戸火山灰微量、ローム・黒色土(10YR2/1)少量混入。粘性・湿性・しまりなし。  |
| 第13層 | 褐色ローム  | 10YR4/4 | 粘性・しまりなし。湿性ややあり。                           |
| 第14層 | 黄褐色土   | 2.5Y6/4 | 八戸火山灰。粘性・湿性・しまりなし。                         |
| 第15層 | 黒褐色土   | 10YR2/2 | ローム・黒色土少量、浮石微量混入。粘性・しまりなし。湿性ややあり。          |
| 第16層 | 黒色土    | 10YR2/1 | ローム中量、ロームブロック(径5cm)2個混入。粘性・しまりなし。湿性ややあり。   |
| 第17層 | 褐色ローム  | 10YR4/6 | 粘性・湿性ややあり。しまりなし。                           |
| 第18層 | 褐色ローム  | 10YR4/6 | 粘性・湿性・しまりややあり。                             |
| 第19層 | 暗褐色土   | 10YR3/4 | ローム中量、アワズナ・浮石・黒色土微量混入。粘性・しまりなし。湿性ややあり。     |
| 第20層 | 褐色土    | 10YR4/4 | ローム多量、アワズナ・黒色土少量、浮石微量混入。粘性・しまりなし。湿性ややあり。   |
| 第21層 | 黒褐色土   | 10YR2/2 | ローム中量・浮石微量混入。粘性・しまりなし。湿性ややあり。              |
| 第22層 | 黒褐色土   | 10YR2/2 | ローム中量・浮石微量混入。粘性・しまりなし。湿性ややあり。              |
| 第23層 | 黄褐色土   | 2.5Y6/4 | 八戸火山灰。褐色土(10YR4/4)混入。粘性・湿性・しまりなし。          |
| 第24層 | 暗褐色土   | 10YR3/3 | 砂質。アワズナ少量混入。粘性・しまりなし。湿性ややあり。               |
| 第25層 | 黒褐色土   | 10YR2/3 | ローム微量、アワズナ・黒色土少量混入。粘性・しまりなし。湿性ややあり。        |
| 第26層 | 黄褐色土   | 2.5Y6/4 | 八戸火山灰。砂少量、黒褐色土(10YR3/2)混入。粘性なし。湿性・しまりややあり。 |
| 第27層 | 暗褐色土   | 10YR3/4 | 八戸火山灰少量・アワズナ微量混入。粘性・しまりなし。湿性ややあり。          |
| 第28層 | 黒褐色土   | 10YR2/3 | 八戸火山灰微量、アワズナ・黒色土少量混入。粘性・湿性ややあり。しまりなし。      |
| 第29層 | 褐色ローム  | 10YR4/4 | アワズナ微量混入。粘性ややあり。湿性・しまりあり。                  |
| 第30層 | 黒色土    | 10YR2/1 | 八戸火山灰・ローム微量混入。粘性・しまりなし。湿性ややあり。             |
| 第31層 | 暗褐色土   | 10YR3/3 | 砂質。八戸火山灰・ローム・黒色土少量混入。粘性・しまりなし。湿性ややあり。      |
| 第32層 | 黒色土    | 10YR2/1 | 八戸火山灰少量・アワズナ微量混入。粘性なし。湿性・しまりややあり。          |
| 第33層 | 黄褐色ローム | 10YR5/6 | 粘性ややあり。湿性あり。しまりなし。                         |
| 第34層 | 黒褐色土   | 10YR2/2 | 砂質。八戸火山灰中量・ローム微量混入。粘性・しまりなし。湿性ややあり。        |
| 第35層 | 黒褐色土   | 10YR3/2 | 砂質。八戸火山灰・ごろた少量混入。粘性・しまりなし。湿性ややあり。          |

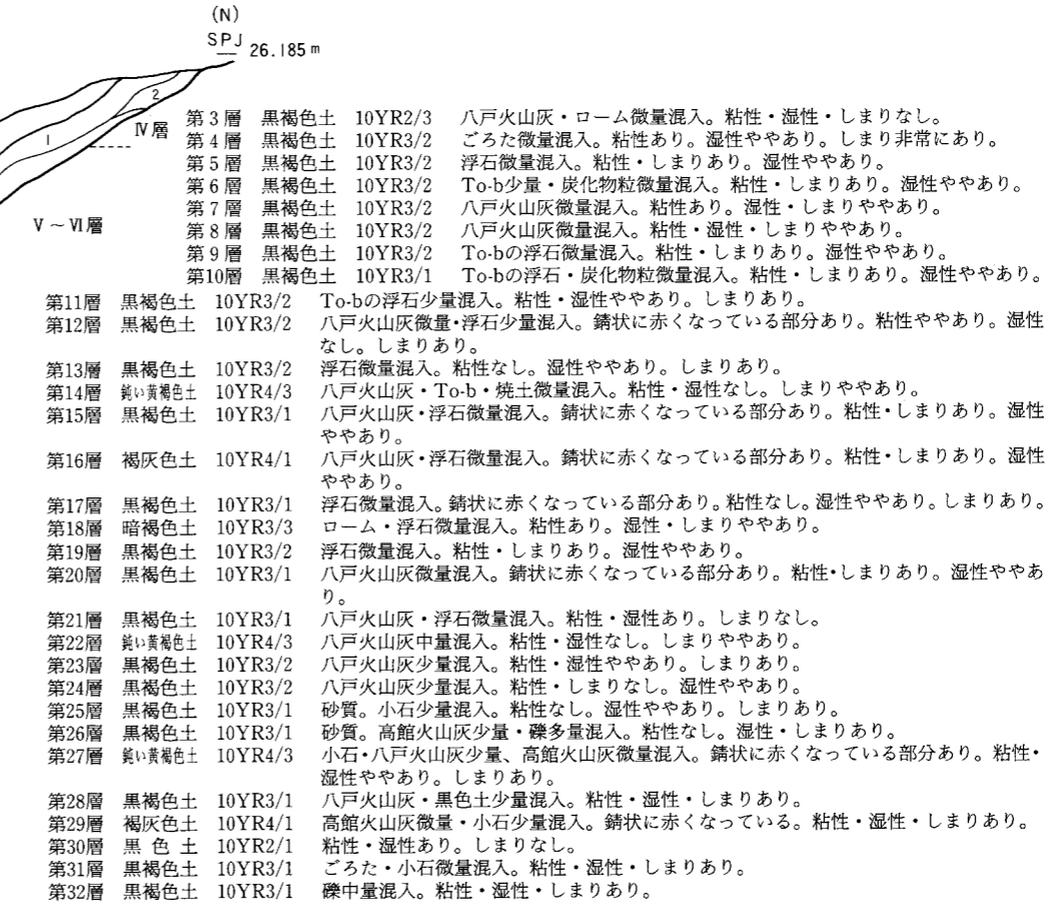


図28 第1・2号濠跡セクション

い。壁は底面と、下半で50～80°、上半で40～50°の角度を有し、急に立ち上がる。

〔堆積土〕自然堆積の様相を呈し、東南端で35層に、第1号濠跡との合流部付近で14層に区分できた。黒褐色～黒色土主体で、中・下位は一般にしまりがいい。底面は砂質で、多少凹凸が見られる。

〔出土遺物〕なし。

〔小結〕覆土から遺物が出土していないため、構築時期ははっきりしないが、濠跡の形状及び第1号濠跡との重複関係から、古代以降に構築された可能性が高い。

### (3) 捨て焼土遺構 (図29)

#### 第1号捨て焼土遺構 (図29)

〔位置〕ZX-37グリッドに位置する。

〔重複〕第1号濠跡と重複し、本遺構の方が新しいとみられる。

〔平面形・規模〕焼土範囲は直径50cm前後の不整な円形を呈し、この中に特に赤褐色の部分が、長軸42cm、短軸18cmの不整な楕円形として見られる。中央で第Ⅱ層上面より6cmの高さを有する。

〔堆積土〕アワズナを中量、焼土を少量含む黒褐色土で、しまりがいい。

〔出土遺物〕なし。

〔小結〕遺物が出土していないため明確でないが、第Ⅱ層 (To-bの浮石混入) 上面にあること及び第1濠跡よりは新しいとみられることから、古代以降に捨てられたものと思われる。

#### 第1号捨て焼土遺構土層注記

第1層 黒褐色土 10YR2/2 アワズナ中量、焼土・攪乱による黒色土少量混入。しまりなし。

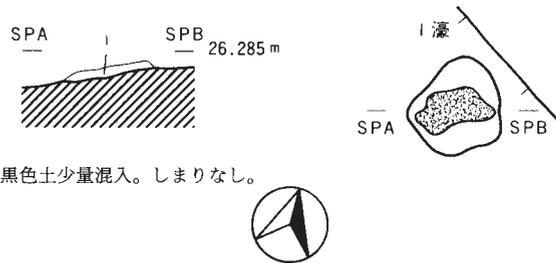


図29 第1号捨て焼土遺構

### (4) 溝跡 (図30～32)

#### 第1号溝跡 (図30)

〔位置〕ZG-44・45グリッドに位置する。

〔重複〕なし。

〔規模〕幅46～63cm、深さ4～7cmで、南北方向に伸びるが、北端は開田により、南端は村道により削平されているため、186cmほどの長さしかない。

〔壁・底面〕壁・底面は第Ⅲ層を掘り込んで構築している。壁の立ち上がりは緩やかで、底面はほぼ平坦である。

〔堆積土〕1層のみ確認した。アワズナ・To-bを少量含む、しまりのある黒色土である。

〔出土遺物〕なし。

〔小結〕遺物が出土していないため明確でないが、切り込み面が第Ⅱ層 (To-bの浮石混入) 中とみられることから、弥生時代以降に構築されたものと思われる。

石焼沢・西張(3)遺跡

### 第1号溝跡土層注記

第1層 黒色土 10YR2/1 アワズナ・To-b少量混入。しまりあり。



ZG-45

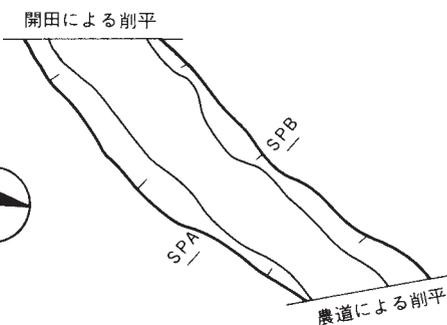


図30 第1号溝跡

### 第2号溝跡 (図31)

[位置] AE-38・39及びAF-38グリッドに位置する。2mほど東には第3号溝跡がある。

[重複] 南東端が第1号溝跡と重複し、堆積土から本遺構の方が古いとみられる。

[規模] 幅20~31cm、深さ6cm前後で、北西-南東方向にほぼ一直線に伸びており、480cmほどの長さを検出した。

[壁・底面] 壁・底面は第IV層を掘り込んで構築している。壁の立ち上がりは緩やかで、底面はほぼ平坦である。

[堆積土] 1層のみ確認した。ごろたを少量混入する、しまりのある黒褐色土である。

[出土遺物] なし。

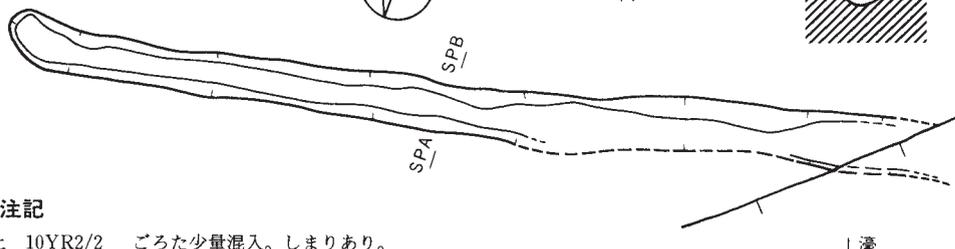
[小結] 遺物が出土していないため明確でないが、切り込みはより上の第II層 (To-bの浮石混入) 中とみられることから、弥生時代以降に構築されたものと思われる。



AF-39



AE-39



### 第2号溝跡土層注記

第1層 黒褐色土 10YR2/2 ごろた少量混入。しまりあり。

図31 第2号溝跡

### 第3号溝跡 (図32)

[位置] AF-32・39及びAG-38グリッドに位置する。2mほど西には第2号溝跡がある。

[重複] 南東端が第1号溝跡と重複し、堆積土から本遺構の方が古いとみられる。

[規模] 幅61~89cm、深さ7~11cmで、北西-南東方向に伸びており、北西側に行くほど幅が広がる。北西端は確認不能、南東端は第1号溝跡に続き、長さは370cmある。

[壁・底面] 壁・底面は第IV層を掘り込んで構築している。壁の立ち上がりは緩やかで、底面には凹凸が多い。

[堆積土] 自然堆積の様相を呈し、3層に区分できた。黒色~黒褐色土で、ローム粒・ごろたを微量含む。全層とも粘性はなく、しまっている。

[出土遺物] なし。

[小結] 遺物が出土していないため明確でないが、切り込みはより上の第II層 (To-bの浮石混入) 中とみられることから、弥生時代以降に構築されたものと思われる。

第4号溝跡 (図32)

[位置] ZH・Z I・Z J-43、Z J・Z K-42及びZ L-41・42グリッドに位置する。

[重複] Z J-42・43グリッドで第14号土坑と重複し、本遺構の方が新しい。

[規模] 幅36~58cm、深さ20cm前後で、北西-南東方向に伸びており、南西側に若干弓形に反る。北西端は確認不能、南西端は調査区域外となり、長さは16.2mと4条ある溝の中では最も長い。

[壁・底面] 壁・底面は第Ⅳ・Ⅴ層を掘り込んで構築している。壁の立ち上がりは緩やかで、底面には凹凸が見られる。

[堆積土] 1層のみ確認した。ローム粒を少量混入する、しまり気味の黒色土である。

[出土遺物] なし。

[小結] 遺物が出土していないため明確でないが、重複する第16号土坑と同様、第Ⅱ層 (To-bの浮石混入) 中に落ち込みを確認していることから、弥生時代以降に構築されたものと思われる。

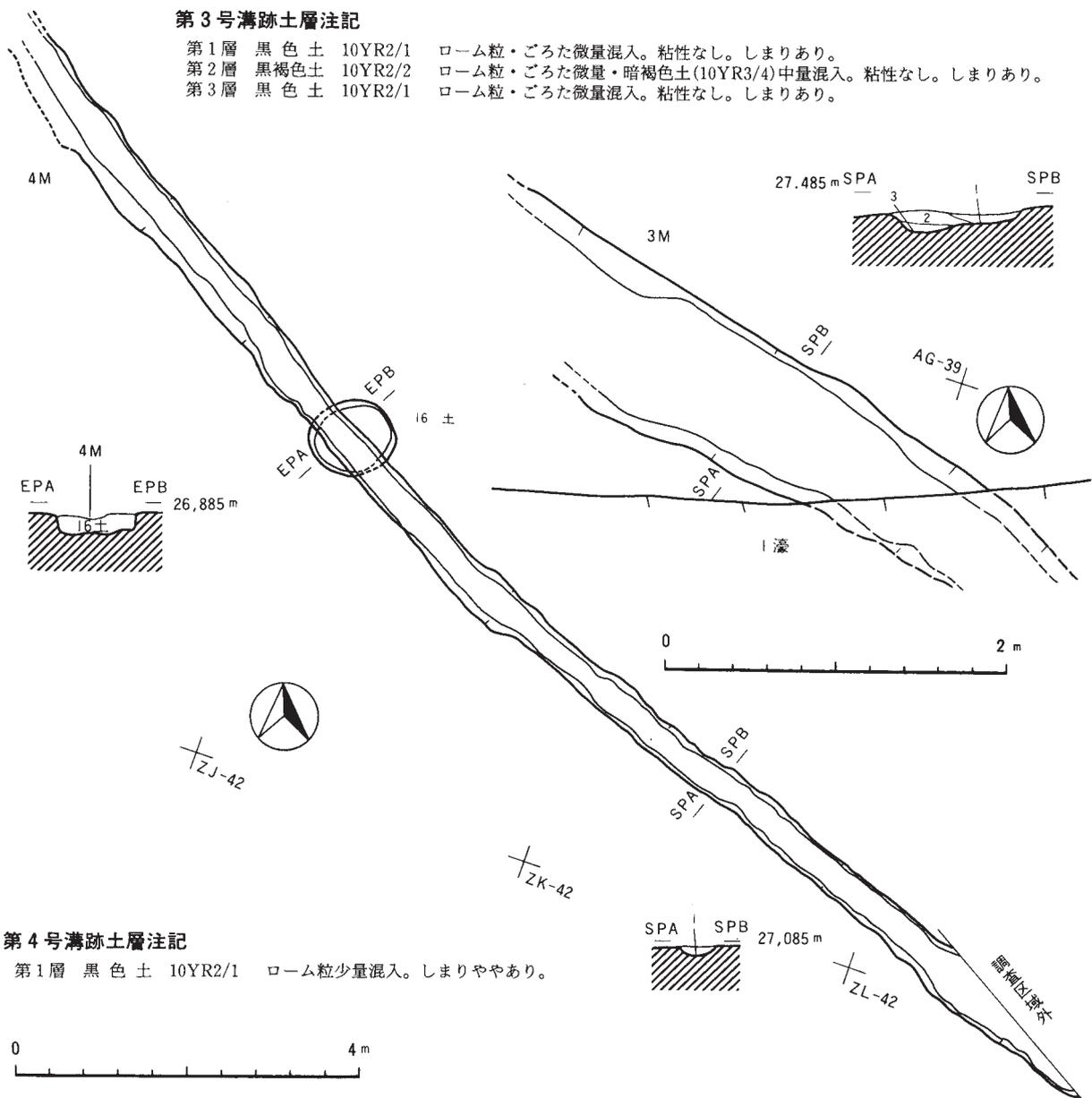


図32 第3・4号溝跡

## 第4節 遺構外出土遺物

### (1) 縄文土器 (図33～39)

西張(3)遺跡の遺構外から出土した縄文土器片は全部で約1340点である。なお、本遺跡に占める面積の大きな濠跡から出土した縄文土器片は全部で95点で、第2・3節にあるように、このうち14点を掲載した。遺構外から出土した縄文土器片はトロ函(横36cm×縦58.5cm×深さ16.5cm)で4箱である。このうち報告書に収録したのは87点で、出土総数の6%強にすぎない。完形品及び器形の把握し易い口縁部片・底部片は優先的に実測・掲載し、小さな胴部片や拓本の採れないような外面摩耗の激しいものは実測から外した。器形の全体像を把握できる完形品は1点もなく、略完形品でも2点しかない。

図33は出土土器分布を示すが、報告書に収録しない濠跡から出土したものも含めている。この図を見ると、調査区域北西端から多く出土していることがわかる。ZHライン以西からは750点近く数えているが、ZG-45グリッドについては、出土総数130点余りは全て盛土からである。最多出土グリッドはZE-43で、第II層若しくは第II・III層から200片弱の土器を数えている。このほかは第12号土坑北西のZI-41グリッド、第10号土坑東のZM-40グリッド及び第15号土坑北東のZQ-39グリッドの3グリッドがやや目立つ程度である。なお、早期の土器片は、粗掘りを行えた調査区域西側のZJ～ZNライン、同中央のZV-38グリッド及び同東側のZY～AHライン(北寄り)の第IV・V層に45点余り数えている。

土器は時期及び文様により、大まかにIV群に分けた。以下にそれぞれの土器について、その特徴を記述する。なお、分類には遺構内土器も大方含めているが、図等は遺構の方に掲載している。

#### 第I群土器 (図34-1～5)

縄文時代早期の土器で5点ある。なお、第1号濠跡覆土からは2点出土している。

##### 1類 (図34-1)

沈線文を主体とした土器で、胴部の文様は、細い先の尖った棒状工具により、沈線文が方形に6～7重施文されている。隣接する西張(3)遺跡から同じものが出土している。なお、第1号濠跡覆土から1点出土している。地文はRL縄文が横位に、口縁部には5条の平行沈線文が施文され、胎土は不明瞭な植物繊維で構成される。隣接する西張(3)遺跡でも酷似する土器を報告している。

##### 2類 (図34-2～4)

白浜・小舟渡平式に比定される、底部から直線的に開く尖底深鉢形土器とみられる。口縁部は平縁で、口唇部にヘラまたは棒状工具による刻み目を有する。

##### 3類 (図34-5)

根井沼・寺の沢式に比定され、貝殻条痕文を横に施文した後、貝殻腹縁文を縦に施文している。なお、第1号濠跡覆土から1点出土しており、こちらは横に貝殻腹縁文が施文されている。

#### 第II群土器

縄文時代前期の土器で、第1号濠跡底面から2点(同一個体か)出土している。内外面とも暗灰色を呈し、胎土は不明瞭な植物繊維で構成される。

#### 第III群土器 (図34-6～図39-77)

縄文時代後期の土器で、72点出土しており、遺構外掲載縄文土器の実に85%を占める。なお、遺構内からは11点出土している。

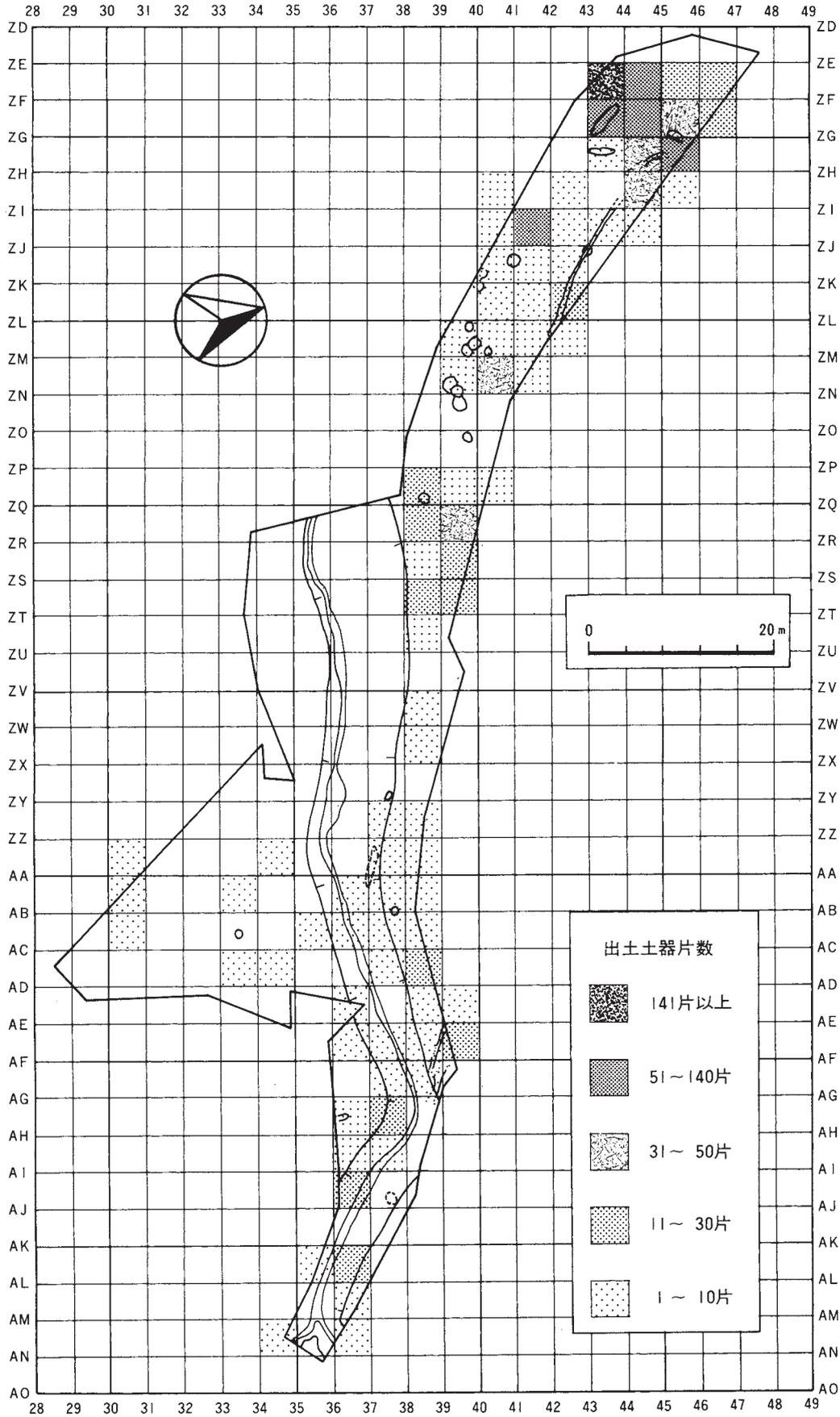


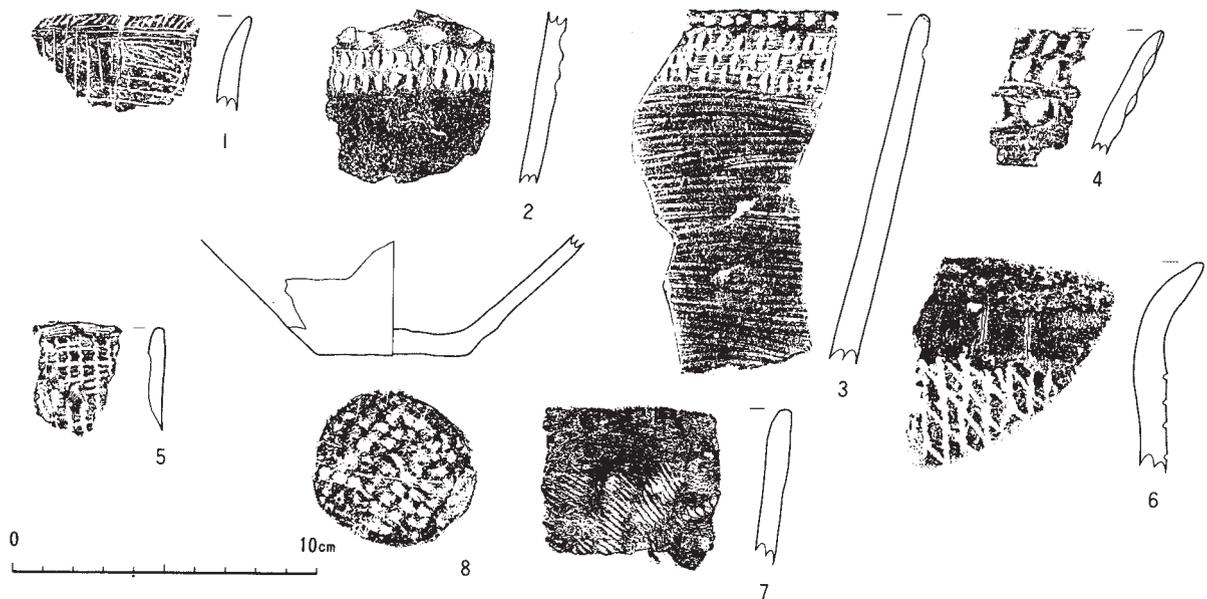
図33 出土土器分布図

1類 (図34-6～図36-33)

縄文時代後期に比定される土器で、28点の出土である。このうち25点は深鉢である。No.7・10、No.11・13、No.17・20～23・28及びNo.25・27の4組は組内での同一個体である。No.17・20～23・28は平縁の深鉢で、縦位に概ね直線の条痕が入っており、1単位10条前後の櫛歯状施文具が使われている。No.15・16も同一個体とみられ、小波状口縁を有する小型の深鉢である。内面は黒褐色を呈し、比較的丁寧に磨かれている。外面には縦位に条痕が入るが、先のような単位は認められない。ほかに内面にミガキ調整が施されているのはNo.31の深鉢だけで、器面にはR燃糸文が縦方向に施文されている。器厚は6mm前後と比較的薄手で、外面の施文凹部には炭化物の付着が明瞭に認められる。条痕はNo.29の深鉢にも見られ、縦・横・斜め方向に単位を持つことなく疎らに走っている。1類の9割は、胎土に砂粒を混入し、まれに浮石も入ったりする。なお、遺構内からは3点出土している。

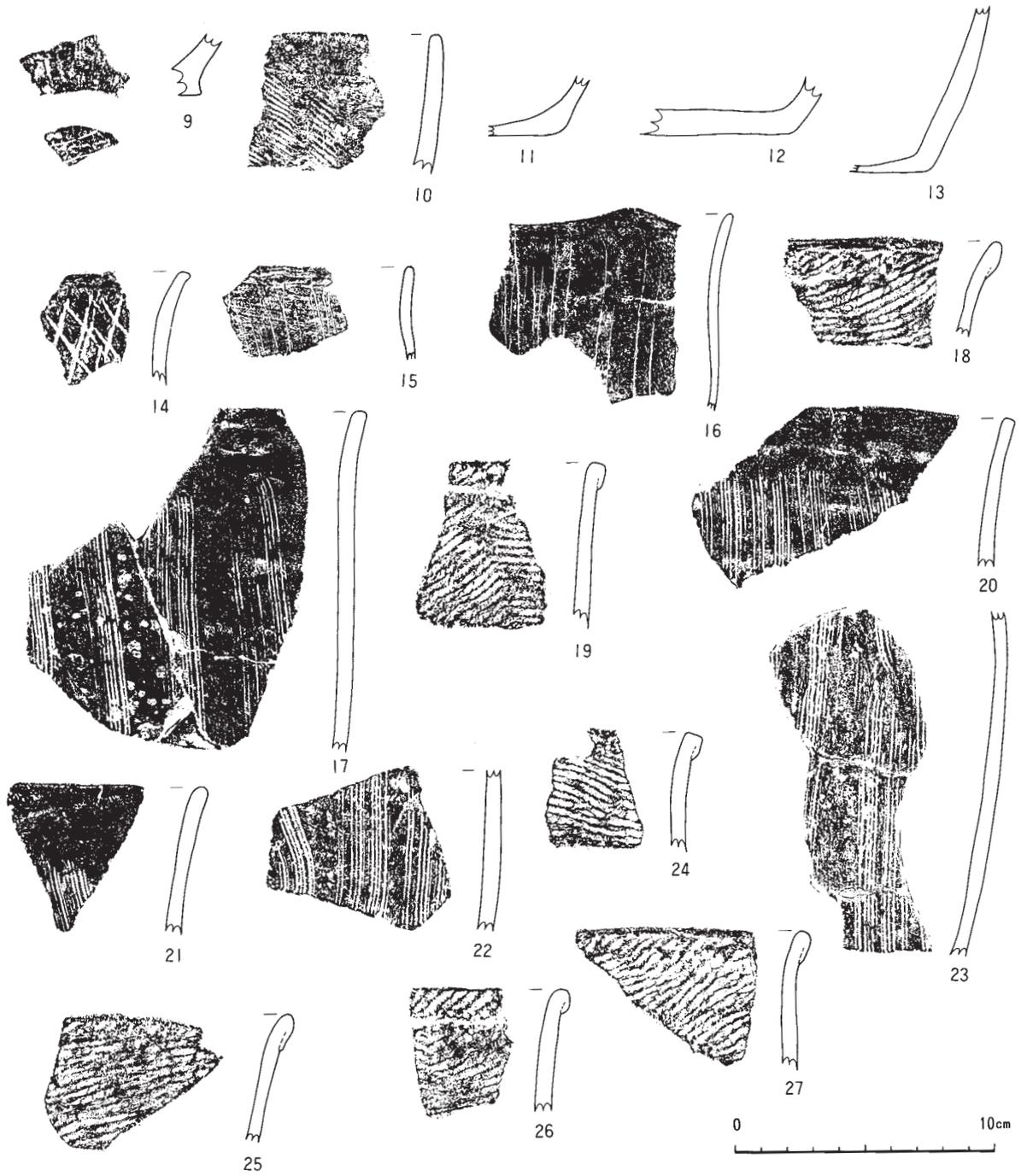
2類 (図36-34～図39-77)

縄文時代後期十腰内I式に比定される土器で、44点の出土である。No.37・77、No.49・50・52、No.53・55・56、No.61・62、No.63～65及びNo.69・71・72の6組は組内での同一個体である。No.49・50・52は小波状口縁を有する深鉢で、口唇部には深さ3～5mmの刻み目、口縁から胴部にかけては、2～3条の深く引かれた沈線の間刻みが斜めに施されており、全体的に力強さを感じさせる。No.63～65は比較的大型の深鉢形土器で、胎土は植物繊維の混入を臭わすほど細かい。No.37・77も同様のことが言える。No.53・55・56の深鉢胴部片は十腰内I式の典型で、沈線でゆったりとした曲線を引き、沈線間の結合は見られない。これに対して、小波状口縁を有するNo.69・71・72の深鉢では、3本の沈線でゆったりとした曲線を引きながらも、沈線間の結合が見られる。No.41は器厚4mm弱と薄手の、口縁の外反する



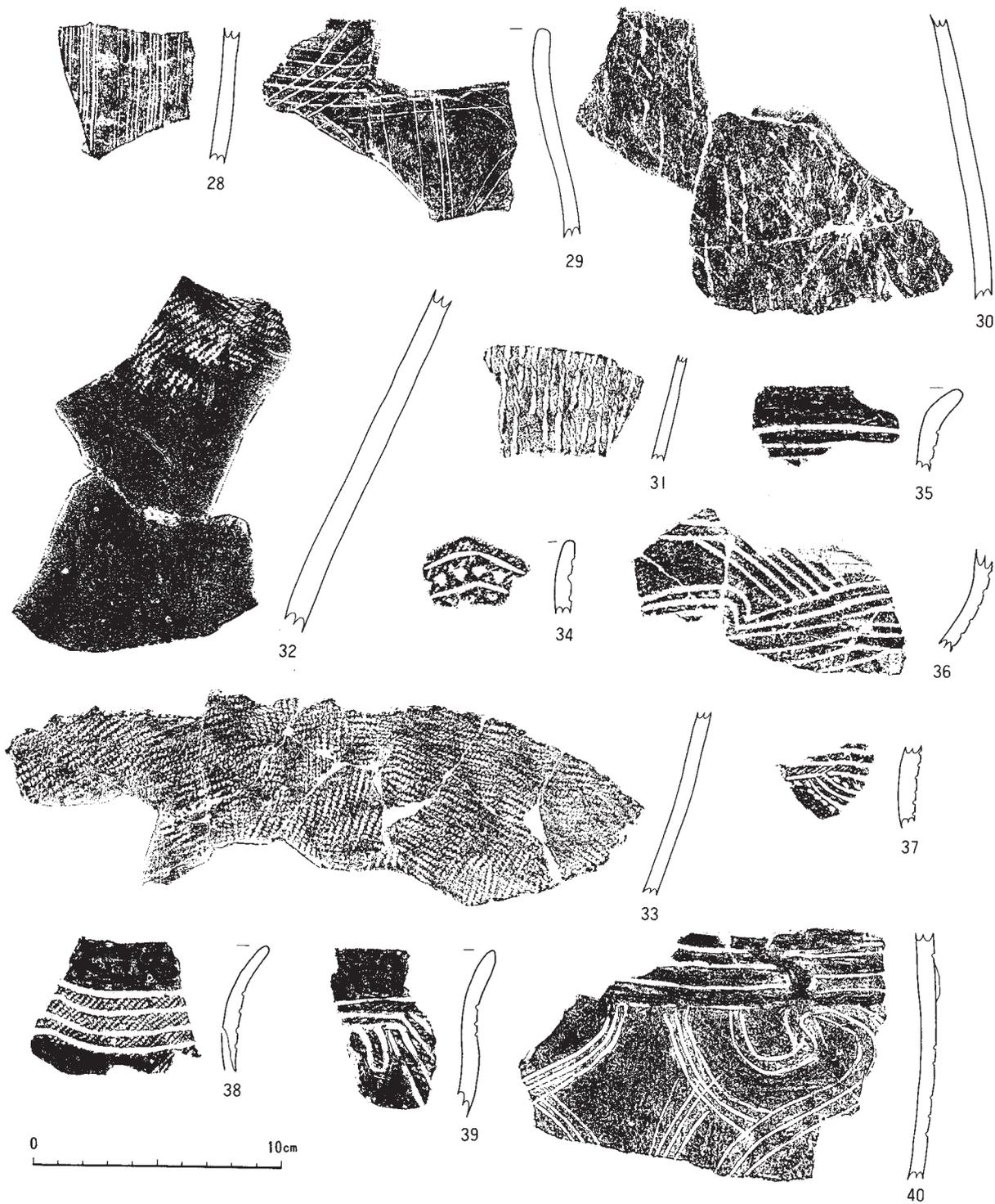
図番号	出土グリッド	層位	器形	部位	施文文様	内面	胎土	分類	備考	整理番号
1	(表採)		ニシアリ器	口縁部	口唇部刻み目、沈線文	ナデ	砂粒混入	I-1	外面一部黒色	110
2	ZV-38	IV	深鉢	胴部	刺突文、爪形状刺突文	ナデ	砂粒混入	I-2	内面褐灰色	97
3	ZY-37	V	深鉢	胴部～口縁部	貝殻条痕文、爪形状刺突文、口唇部刻み目	ナデ	砂粒混入	I-2	外面炭化物付着	98
4	ZZ-37	III	深鉢	口縁部	刻み目、貝殻条痕文、爪形状刺突文	ナデ	浮石・砂粒混入	I-2		103
5	ZY-38	V		口縁部	貝殻条痕文、貝殻腹縁文			I-3		100
6	ZE-44	II	深鉢	口縁部	平縁、網目状燃糸文	ナデ	砂粒・細礫混入	III-1	内面黒褐色	26
7	ZE-44	II	深鉢	口縁部	平縁、L斜縄文(縦回転)	ナデ	砂粒混入	III-1	無節縄文、No.10との同一個体	29
8	ZE-44	II	深鉢	底部～胴部	底部網代圧痕、胴部無文	ナデ		III-1		30

図34 遺構外出土遺物(1)



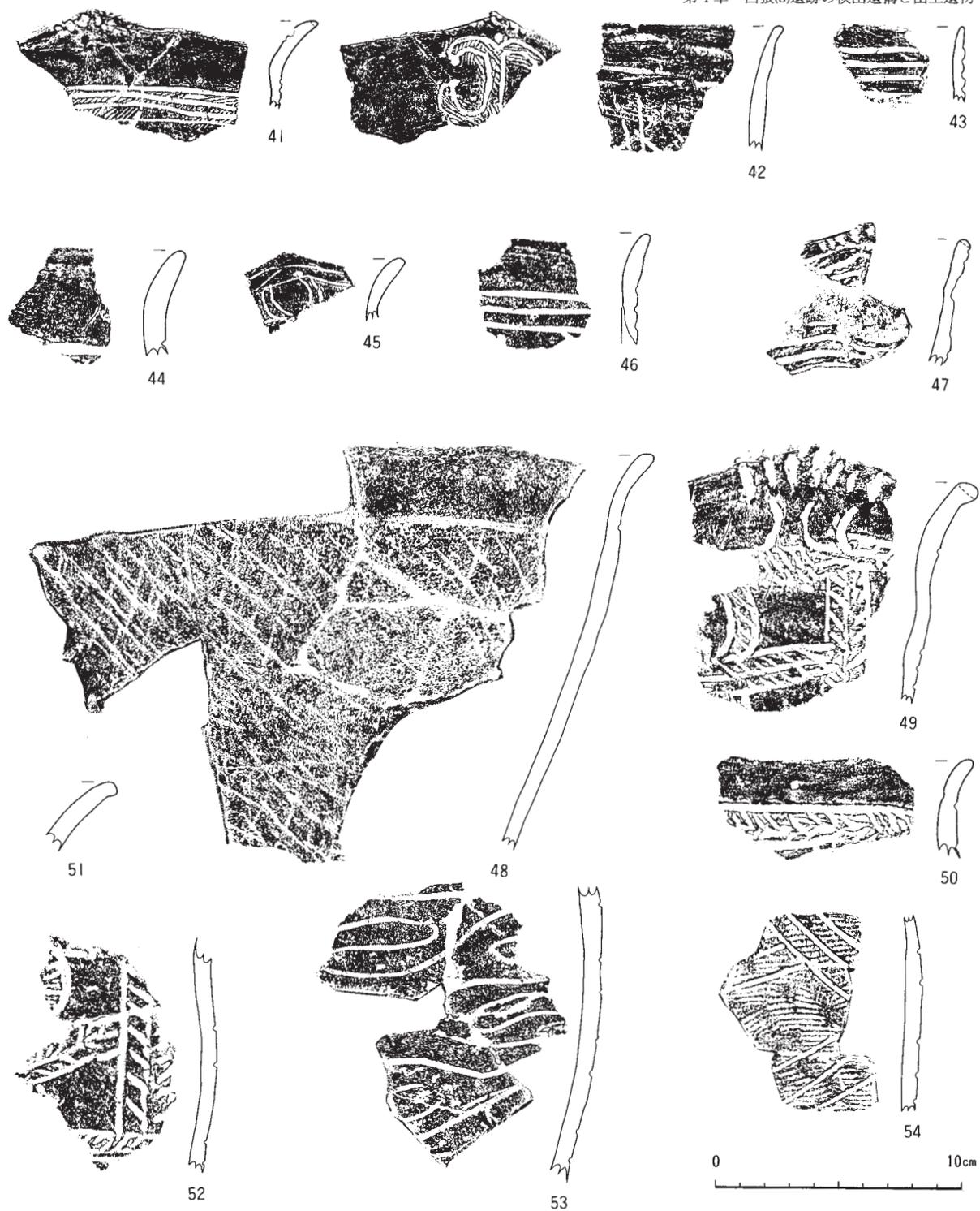
図番号	出土グリッド	層位	器形	部位	施文文様	内面	胎土	分類	備考	整理番号
9	Z F-43	II	深鉢	胴部~底部	胴部無文、底部木葉状痕	ナデ	砂粒・細礫混入	III-1		33
10	Z F-44	II	深鉢	口縁部	平縁、L斜縄文(縦回転)	ナデ	砂粒混入	III-1	無節縄文、内面黒褐色、No. 7との同一個体	39
11	Z K-40	II・III	深鉢	胴部~底部	無文	ナデ	砂粒・浮石混入	III-1	No. 13との同一個体	60
12	Z K-40	II・III	深鉢	底部~胴部	無文	ナデ	砂粒混入	III-1		62
13	Z K-40	II・III	深鉢	胴部~底部	無文	ナデ	砂粒・浮石混入	III-1	No. 11との同一個体	63
14	Z K-42	II	深鉢	口縁部	平縁、網目状燃糸文	ナデ	砂粒混入	III-1		91
15	Z M-39	II・III	深鉢	口縁部	縦位条痕	ミガキ		III-1	内面黒褐色、No. 16との同一個体か?	47
16	Z M-40	II	深鉢	口縁部~胴部	小波状口縁、縦位条痕	ミガキ		III-1	外面炭化物付着、内面黒褐色、No. 15との同一個体か?	68
17	Z Q・Z R-39	II	深鉢	胴部~口縁部	平縁、縦位条痕	ナデ	砂粒混入	III-1	内面斜縄、No. 20~23・28との同一個体	75
18	Z Q-38	II	深鉢	口縁部~胴部	平縁、折り返し口縁、L斜縄文(横回転)	ナデ	砂粒混入	III-1	無節縄文、外面黒褐色	72
19	Z Q-39	II	深鉢	胴部~口縁部	折り返し口縁、L縄文	ナデ	砂粒混入	III-1	無節縄文	76
20	Z Q-39	II	深鉢	口縁部	平縁、縦位条痕	ナデ	砂粒混入	III-1	外面黒褐色、No. 17・21~23・28との同一個体	87
21	Z Q-39	II	深鉢	口縁部	平縁、縦位条痕	ナデ	砂粒混入	III-1	内面褐色、No. 17・20・22・23・28との同一個体	88
22	Z Q-39	II	深鉢	胴部	縦位条痕	ナデ	砂粒混入	III-1	No. 17・20・21・23・28との同一個体	89
23	Z Q-39・Z R-38	II	深鉢	胴部	縦位条痕	ナデ	砂粒混入	III-1	No. 17・20~22・28との同一個体	90
24	Z R-39	III	深鉢	口縁部	折り返し口縁、L斜縄文(縦回転)	ナデ	砂粒混入	III-1	無節縄文、外面炭化物付着、内面一部刻難	82
25	Z R-39	II	深鉢	口縁部	平縁、折り返し口縁、L斜縄文(横回転)	ナデ	砂粒混入	III-1	無節縄文、No. 27との同一個体	83
26	Z R-39	II	深鉢	口縁部	平縁、折り返し口縁、L斜縄文	ナデ	砂粒混入	III-1	無節縄文、外面炭化物付着	84
27	Z R-39	II	深鉢	口縁部	平縁、折り返し口縁、L斜縄文(横回転)	ナデ	砂粒・浮石混入	III-1	無節縄文、口唇部黒褐色、No. 25との同一個体	85

図35 遺構外出土遺物(2)



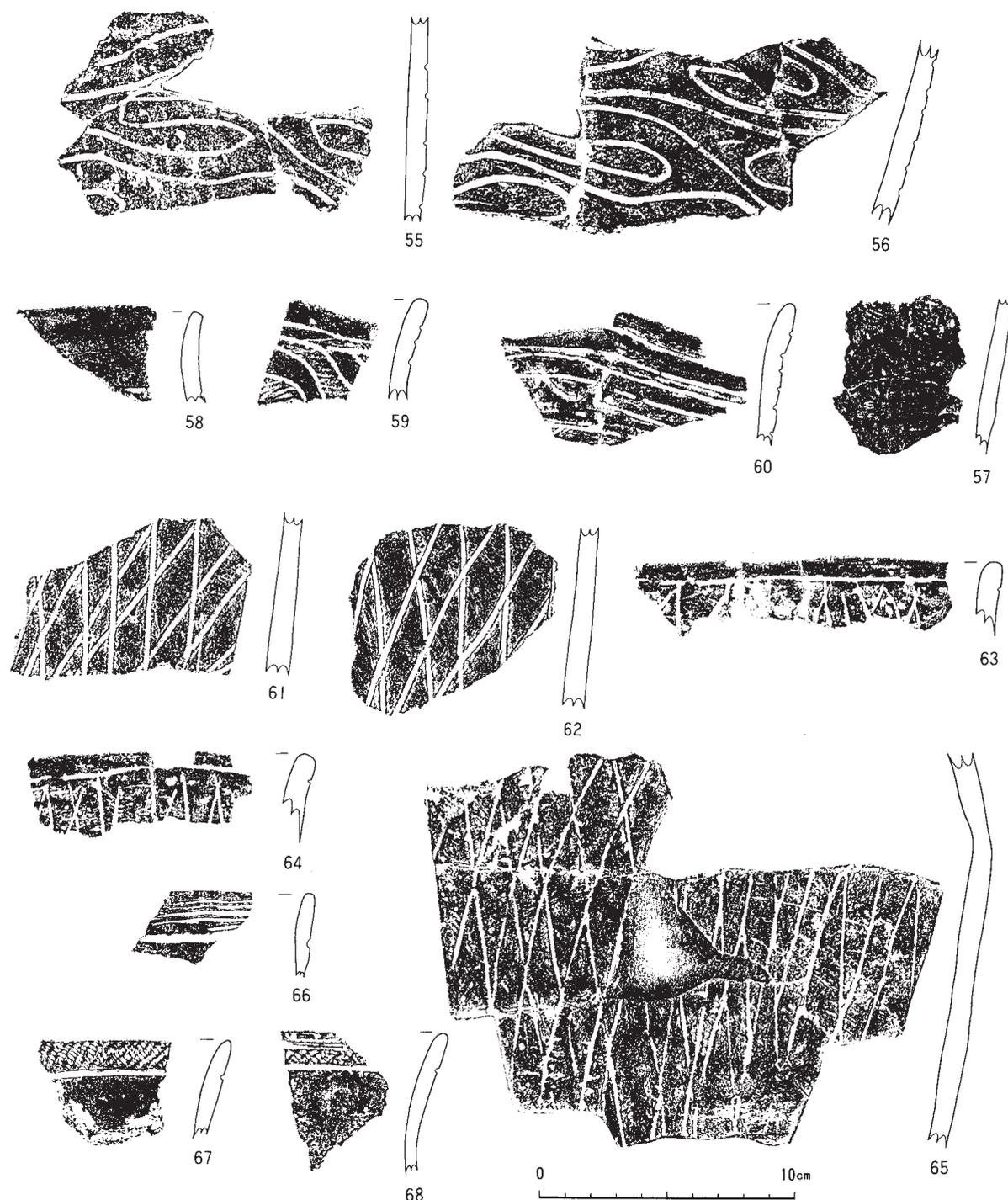
図番号	出土グリッド	層位	器形	部位	施文 文様	内面	胎土	分類	備考	整理番号
28	Z R-39	II	深鉢	胴部	縦位条痕		砂粒混入	III-1	外面灰黄褐色、No.17・20~23との同一個体	86
29	Z T-38	II・III	深鉢	胴部~口縁部	条痕		砂粒混入	III-1	外面黒褐色	93
30	Z T-38	II・III	深鉢	胴部	網目状燃糸文	ナデ	砂粒混入	III-1	外面炭化物付着、内面一部黒色	95
31	Z T-38	II・III	深鉢	胴部	R燃糸文	ミガキ	砂粒混入	III-1	内外面炭化物付着	96
32	A C-38	III	深鉢	胴部	L R斜縄文(縦・横回転)	ナデ	砂粒・浮石混入	III-1		107
33	A E-39	II	深鉢	胴部	L R縄文	ナデ	砂粒混入	III-1	内面黒褐色、外面一部黒色	109
34	Z E-43	II		口縁部	小波状口縁、充填縄文、沈線文、刺突文			III-2		18
35	Z E-43	II	深鉢	口縁部	平縁、沈線文	ナデ	砂粒・浮石混入	III-2	外面黒褐色	20
36	Z E-43	II	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	砂粒混入	III-2	外面黒褐色	24
37	Z E-44	II		胴部	沈線文、充填縄文、刺突文	ナデ	砂粒混入	III-2	No.77との同一個体か?	31
38	Z E-44	II	深鉢	口縁部	小波状口縁、沈線文、磨消縄文	ナデ	砂粒混入	III-2	外面黒褐色	25
39	Z E-46	II	深鉢	胴部~口縁部	平縁、沈線文	ナデ	砂粒混入	III-2	外面炭化物付着、内面黒褐色	32
40	Z F-43	II	深鉢	胴部	隆帯貼り付け、沈線文	ミガキ	砂粒混入	III-2	外面炭化物付着	35

図36 遺構外出土遺物(3)



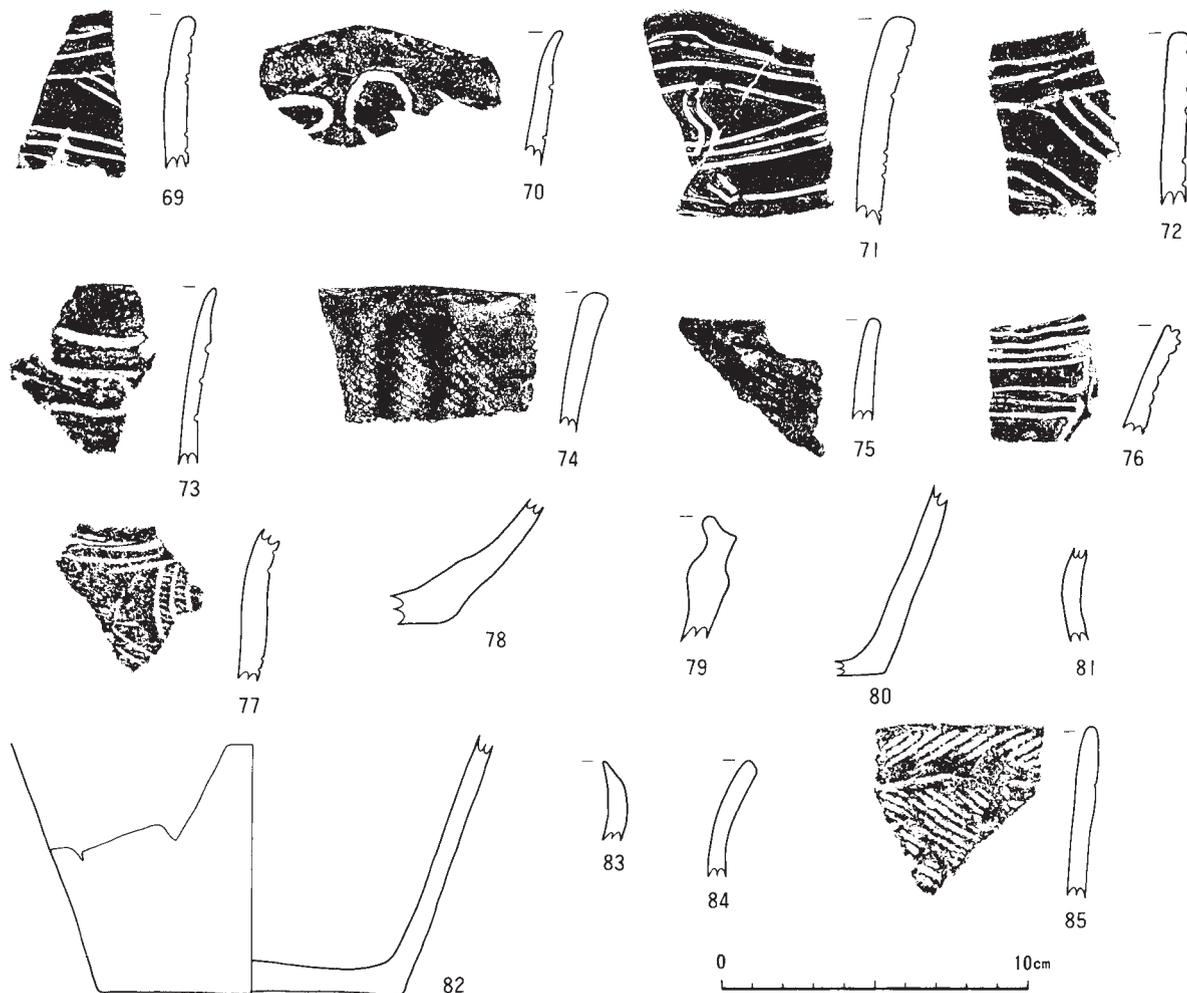
図番号	出土グリッド	層位	器形	部位	施文文様	内面	胎土	分類	備考	整理番号
41	Z F-44	II	深鉢	口縁部	小波状口縁、口唇部刻み目、磨消縄文、沈線文			III-2	内外面黒色、内面…刺突文、沈線文、磨消縄文	37
42	Z F-44	II	深鉢	口縁部	平縁、網目状燃糸文		砂粒混入	III-2		38
43	Z F-44	II	深鉢	口縁部	沈線文		砂粒混入	III-2		40
44	Z F-46	I	深鉢	口縁部	沈線文		ナデ 砂粒混入	III-2		42
45	Z G-45	盛土	深鉢	口縁部	小波状口縁、沈線文		ナデ 砂粒混入	III-2	外面炭化物付着	43
46	Z G-45	盛土	深鉢	口縁部	平縁、沈線文		ナデ 砂粒混入	III-2		45
47	Z G-45	盛土	深鉢	口縁部	小波状口縁、沈線文、口唇部刻み目		ナデ	III-2	外面剝離	46
48	Z I-41	II・III	深鉢	口縁部~胴部	平縁、沈線文、網目状燃糸文		ナデ 砂粒混入	III-2	外面磨耗	48
49	Z I-41	II・III	深鉢	口縁部~胴部	小波状口縁、口唇部刻み目、沈線文、沈線間刻み		ナデ 砂粒混入	III-2	内外面黒褐色、No.49・52との同一個体	49
50	Z I-41	II・III	深鉢	口縁部	沈線文、沈線間刻み		ナデ 砂粒混入	III-2	No.49・52との同一個体	50
51	Z I-41	II・III	深鉢	口縁部	平縁、無文		ナデ 砂粒・細砂混入	III-2		51
52	Z I-41	II・III	深鉢	胴部	沈線文、沈線間刻み		ナデ 砂粒混入	III-2	外面炭化物付着、No.49・50との同一個体	52
53	Z I-41	II・III	深鉢	胴部	沈線文		ナデ 砂粒混入	III-2	外面炭化物付着、No.55・56との同一個体	53
54	Z I-41	II・III	深鉢	胴部	充填縄文、沈線文		ナデ 砂粒・浮石混入	III-2	外面炭化物付着、内面黒色	54

図37 遺構外出土遺物 (4)



図番号	出土グリッド	層位	器形	部位	施文文様	内面	胎土	分類	備考	整理番号
55	Z I-41	II・III	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	砂粒混入	III-2		55
56	Z I-41	II・III	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	砂粒混入	III-2	内外面黒褐色、No.53・55との同一個体	56
57	Z I-41	II・III	深鉢	胴部	磨消縄文	ナデ	砂粒混入	III-2		57
58	Z J-41	II		口縁部	平縁、沈線文	ナデ	砂粒・浮石混入	III-2		58
59	Z J-42	III	深鉢	口縁部	小波状口縁、沈線文、充填縄文	ナデ	砂粒混入	III-2		59
60	Z K-40	II・III	深鉢	口縁部	小波状口縁、沈線文、隆帯		砂粒混入	III-2		60
61	Z K-40	II・III	深鉢	胴部	格子目状沈線文	ミガキ	砂粒混入	III-2	No.62との同一個体	61
62	Z L-40	II	深鉢	胴部	格子目状沈線文	ミガキ	砂粒・浮石混入	III-2	外面半分黒色、No.61との同一個体	62
63	Z M-40	II	深鉢	口縁部	平縁、格子目状沈線文	ナデ	浮石混入	III-2	No.64・65との同一個体	63
64	Z M-40	II	深鉢	口縁部	平縁、格子目状沈線文	ナデ	浮石混入	III-2	No.63・65との同一個体	64
65	Z M-40	II	深鉢	胴部	格子目状沈線文	ナデ	砂粒・浮石混入	III-2	No.63・64との同一個体	65
66	Z M-41	III上面		口縁部	平縁、沈線文		砂粒・細礫混入	III-2	外面黒褐色	66
67	Z Q-38	II・III	深鉢	口縁部	平縁、充填縄文、沈線文	ナデ		III-2	外面一部黒褐色	67
68	Z Q-38	II	深鉢	口縁部	充填縄文、沈線文	ナデ	砂粒混入	III-2		68

図38 遺構外出土遺物 (5)



図番号	出土グリッド	層位	器形	部位	施文文様	内面	胎土	分類	備考	整理番号
69	Z Q-39	II	深鉢	口縁部	小波状口縁、沈線文	ナデ	砂粒混入	III-2	内面黒褐色、No.71・72との同一個体	77
70	Z Q-39	II	深鉢	口縁部	小波状口縁、沈線文	ナデ	砂粒混入	III-2		78
71	Z Q-39	II	深鉢	口縁部	小波状口縁、沈線文	ナデ	砂粒混入	III-2	内面褐灰色、No.69・72との同一個体	79
72	Z Q-39	II	深鉢	口縁部	沈線文	ナデ	砂粒混入	III-2	No.69・71との同一個体	80
73	Z Q-39	II	深鉢	口縁部	沈線文		砂粒混入	III-2		81
74	Z S-38	III	深鉢	口縁部	平縁、L R斜縄文(縦回転)	ミガキ	砂粒・淨石混入	III-2	内外面黒褐色	92
75	Z T-38	II	深鉢	口縁部	平縁、L R斜縄文(縦回転)	ミガキ	砂粒混入	III-2	外面炭化物付着、内面一部黒褐色	94
76	Z Z-30	II	深鉢	口縁部	小波状口縁、口唇部沈線文、隆帯、沈線文		砂粒混入	III-2	内外面一部黒褐色	101
77	Z Z-37	II	深鉢	口縁部	沈線文、充填縄文		砂粒混入	III-2	No.37との同一個体か?	102
78	Z E・Z F-43	II	深鉢	胴部~底部	無文	ナデ	砂粒・淨石混入	IV		22
79	Z E-43	II	深鉢	口縁部	無文	ナデ	砂粒・淨石混入	IV	外面黒褐色	21
80	Z E-43	II	深鉢	胴部~底部	無文	ナデ	砂粒混入	IV		23
81	Z F-43	II・III	深鉢	口縁部	無文	ナデ	砂粒混入	IV		34
82	Z F-44	II	深鉢	底部~胴部	無文	ナデ	砂粒混入	IV		36
83	Z F-44	II	ミナアツ土器	胴部~口縁部	無文	ナデ	砂粒混入	IV		41
84	Z G-45	盛土	深鉢	口縁部	平縁、無文	ナデ	砂粒混入	IV	内外面灰褐色	44
85	Z K-42	III	深鉢	口縁部~胴部	平縁、L斜縄文(横、縦回転)	ナデ	砂粒混入	IV	無節縄文	65

図39 遺構外出土遺物 (6)

深鉢形土器で、内外面とも黒色を呈している。最大の特徴は、内面口縁に人体状の「λ」字形磨消縄文が施文されることであろう。その交差頂部には径3mm弱の刺突文が見られ、人頭を表しているものとみられる。なお、2類は遺構内からは8点出土している。

#### 第IV群土器 (図39-78~85)

縄文時代の土器であるが、時期決定の難しいもので8点ある。無文土器が7点、口縁部に無節L縄文が横位・縦位に施文される土器1点である。これらは、同グリッド若しくは隣接グリッドの同層位より出土している土器から十腰内I式併行とみられる。なお、第1号濠跡覆土からも1点出土している。

(2) 石器 (図40~42)

出土した石器は全部で19点で、このうち剥片石器が13点、礫石器が6点である。これらは全て報告書に収録した。なお、自然石はトロ函 (横36cm×縦58.5cm×深さ16.5cm) で3箱出土している。

出土頻度は図示していないが、比較的集中して出土するのは、調査区域北西端のZE~ZIラインと43~47ラインで囲まれる正方形区域で、ここでは10点と全体の半分以上を超えている。この中のほぼ中心ZF-44グリッド第II層から4点(最多)出土している。この正方形区域のほかは1点を超えることなしに散在する。第1号濠跡以南からはAF-37グリッド第II層からの1点のみである。なお、第1号配石遺構の位置するAA-37グリッド第II層からは安山岩質の石皿が出土した。

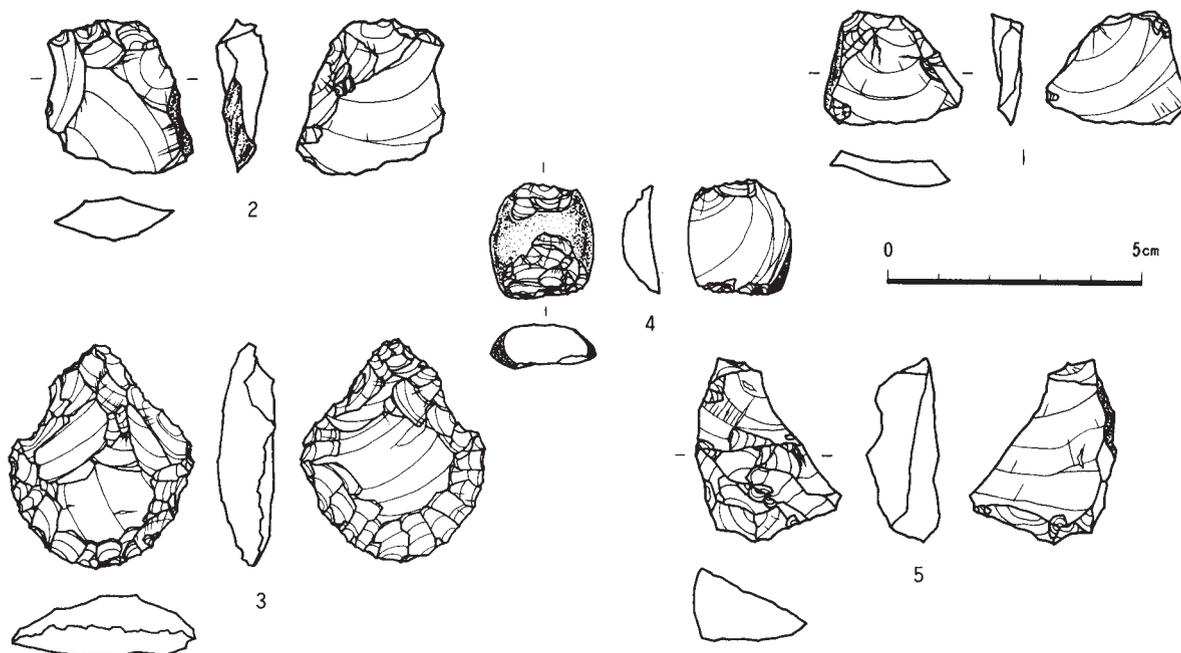
石器は、石鏃・石匙・石筥・クサビ形石器・不定形石器(フレイク類)・敲石・石錘・磨製石斧・打製石斧・石皿の10種類である。以下にそれぞれの石器について概略を記述する。

【石鏃】No.6・7・10の3点の出土で、有茎鏃2点(No.6・10)、無茎鏃1点(No.7)である。No.10は共伴する土器から後期のものである。

【石匙】No.11・12の2点の出土で、どちらも長さ5cm余りの縦型石匙である。No.11は、隣接グリッド同層位より出土する土器をもとにすると、早期のものと考えられる。No.12は、近くのグリッドの同層位より出土する土器から、後期のものと考えられる。

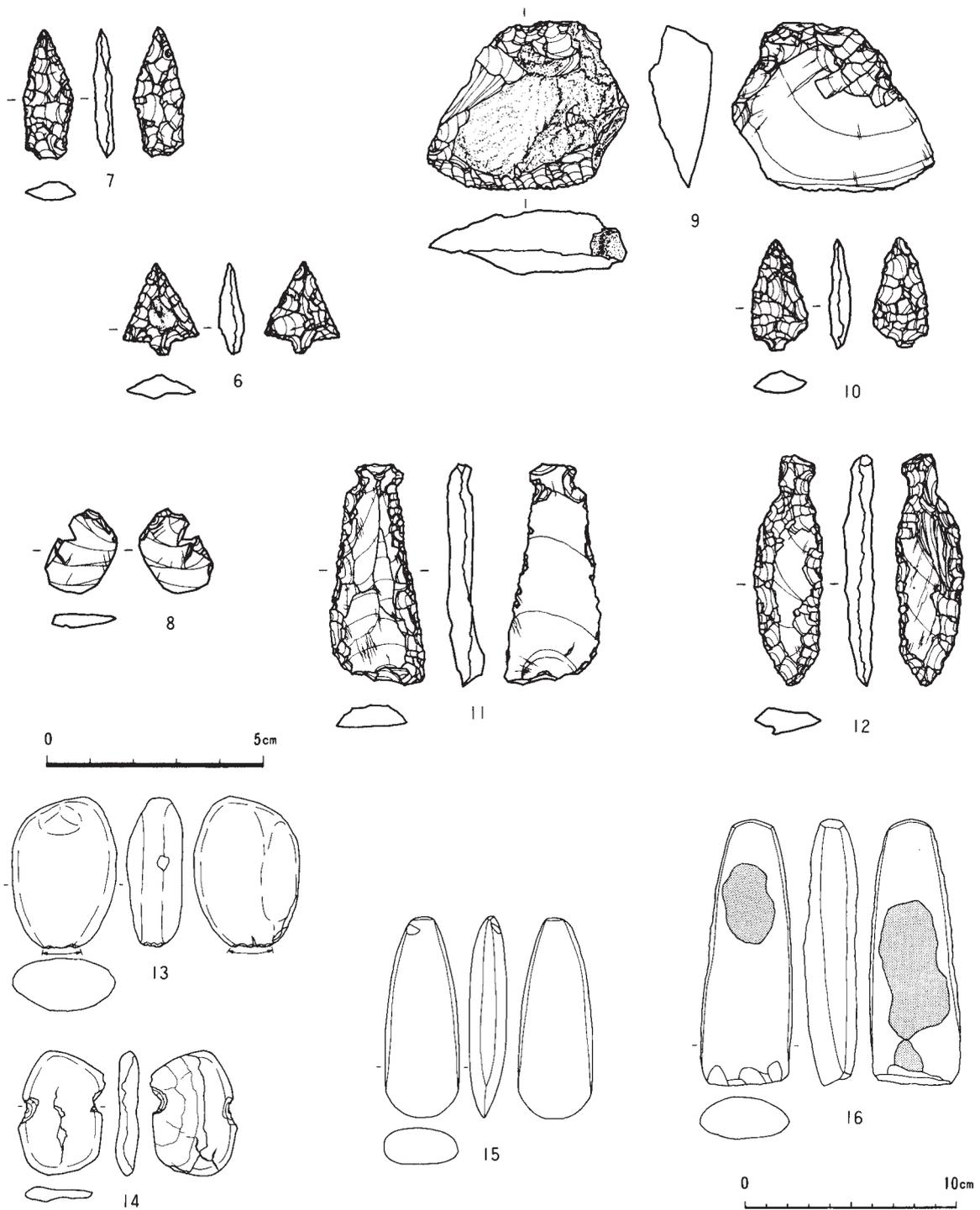
【石筥】No.3のみの出土で、頭部は尖り、刃部に向けて直線的に開く。刃部はほぼ円形状に外へ張り出しており、両面から加撃調整が施されている。共伴する土器から後期のものである。

【クサビ形石器】明確な器形に基づくものではない。No.4の1点のみの出土で、両極に剥離痕が見られる。共伴する土器から後期のものである。



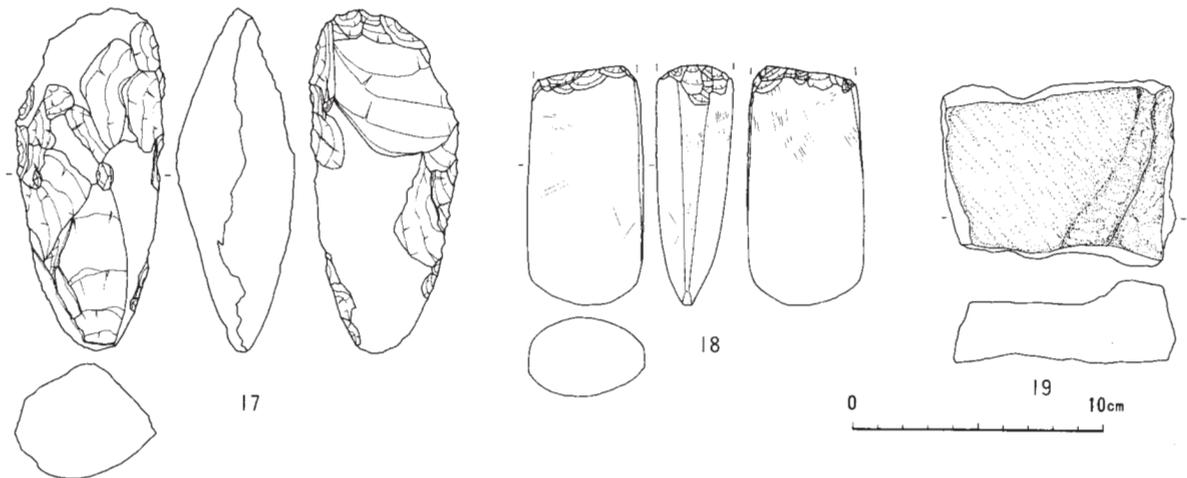
図番号	出土グリッド	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	整理番号	備考
1	Z F-44	II	22	27	6.5	2.5	珪質頁岩	不定形(フレイク)	S-3	
2	Z F-44	II	30.5	29	10	6.8	珪質頁岩	不定形(フレイク)	S-4	
3	Z F-44	II	43.5	36.5	11.5	14.7	珪質頁岩	石筥	S-5	両面加工
4	Z F-44	II	22.5	21	8	3.7	玉髄質珪質頁岩	クサビ形石器?	S-6	両極剥離痕あり
5	Z G-44		36	28	14.5	9.1	玉髄質珪質頁岩	不定形(フレイク)	S-7	

図40 遺構外出土遺物(7)



図番号	出土グリッド	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	整理番号	備考
6	ZG-45	盛土	21	17	5.5	1	玉髄質珪質頁岩	石鏃	S-8	平基有茎
7	ZH-44	盛土	31	11.5	4	0.7	珪質頁岩	石鏃	S-9	平基無茎
8	ZH-44	盛土	19.5	16.5	3	0.9	珪質頁岩	不定形(フレイク)	S-10	
9	ZR-40	II	39.5	47	14.5	23.6	珪質頁岩	不定形(フレイク)	S-16	片面加工
10	ZT-38	II	25.5	13	5	1.2	玉髄質珪質頁岩	石鏃	S-17	凸基有茎
11	ZY-38	III	51.5	22	7	6.6	珪質頁岩	石匙	S-18	縦型
12	AF-37	II	53.5	16	6.5	5	珪質頁岩	石匙	S-21	縦型
13	ZE-43	II	71	49	26	122.2	砂岩	敲石	S-1	使用痕あり
14	ZE-46	II	59	41	10.5	(22.7)	凝灰岩	石鏟	S-2	片面2/3欠損
15	ZI-42	II	94.5	36.5	17.5	85.9	砂岩	磨製石斧	S-11	
16	ZK-41	II・III	(126)	43	26.5	(216.9)	輝緑岩	磨製石斧	S-12	刃部欠損、両面基部に凹みあり

図41 遺構外出土遺物(8)



図番号	出土グリッド	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	整理番号	備考
17	ZL-42		136	59.5	47.5	400.5	砂岩	打製石斧	S-13	
18	ZO-38	盛土	(96)	47	31	(237.8)	ホルンフェルス	磨製石斧	S-14	基端欠損後加工
19	AA-37	II	(74)	(94)	34	(329.4)	安山岩	石皿	S-19	

図42 遺構外出土遺物 (9)

〔不定形石器〕 No.1・2・5・8・9の5点出土した。5点とも、一部に調整痕の見られるフレイク類である。No.1・2は共伴する土器から後期のものであり、No.9は隣接グリッドの同層位出土土器をもとにすると、後期に属するとみられる。

〔敲石〕 No.13ただ1点のみの出土で、長さ7cmと小型で、敲打された痕がみられる。共伴する土器から後期のものである。

〔石錘〕 No.14ただ1点のみの出土で、長さ6cm弱と小型である。共伴する土器から後期のものである。

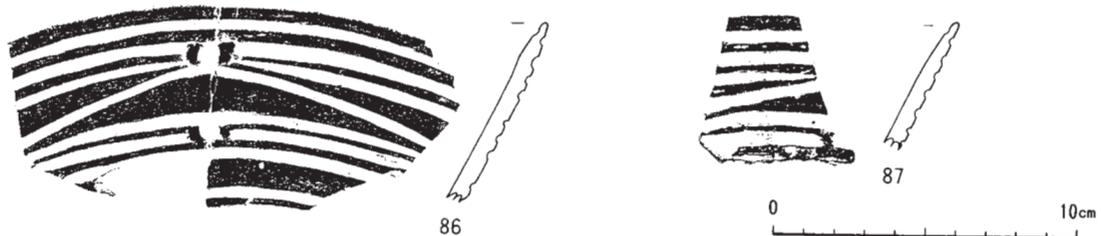
〔磨製石斧〕 No.15・16・18の3点の出土で、最も重いNo.18は小刀で傷つく灰黒色の強靱なホルンフェルスで作られている。No.15・16は、近くの同層位から出土する土器より後期に属するものとみられる。

〔打製石斧〕 No.17のみ1点の出土で、刀部は偏刀で、その両面は非対称に加工されている。

〔石皿〕 No.19のみ1点の出土で、共伴する土器から後期～晩期のものとみられる。前述のように、同グリッド同層位に第1号配石遺構を確認していること等から、それとの関連が十分に考えられる。

(3) 弥生土器 (図43)

砂沢式の浅鉢2点(同一個体)が、ZE-44グリッド第II層より出土した。色調は内外面とも橙色(7.5YR7/6)を呈し、外面には変形工字文が施される。砂沢遺跡から出土する、変形工字文(IV型)のB構成中3単位施文されるものに酷似するものである。胎土は非常に細かく、焼成は良好である。



図番号	出土グリッド	層位	器形	部位	施文	文様	内面	胎土	分類	備考	整理番号
86	ZE-44	II	浅鉢	口縁部~胴部	平縁、変形工字文		横ミガキ	キメ細かい		No.87との同一個体	27
87	ZE-44	II	浅鉢	口縁部	平縁、変形工字文		横ミガキ	キメ細かい		No.86との同一個体	28

図43 遺構外出土遺物 (10)

## 第5章 まとめ

石焼沢遺跡は、馬淵川の右岸にある標高25～31mの段丘面上に立地している。本遺跡からは遺構は検出されず、少量の縄文時代の遺物が出土しただけであった。出土した土器のほとんどは縄文時代後期十腰内Ⅰ式期のものである。今回の発掘調査区域は遺跡の主要部から外れていたものと思われる。なお、発掘調査区域の南南西端には規模の小さい埋没谷があり、ここに2本のトレンチを設定したが遺構・遺物は認められず、発掘調査は不要と判断した。また、北北東端に位置する急斜面（崖）及びその下の谷底平野についても、地形的に遺構の検出は考え難く、遺物の表採等もないことから同様の判断をした。

西張(3)遺跡は、馬淵川の右岸にある標高19～28mの段丘の縁に立地している。平成6年度は試掘調査が、また、北東に隣接する西張(3)遺跡3,900㎡の本調査がそれぞれ実施された。試掘調査では、本遺跡の調査区域に当る、村道部分及び林地から縄文時代後期の遺物が出土し、時期不明の土坑を数基検出している。また、本遺跡より約200m北北東の畑地の一部からは、晩期の遺物・遺構を若干認めている。平成6年度の本調査では、遺物・遺構を若干確認し、縄文時代早期・前期・後期、古代～中世及び近世以降にわたる遺跡であることが判明した。

本遺跡でも、縄文時代早期の遺物が中礫浮石を含む黒褐色土層の下から若干ではあるが出土した。隣接する西張(3)遺跡からも早期とみられる住居跡や同期の典型的な遺物を僅少確認しており、本遺跡の北側段丘面にも早期の住居跡群の存在が推定される。ただ、残念ながら、本遺跡北は開田によりかなりの面積が削平されており、原地形を留めない。

また、縄文時代の土坑群並びに溝状ピット群の存在から、本遺跡は狩猟の場等としても使われたようで、これらに係る住居跡群もこの付近に存在するものとみられる。その主要な時代は、出土遺物等に基づき後期と考えられる。

なお、平成8年に調査された西張(2)遺跡(本遺跡北北東約400m)では、早期中葉白浜式期の集落と、十腰内Ⅱ～Ⅲ式を中心とする後期の集落が営まれていたことが判明しており、従来の調査結果との整合性を裏付けている。

最後に、西張(3)遺跡においては、段丘面の縁を利用した、全長95m、幅2.8～11.1m、深さ1.9～6.5mの濠跡の検出が特筆に値しよう。この濠を有する段丘は馬淵川の右岸10数メートルまで舌状に張出しており、隣接の西張(3)遺跡の調査結果とも照らし合せると、濠の主要部は、この舌状の段丘を巧みに利用しているものと推測される。近くには法師岡館や平館等があることから、本濠跡もこれら館跡と何らかの関係の有するものであろう。

(調査担当者一同)

### 引用・参考文献

- 1 青森県教育委員会 『青森県遺跡地図』 1992

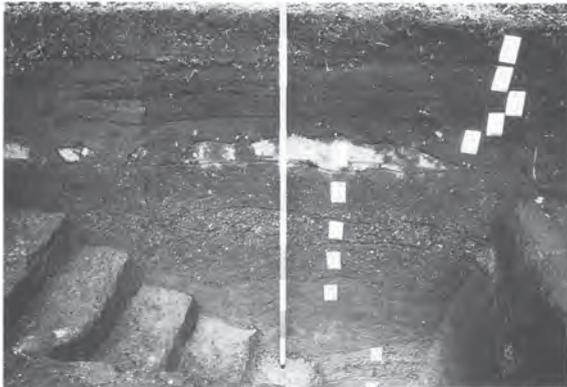
- 2 青森県教育委員会 『青森県遺跡詳細分布調査報告書VI』青森県埋蔵文化財調査報告書第165集  
1994
- 3 // 『青森県遺跡詳細分布調査報告書VIII』青森県埋蔵文化財調査報告書第201集  
1996
- 4 // 『畑内遺跡 I』 青森県埋蔵文化財調査報告書第161集 1994
- 5 // 『日渡遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第162集 1994
- 6 // 『野尻(2)遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第172集 1995
- 7 // 『西張(3)遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第197集 1996
- 8 // 『上蛇沢(1)遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第198集 1996
- 9 // 『福地村西張(2)・(3)遺跡試掘調査概要』(MS) 1995
- 10 // 『西張(2)遺跡発掘調査概要』(MS) 1996
- 11 弘前市教育委員会 『砂沢遺跡発掘調査報告書』 1991
- 12 沼舘愛三 『南部諸城の研究』 1981
- 13 青森県教育委員会 『図説 ふるさと青森の歴史―大地から甦った祖先の足跡―総括編』  
1990
- 14 // 『北の誇り・亀ヶ岡文化―縄文時代晩期編』 1991
- 15 // 『青い森の縄文人とその社会―縄文時代中期・後期編』 1992
- 16 麻生 優・白石浩之 『縄文土器の知識 I―草創・早・前期―』(東京美術) 1986
- 17 藤村東男 『縄文土器の知識 II―中・後・晩期―』(東京美術) 1984
- 18 鈴木道之助 『図録・石器入門事典〈縄文〉』(柏書房) 1991
- 19 潮見 浩 『図解技術の考古学』(有斐閣選書) 1988



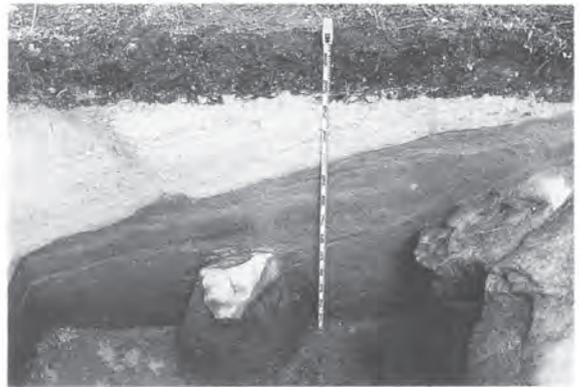
石焼沢遺跡作業風景（北北東から）



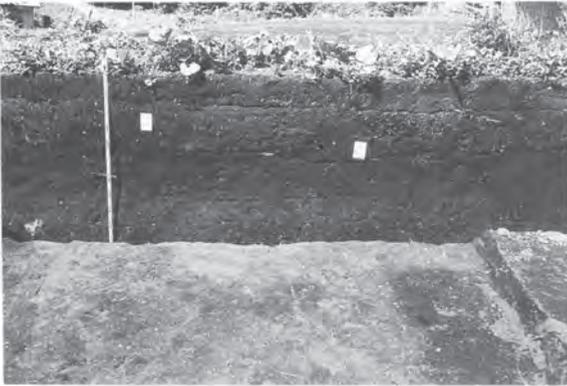
調査区域全景（南から）



基本層序（A-16グリッド東壁）



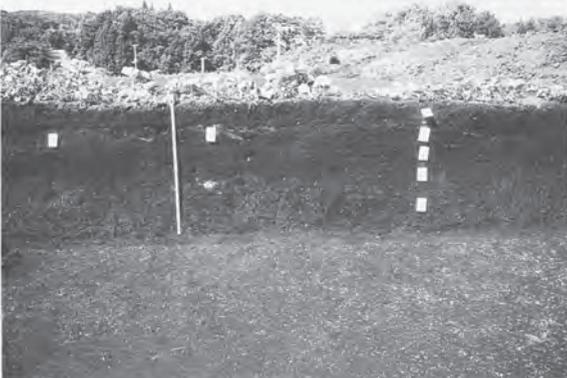
基本層序（A・B-6グリッド東壁）



IIライン土層No.1（南から）



IIライン土層No.2（南から）



IIライン土層No.3（南から）



IIライン土層No.4（南から）

写真1 石焼沢遺跡作業風景、基本層序・土層



IIライン土層No.5 (南から)



IIライン土層No.6 (南から)



遺物出土状況 (D-12グリッド)



遺物出土状況 (H-10グリッド)

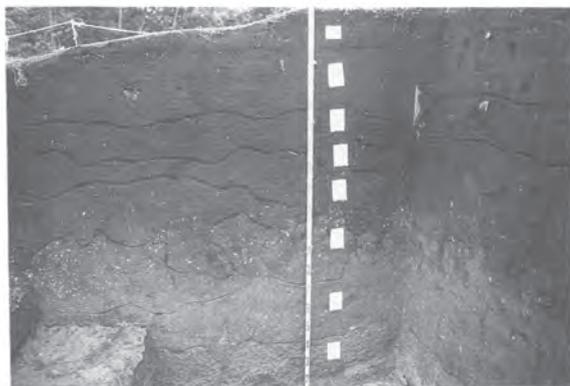


西張(3)遺跡作業風景 (東から)

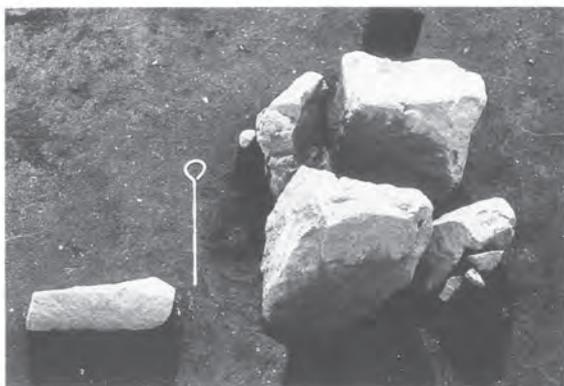


作業風景 (西から)

写真2 石焼沢遺跡遺物出土状況、西張(3)遺跡作業風景



基本層序 (ZV-39グリッド南壁)



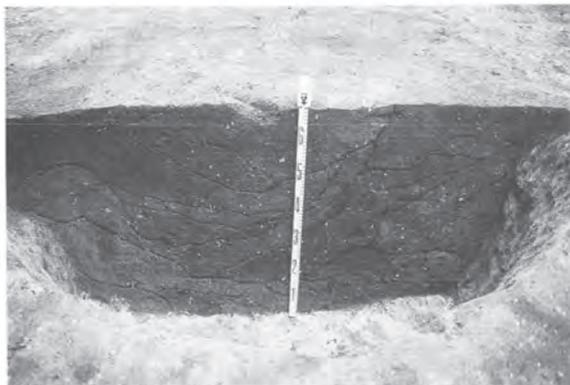
第1号配石遺構



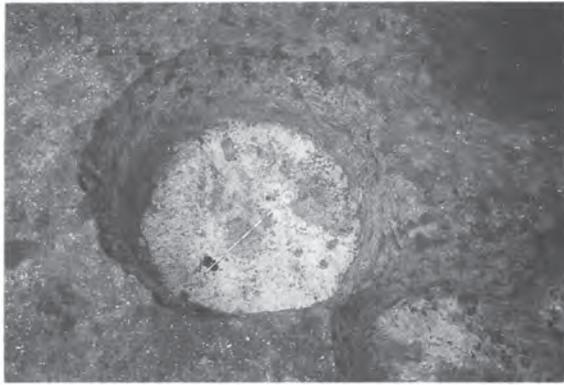
第1号土坑 (完掘)



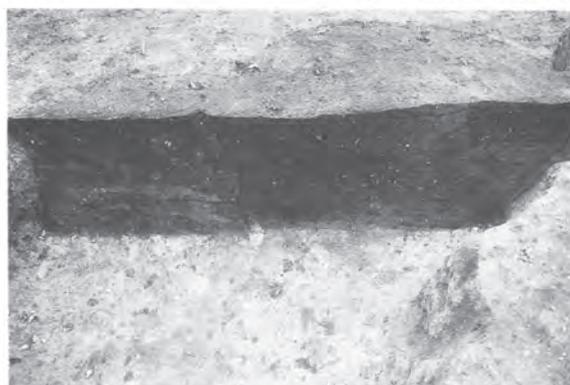
第2号土坑 (完掘)



第3号土坑 (セクション)



第3号土坑 (完掘)



第4号(右)・5号(左)土坑 (セクション)

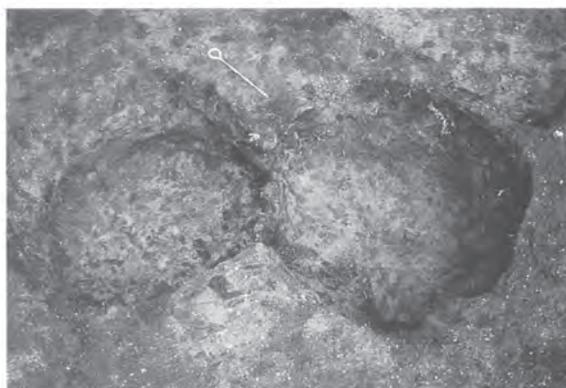


第4号(左)・5号(右)土坑 (完掘)

写真3 西張(3)遺跡検出遺構 (1)



第3・4・5号土坑 (完掘)



第6号(左)・7号(右)土坑 (完掘)



第8号土坑 (セクション)



第8号土坑 (完掘)



第9号土坑 (セクション)



第9号土坑 (完掘)



第10号土坑 (セクション)

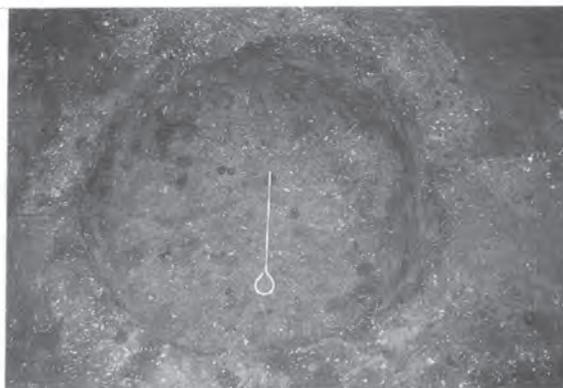


第10号土坑 (完掘)

写真4 西張(3)遺跡検出遺構(2)



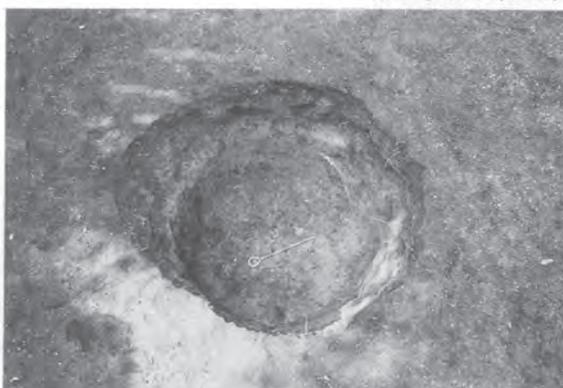
第11号土坑 (セクション)



第11号土坑 (完掘)



第12号土坑 (セクション)



第12号土坑 (完掘)



第13号土坑 (セクション)



第15号土坑 (セクション)



第15号土坑 (遺物出土状況)



第15号土坑 (完掘)

写真5 西張(3)遺跡検出遺構(3)



第1号溝状ピット (完掘)



第2号溝状ピット (セクション)



第3号溝状ピット (完掘)



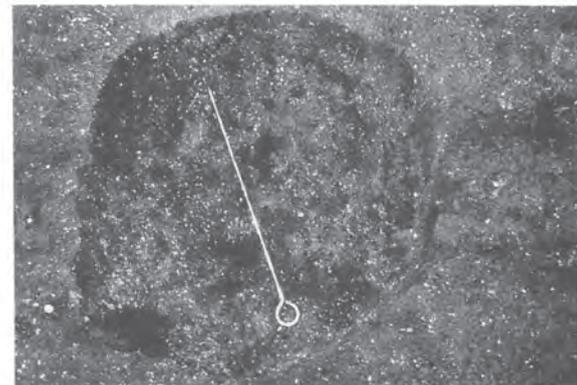
第2号溝状ピット (完掘)



第5号溝状ピット (セクション)



第4号溝状ピット (完掘)



第14号土坑 (完掘)

写真6 西張(3)遺跡検出遺構(4)



第1号(左)・2号(右)濠跡 (完掘、西から)



第1号濠跡 (完掘、北西から)



第1号濠跡 (完掘、北西から)



第1号濠跡 (完掘、南東から)



作業風景 (第1号濠跡、北西から)



第1号濠跡 (完掘、北西から)

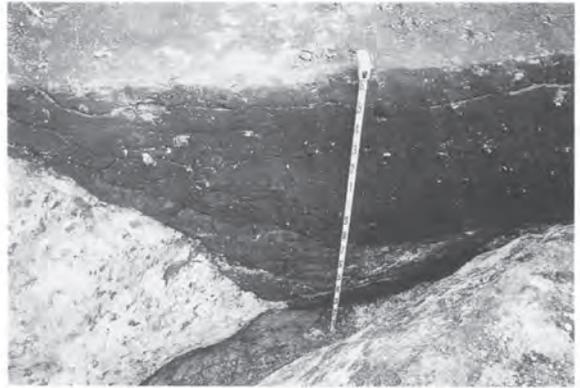


第1号濠跡 (完掘、南東から)

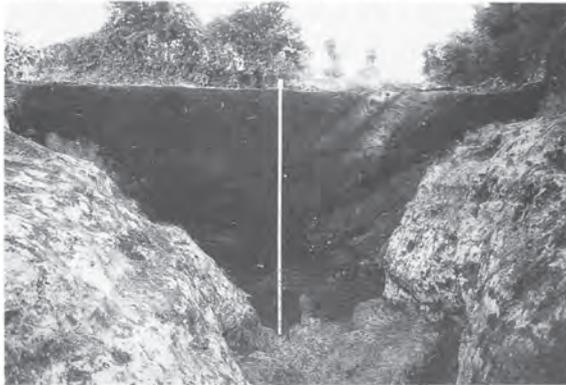
写真7 西張(3)遺跡検出遺構(5)



第1号濠跡 (セクション、AM~ANライン間—北西から)



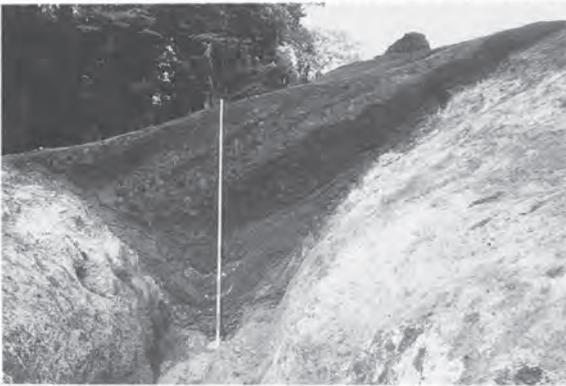
第2号濠跡 (セクション、AM~ANライン間—南東から)



第1号濠跡 (セクション、AM~ANライン間—西から)



第1号濠跡 (セクション、AD~AEライン間—西から)



第1号濠跡 (セクション、ZW~ZXライン間—南東から)



AD-38グリッド土層 (西から)

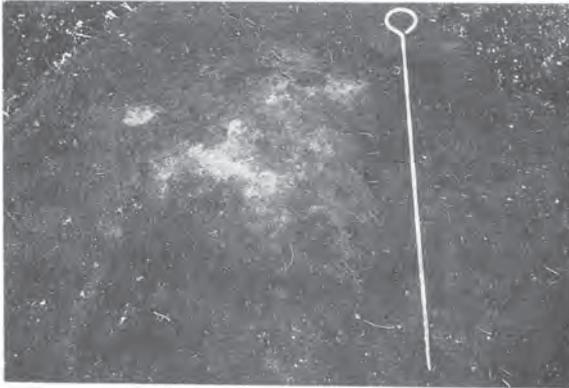


ACライン土層 (第1号濠跡北側、東から)



ZZライン土層 (第1号濠跡北側、西から)

写真8 西張(3)遺跡検出遺構(6)



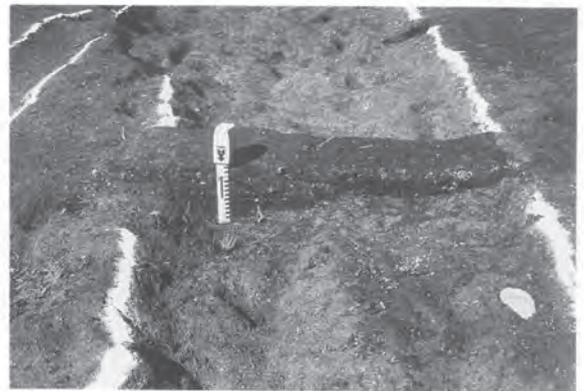
第1号捨て焼土遺構(確認面)



第1号溝跡(完掘、北から)



第2号溝跡(完掘、北西から)



第3号溝跡(セクション)



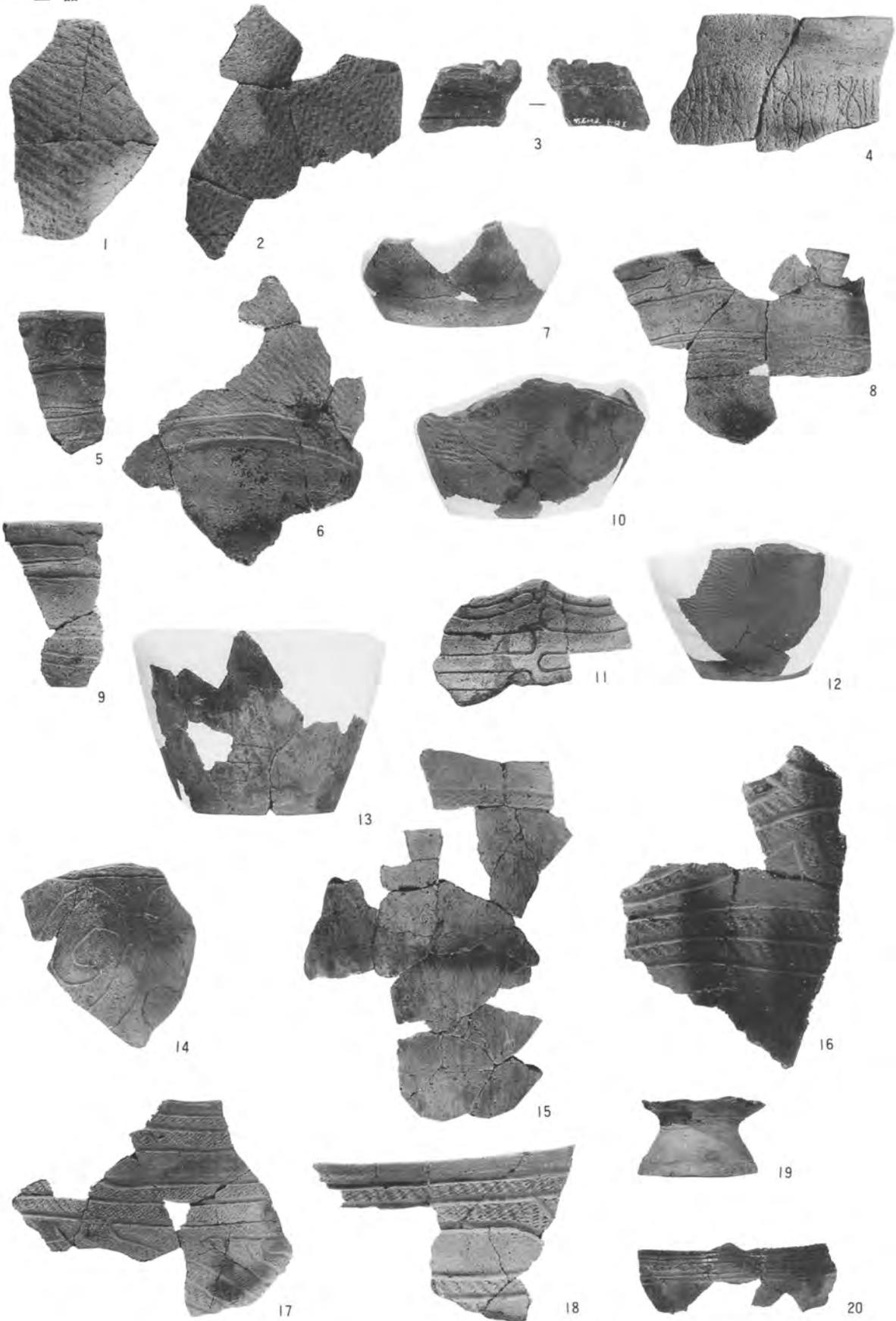
第3号溝跡(完掘、北東から)



第4号溝跡(完掘、北西から)

写真9 西張(3)遺跡検出遺構(7)

— 土器 —



(7・8・10・12・13・15・17・19・20—縮尺29/100、ほかは19/50)

写真10 石焼沢遺跡出土遺物(1)

— 石器 —

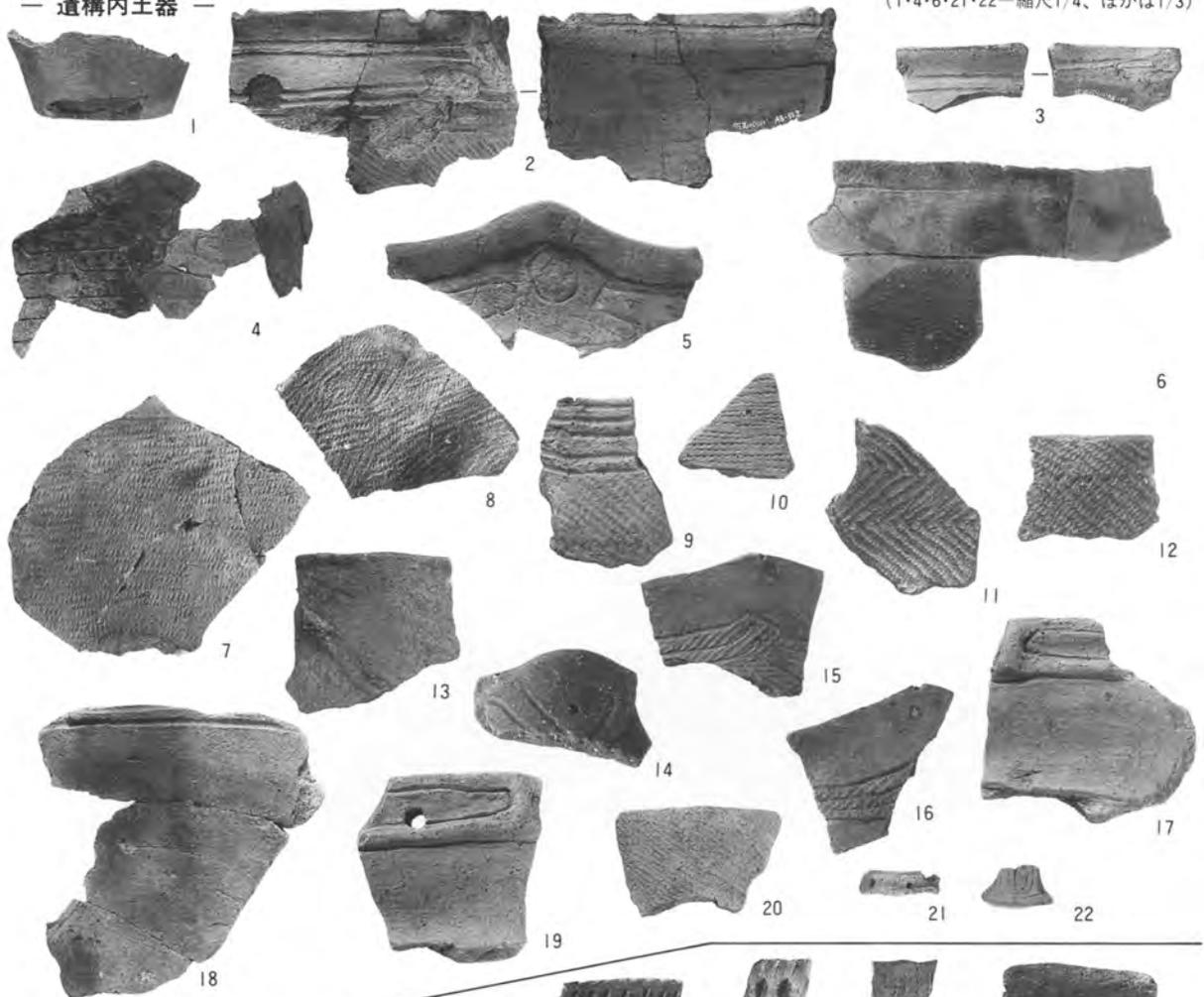
(15—縮尺1/2、ほかは1/1)



写真11 石焼沢遺跡出土遺物 (2)

— 遺構内土器 —

(1・4・6・21・22—縮尺1/4、ほかは1/3)



— 遺構外土器 —

(8・11-13—縮尺1/4、ほかは1/3)

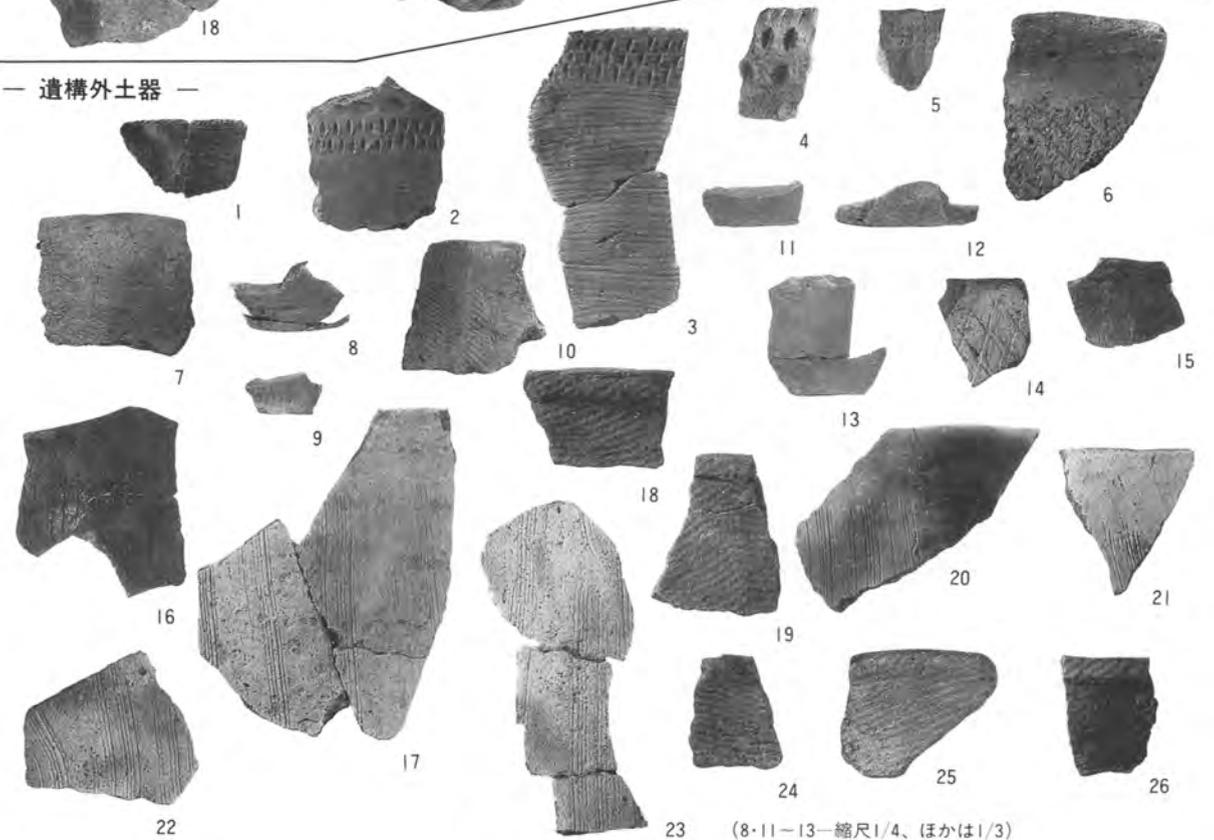
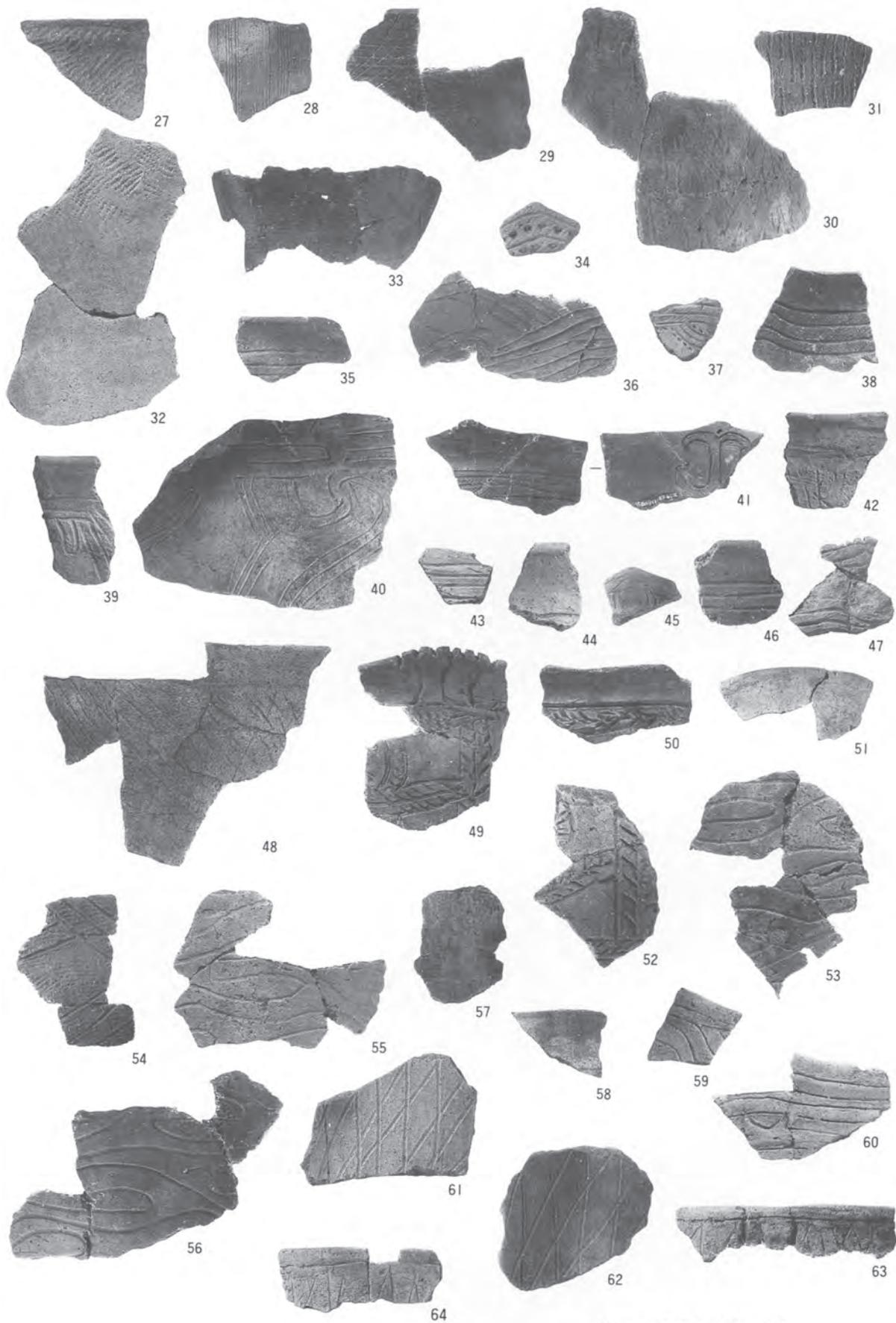
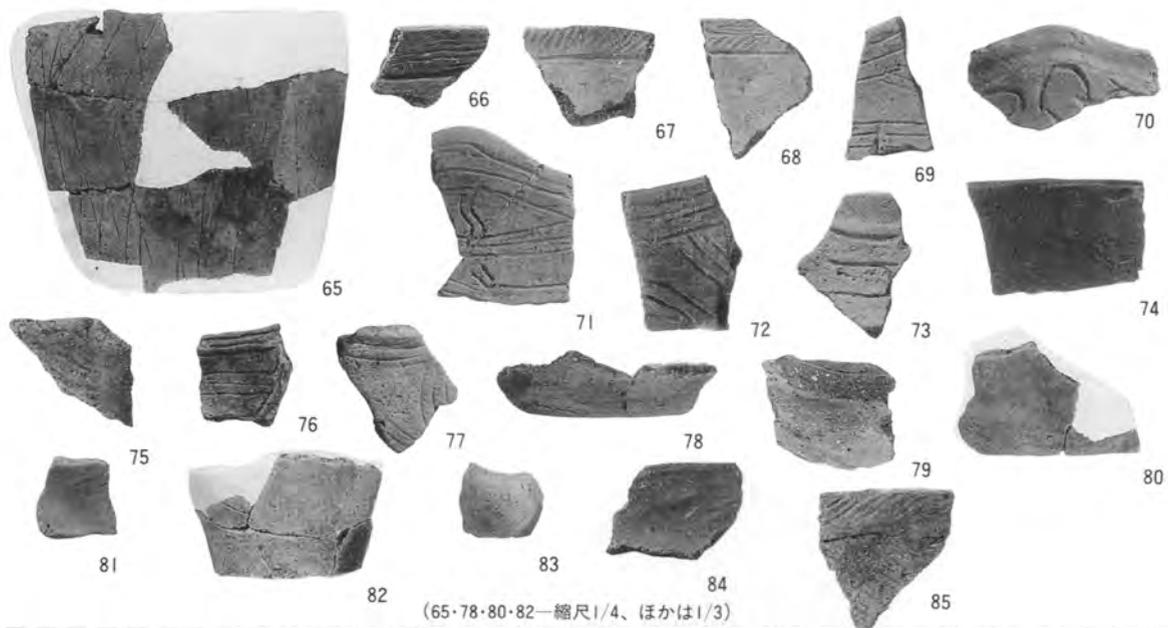


写真12 西張(3)遺跡出土遺物 (1)

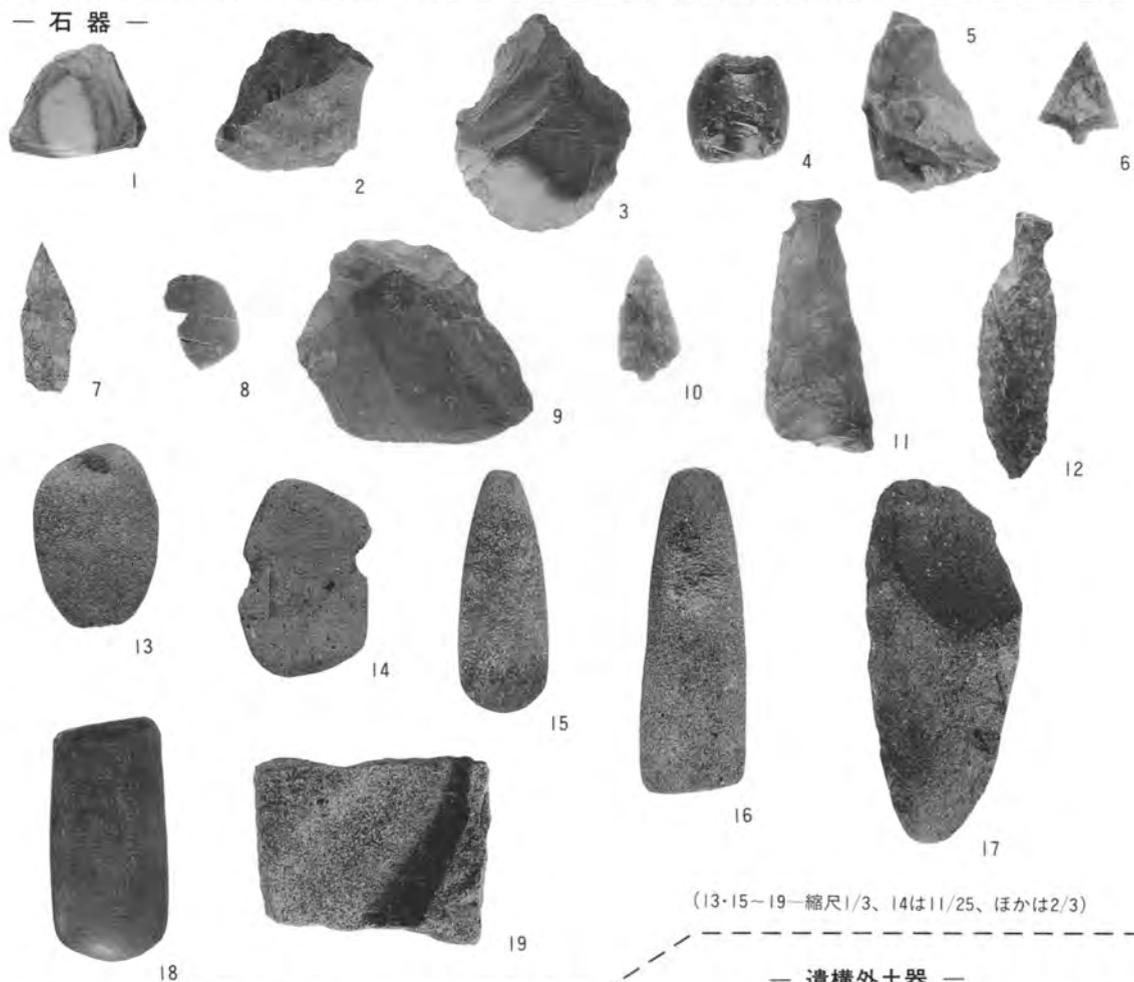


(33・48—縮尺1/4、ほかは1/3)

写真13 西張(3)遺跡出土遺物(2)



— 石器 —



— 遺構外土器 —



写真14 西張(3)遺跡出土遺物(3)

## 報告書抄録

ふりがな	いしやきざわ にしはり							
書名	石焼沢・西張(3)遺跡							
副書名	東北新幹線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告							
シリーズ名	青森県埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第 213 集							
編著者名	伊藤 昭雄							
編集機関	青森県埋蔵文化財調査センター							
所在地	〒 038 青森県青森市大字新城字天田内152-15 TEL 0177-88-5701							
発行年月日	西暦 1997年 3月 31日							
所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号					
いしやきざわ 石焼沢遺跡	あおもりけんさんのへぐんふくちむら 青森県三戸郡福地村 おおあごごみわたりあざしもとくぼ 大字坵渡字下外窪 ほか 5-10、外	02-447	64035	40度 27分 35秒	141度 24分 21秒	19950703 ～ 19950830	2,500	東北新幹線建設工事に伴う 事前調査
にしはり 西張(3)遺跡	あおもりけんさんのへぐんふくちむら 青森県三戸郡福地村 おおあごほうしおかあざいどうの 大字法師岡字大道ノ ほか 下27-4、外	02-447	64034	40度 27分 42秒	141度 24分 24秒	19950831 ～ 19951102	2,300	〃
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
石焼沢遺跡	散布地	縄文時代	なし		縄文時代後期 <土器>十腰内I式(深鉢・浅鉢・鉢) <石器>石鏃・不定形・磨製石斧			
西張(3)遺跡	狩猟地	縄文時代 早期～前期	溝状ピット	1基	縄文時代早期 <土器>白浜・小舟渡平式(尖底深鉢) <石器>石匙			
	狩猟地	中期～後期	土坑	14基	縄文時代後期 <土器>十腰内I式(深鉢) <石器>石鏃・石匙・石篋・クサ			
		後期～晩期	配石遺構	1基	ヒ型石器			
		弥生時代以降	土坑	1基	弥生時代			
		〃	溝跡	4条	<土器>砂沢式(深鉢)			
	館跡	古代以降	濠跡	2条				
		〃	捨て焼土遺構	1基			全長95m、幅2.8～11.1m、 深さ1.9～6.5mの濠跡	

青森県埋蔵文化財調査報告書第213集

## 石 焼 沢 ・ 西 張 (3) 遺 跡

—東北新幹線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告—

発行年月日 平成9年3月31日

発 行 青森県教育委員会  
〒030 青森市新町二丁目3-1

編 集 青森県埋蔵文化財調査センター  
〒038 青森市大字新城字天田内152-15  
TEL 0177-88-5701 FAX 0177-88-5702

印 刷 株式会社 誠 工 社  
〒030-01 青森市大字八ツ役字上林78-42  
TEL 0177-29-1611 FAX 0177-29-1188